

# 「政治・経済」の授業評価

熊田 亘

2004 年度から、「政治・経済」(3 年生・必修)の授業終了後、生徒を対象に「授業評価アンケート」を実施している。以下、その概要と結果を、今年度のそれを中心に報告し、若干のコメントを付したい。

## 1 授業評価アンケートの概要

### (1) 実施日時

本校の3年生は、12月第2週まで授業があり、引き続き学年末考査、その後は自宅研修期間に入る。

授業評価アンケートは、授業の印象がなるべく薄れないうちの方がよいが、一方、授業中に行うことは、授業時数が乏しいため極力避けたい。また、授業者(私)の存在が評価に影響を及ぼすことがないとは限らない。

そこで例年は12月か1月の集会(3学期制の学校の、2学期終業式と3学期始業式にあたる)の後のホームルームでアンケートを実施している。ただし今年度については、少し前倒して学年末考査最終日の実施となった。

### (2) 実施方法

3年各クラスの担任にアンケートの実施・回収をお願いしている。アンケート回答に要する時間は5～10分程度である。

上記の方法をとっているため、アンケート回収率は100%近い。

### (3) アンケート内容(巻末の【資料1】参照)

全22問、いずれも選択式で、匿名で回答してもらっている。

【問1】～【問2】は、所属クラス・性別。

【問3】以降は5択式である。

【問3】～【問6】は、回答者自身の授業への向き合い方を尋ねている。

授業のうち、教師の講義・資料説明を聞いていたか(【問3】)、個人や班での演習に参加したか(【問4】)、さらに授業外で(発展的な)学習を行ったか(【問5】)、そして最後に、受講態度全般を自己評価してもらっている(【問6】)。

【問7】～【問22】が授業についての設問で、「話の聞きとりやすさ(【問7])」「黒板の使い方(【問8])」「授業計画<sup>\*1</sup>との適合度(【問9])」「授業の難易度(【問10])」「授業のまとめ(【問11])」「授業内容への興味の度合い(【問12])」「説明のわかりやすさ(【問

---

\*1 最初の授業で年間授業計画や評価の方法(成績のつけ方)などを示している。

13)」「授業の進行速度 (【問 14])」「資料 (プリント) のわかりやすさ (【問 15])」「資料 (プリント) の配布頻度・量 (【問 16])」「講義・資料説明と演習のバランス (【問 17])」「教員の授業に対する熱意 (【問 18])」「生徒の授業参加をうながしたか (【問 19])」「生徒の質問への対応 (【問 20])」「授業の有益さ (【問 21])」と続き、最後に、授業への満足度を尋ねている (【問 22])<sup>\*2</sup>。

## 2 2009年度の授業評価アンケート結果より

2009年度は、12月14日(学年末考査最終日)に授業評価アンケートを実施した。

回答数は238名(授業を受けた生徒は245名)。回収率は97.1%である。

### (1) 集計結果

【問 3】～【問 22】の結果を表1に示す。

表 1

質 問	1 を 選ん だ人	2 を 選ん だ人	3 を 選ん だ人	4 を 選ん だ人	5 を 選ん だ人	評価 の 平均	
【問 3】 講義・資料説明への参加度	75	113	42	7	1	4.07	
【問 4】 演習への参加度	78	112	40	5	3	4.08	
【問 5】 授業外での学習	9	47	102	66	14	2.88	
【問 6】 受講態度全般	23	92	102	18	2	3.49	
【問 7】 話の聞きとりやすさ	130	96	10	2	0	4.49	
【問 8】 黒板の使い方	26	78	115	18	1	3.46	
【問 9】 授業計画との適合度	38	113	75	10	0	3.76	
【問 10】 授業の難易度	15	95	123	4	1	3.5	※
【問 11】 授業のまとめ	89	119	27	2	1	4.23	
【問 12】 授業内容への興味の度合い	119	94	23	2	0	4.39	
【問 13】 説明のわかりやすさ	105	103	27	3	0	4.30	
【問 14】 授業の進行速度	6	36	179	15	2	3.12	※
【問 15】 資料のわかりやすさ	28	129	72	8	1	3.74	
【問 16】 資料の配布頻度・量	9	57	166	5	1	3.29	※
【問 17】 講義等と演習のバランス	7	57	165	9	0	3.26	※
【問 18】 教員の熱意	94	118	23	3	0	4.27	
【問 19】 授業参加へのうながし	30	93	86	26	3	3.51	
【問 20】 生徒の質問への対応	43	122	72	1	0	3.87	
【問 21】 授業の有益さ	133	88	17	0	0	4.49	
【問 22】 授業の満足度	108	105	21	2	2	4.32	

\*2 このアンケートは、私が2003年度に非常勤講師を勤めた大学で実施されていたものを参考に、私の授業スタイルに合わせて修正を加えたもので、2004年度以来ずっと使っている。毎年、設問を絞ったり、自由記述欄を設けたりということを考えるのだが、経年変化を見るために設問を変えたくないことなどから踏み切れていない。

それぞれ、5 択の回答のうち、基本的には、1 が最も評価が高く、5 が最も低い。

ただし、※印の問は、例えば【問 10】が、「1 とても難しかった 2 難しかった 3 普通である 4 易しかった 5 とても易しかった」となっているように、5 が高い評価とは言えない問である。

また、評価の平均とあるのは、

$(「1 を選んだ人」 \times 5 + 「2 を選んだ人」 \times 4 + \dots + 「5 を選んだ人」 \times 1) \div \text{回答数}$

の値である。例えば、1（最も高い評価）を選んだ人数と 2 を選んだ人数がちょうど半々であれば、評価の平均は 4.5 となり、全員が 5（最も低い評価）を選べば 1 になる。

このアンケートの 1 ～ 5 は順位尺度であるので、このような計算には問題があるが、ざっくりとした評価のための手がかりとはなるだろう。

## (2) アンケート結果全般へのコメント

### ア 授業への向き合い方について

講義・資料説明についても演習についても、生徒は、自分たちの授業に向き合う姿勢をおおむね高く評価している。確かに、高校 3 年生—受験生、しかも大学入試で「政治・経済」を使わない生徒が半分以上を占めるという現状を考えれば、本校生徒は、積極的に「政治・経済」の授業に取り組んでいると言えよう。ただ、私語や居眠りや内職にイライラすることが皆無とは言えず、生徒の自己評価は、私から見ると若干甘く感じられる。

一方、授業の内容をみずからさらに深めようと、授業外の場で本を読んだりする取り組みは（相対的には）弱いことが窺える。もっとも、これは受験生であるという条件によって制約されているのかもしれない。

【問 3】【問 4】への高評価に比べると、【問 6】に示される受講態度全般の評価は高くない。【問 5】の結果に影響されているのかもしれない（「そうか、『政経』は授業以外でも勉強しなくちゃいけなかったのか。それはやらなかったな」というように）。

### イ 授業について

評価の平均を見ると、【問 8】【問 19】の低さが目につく。

【問 8】は毎年評価が低い項目である。そもそもプリント中心の授業で、系統だった板書をしないということはあるにせよ、自分の字の汚さは痛感しており、少なくとも丁寧に板書することを心がけることは必要だと自戒している。

【問 19】については、講義・資料説明の時、ほとんど私が話しっぱなしになっている点で評価が下がっているのだろう。

生徒と問答を重ねることで講義を深めてていければよいのだが、限られた授業時数で一定の内容を取りあげようとする、なかなか生徒とのやりとりの時間が確保できない。なにしろ年に約 40 時間である。

それでも、より授業内容を精選して、生徒とのやりとりに時間を割くことは課題である。

授業の難易度についてはどうだろうか。【問 10】の結果からは、生徒の半分弱が、私の授業を「とても難しかった」「難しかった」と評価していることが分かる。

ただ、ここで注意しなければならないことは、授業内容の難しさは、必ずしも授業に否定的になることにつながらないということである。【問 22】の結果をあわせて考えると、

生徒は「授業は難しいけれど（あるいは、難しいからこそ）満足」という評価を下しているとも考えられる。日々の実感からしても、本校生の場合、易しすぎる授業をすることに対しての方が、難しすぎる授業をすることに対してより抵抗が多いように思われる。

#### ウ クラスごとの総合評価

【問 22】は、いわば私の「政治・経済」の授業への総合評価である。これが、今年度担当した6クラスでどうであったかを表2にまとめた。

表2

	とても満足	満足	普通	不満	とても不満	計	評価の平均	評定平均
α組 <sup>*3</sup>	17	18	3	0	0	38	4.37	3.57
β組	16	18	4	1	1	40	4.18	3.41
γ組	22	13	3	0	0	38	4.5	3.48
δ組	18	17	6	1	0	42	4.24	3.40
ε組	13	23	3	0	1	40	4.18	3.3
ζ組	22	16	2	0	0	40	4.5	3.38
男子	46	55	13	2	2	118	4.19	
女子	62	50	8	0	0	120	4.45	
計	108	105	21	2	2	238	4.32	

学年全体としては、「とても満足」「満足」がそれぞれ約45%、「普通」が約9%、「不満」「とても不満」がそれぞれ1%弱ということである。

いま自分がアンケートに答える生徒だったのだろうかと考えると、「5 とても不満」「4 不満」と答えるのは（たとえ無記名であっても）ちょっと“勇気”がいる。

『政経』イマイチだったなあ」という生徒で「3 普通」、「まあ悪くはないか」という生徒で「4 満足」あたりを選ぶのではなかろうか（このことは、教育実習生に対する生徒の評価が実に優しいことから想像される）。

とすれば、5段階とは言え、「評価の平均＝4」を標準と考えるぐらいが適当であろう。そう考えると、今年度の4.32という評価は、優・良・可で言えば可というところか（経年変化については後述する）。

クラスによってメンバーが異なるのだから不思議はないのだが、同じ授業内容・方法で進めていても（冗談や余談すら同じように話していても）クラスごとに評価が異なることには驚かされる。教師の仕事の「不確実性」を象徴するようなデータである。

果たしてこのようなクラスによる評価の違いはどこからくるのだろうか。

例えば、「政治・経済」の（教員が生徒につける）成績との関係はどうか。

このアンケートは無記名なので、個々の生徒の成績と満足度の関係を調べることはでき

\*3 α組～ζ組は1～6組とそのままには対応していない。

ない。そこで便宜的に、クラスごとの学年末の評定平均を表 2 の右に並べてみた。

これを見る限り、(生徒の私に対する) 評価の平均と、(私が生徒につけた) 評定平均との間に緩やかな関係はありそうである。

ただ、その場合も、授業への満足度が高いので(授業に熱心に取り組み、その結果) テスト等でも好成績をあげたのか、逆にテストの結果等が良いから、授業の満足度が高いのか、簡単に因果関係で説明することは難しい。

私が感じている授業中の雰囲気(生徒の反応のあり方) との関係も微妙である。

演習へ積極的に参加し、講義・説明への反応も活発なクラスで満足度が高いかという点も必ずしもそうでもない。しつとりと落ち着いたクラスの方が満足度が高いという印象もある。また、そもそも高校 3 年生の場合、夏休み前と秋以降では授業に対するクラスの雰囲気がかなり変わってくる。春先、最も真面目に授業に取り組んでいたクラスで、秋以降、受験のための内職が横行するという事もないわけではない。

女子の評価が男子より高いのは、私の授業が“女子向き” だったということでは決してなく、「女子は従順であれ」というような、ジェンダー・バイアスのかかった社会意識が生徒の回答に反映されていると考える方が妥当に思われる。

### (3) 授業に不満を持つ生徒について

【問 22】 について、「不満」を選んだ生徒が 2 名、「とても不満」を選んだ生徒が 2 名いた。そこで、彼らの不満の原因を探ってみたい。

この 4 名のデータを表 3 に示した。

表 3

質 問	評価 の 平均	評 価				
		A	B	C	D	
【問 3】 講義・資料説明への参加度	4.07	2	3	1	3	
【問 4】 演習への参加度	4.08	2	3	1	2	
【問 5】 授業外での学習	2.88	3	4	1	5	
【問 6】 受講態度全般	3.49	3	4	5	3	
【問 7】 話の聞きとりやすさ	4.49	3	1	1	2	
【問 8】 黒板の使い方	3.46	3	3	1	3	
【問 9】 授業計画との適合度	3.76	4	1	1	2	
【問 10】 授業の難易度	3.5	2	2	5	1	※
【問 11】 授業のまとまり	4.23	3	2	1	5	
【問 12】 授業内容への興味の度合	4.39	3	2	1	1	
【問 13】 説明のわかりやすさ	4.30	3	2	1	3	
【問 14】 授業の進行速度	3.12	1	3	5	3	※
【問 15】 資料のわかりやすさ	3.74	3	3	1	3	
【問 16】 資料の配布頻度・量	3.29	2	3	5	3	※
【問 17】 講義等と演習のバランス	3.26	3	3	3	1	※

【問 18】 教員の熱意	4.27	2	2	1	2
【問 19】 授業参加へのうながし	3.51	3	4	5	1
【問 20】 生徒の質問への対応	3.87	3	3	1	3
【問 21】 授業の有益さ	4.49	3	2	1	3
【問 22】 授業の満足度	4.32	4	4	5	5

Cくんについては比較的理解しやすい。彼は、表に網掛けをした通り、この授業が「とても易しく」、進行速度は「遅すぎ」、資料の配付頻度・量は「少なすぎ」、授業参加を「うながされなかった」と感じている。「もっと密度が濃くスピーディで、かつ、生徒参加型の授業をしてほしかった」ということなのだろう。

もっとも、Cくんについては【問 3】～【問 5】で高い評価をしながら【問 6】で自分の受講態度は「とても悪い」としていたり、【問 21】で授業は「とても有益だった」としながら、【問 22】で授業について「とても不満」としているように、理解しがたい部分が残る。

Aくんは、Cくと逆に、授業が「難しく」、進行速度が「速すぎ」、資料の配付頻度・量は「多かった」としている。また、Dくんの場合、授業が「とても難しかった」と授業のまとまりが「とても悪かった」こと、さらに「講義・資料説明が多すぎる」ことが「とても不満」の原因のようである。

授業の難易度ひとつをとっても、Aくと、Cくん・Dくんの三者を同時に満足させる授業改善は難しい。

Bくんに至っては、個別の項目に対しては突出した回答をしていないにもかかわらず、総合的には「不満」を感じている。このような択一式アンケートで彼の不満の原因をさぐるのには限界がある。

さらに言えば、高校生の場合、授業そのものと授業担当教師を区別して授業を評価できるかどうか疑問が残る。つまり、上記の4名が、授業内容以外の面で（例えば、授業に遅刻してきて私に文句を言われた）、あるいは授業とはまったく無関係に（例えば、彼らの部が、その活動時間を守らず、週番教員をしていた私から叱責された）、私にいい感情を抱いていなかったことが上のような評価に結びついた可能性も排除できない。

それはまた、肯定的な評価についても同様であろう。「『政経』の授業つまらなかったけれど、3年間、部活で世話になったから『満足』にしておこうか」というような反応はありそうな話である。

### 3 経年変化

このアンケートは、2004年度から実施している。そこで、各年度・各クラスごとに、【問 22】＝授業への満足度の評価の平均を比べてみたのが表4である。<sup>\*4</sup>

---

\*4 各年度・各クラスの【問 22】への回答の分布は巻末の【資料 2】に示した。

表 4

	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
α組	3.88	4.33	4.34	4.38	4.44	4.37
β組	4.31	4.56	4.26	4.55	4.59	4.18
γ組	4.5	4.5	4.42	4.58	4.06 <sup>*5</sup>	4.5
δ組	4.31	4.18	4.38	4.59	4.56	4.24
ε組	4.06	4.74	4.38	4.56	4.49	4.18
ζ組	4.27	4.3	4.45	4.64	4.19	4.5
男子	4.12	4.33	4.24	4.47	4.28	4.19
女子	4.33	4.53	4.50	4.64	4.49	4.45
不明 <sup>*6</sup>		3			5	
全体	4.22	4.42	4.37	4.55	4.39	4.32
回収率(%)	79.4 <sup>*7</sup>	95.4	94.1	96.7	92.2	97.1

表 4 によれば、残念ながら今年度の生徒の、「政治・経済」の授業への満足度は 2005 年以降では最も低かったことが分かる。

私なりにその原因を考えると、

- 1 今年度は 1 学年の担任で、生徒との関係づくりで重要な年度初めに、担任クラスのことを優先して「政治・経済」の授業への取り組みが手薄になったこと（最初の授業が、入学オリエンテーションと重なって、自習になってしまったクラスもあった）
- 2 今年度は、例年よりさらに授業時数が少なく、“定番”の（生徒の評判のいい）授業のいくつかをあきらめたり、授業の進め方を急いだこと
- 3 ここ数年、ほぼ同じ教育内容・教材で授業をしているため、私の方に慣れが生じてしまって、授業への気迫が欠けてきていること
- 4 生徒との年齢差が次第に広がってきていること  
などが挙げられよう。いずれも来年度に向けての課題である。

さて、この授業評価アンケートを始めて以来、データとともに、その時点での考察や反省を簡単なメモの形で残してきた。

その一部を再現すると、

\*5 このクラスでは、問には答えず、その代わりに私のテスト問題について「過去の問題と酷似していて（過去問をやった生徒とそうでない生徒の間で）不公平である」という趣旨の痛烈な批判を回答用紙いっぱい書いてきた生徒がいた。その生徒はおそらくは「とても不満」であろうことを考えると、このクラスの値は下方修正されなければならないだろう。

\*6 2005 年度と 2008 年度には、性別欄未記入の生徒がそれぞれ 1 名いた。

\*7 授業評価初年度は担任への依頼が遅れたため、翌年以降に比べて回収率が低い。

- ★（授業の難易度について「難しかった」「とても難しかった」をあわせると5割弱を占めたことについて）驚いた。約半数が「難しい」と感じているとすれば、授業やテストの作り替えが必要だろうが、易しくすれば生徒の満足度が高まるとは必ずしも考えられない。（2004年度）
  - ★（総じて評価が高まったことについて）私の授業改善の成果というよりは、担任学年であることによって、生徒との人間関係が（他学年より）濃密だったことに起因するのではないか。（2005年度）
  - ★（2004 / 2006年度の“満足度最低のクラス”が、いずれも授業中に怒鳴ったことがあるクラスだったことについて）怒鳴ったことで“嫌われた”のか、授業への評価が低いことが授業態度に反映されて僕に怒鳴られたのか、解釈は難しい。（2006年度）
  - ★（アンケート実施以来最も満足度が高くなったことについて）授業中「ウルサイ」と怒鳴った回数は今年度が最も多いのではないかとすら思う。（2007年度）
  - ★（前年に比べて全面的に評価が下がったことについて）生徒とうまく関係がつけられなかったという印象がある（そのせいか、生徒の名前を覚えようという気力がなかなか湧かなかった）。（2008年度）
- 「教員は、生徒の評価に自己満足したり、落胆したりするのではなく」\*8と言われるが、生徒の評価に一喜一憂し、その結果について「ああでもないこうでもない」と思い惑っているのが実情である。

## 5 おわりに

アンケートの集計をしていて、ごく稀にだが、判読できないほどに殴り書きのものや、ほとんど5ばかりというような回答用紙がある。そういうものを見つけるのはなかなか辛い。

一方、無記名なので誰が書いたかは分からないということを承知で、回答用紙の余白に好意的なコメントを一言二言書いてくれる生徒が、これまた少数ながら毎年いて、そういう時にはホッとする。

今年度だと、例えば次のようなコメントをもらった。

「楽しかった\(^0^)/♥」

「先生は授業終わったあとに教室を去るのが早いので少しさみしいです。」

大学においては学生による授業評価は定着しているように思われるし、東京都立高校をはじめ後期中等教育以下の学校においても、（児童や）生徒による授業評価は広がってきているようである。

生徒による授業評価に、さまざまな制約や限界があることは承知している。しかし、それでもなお、自分の授業について生徒の目からどのように見えているかを年に1度ずつぐらい確認することには一定の意味があるのではないかと思っている。

---

\*8 東京都教職員研修センター監修『教職員ハンドブック 第2次改訂版』都政新報社（2008）pp.221-222

### 授業評価アンケート

「政経」の熊田です。  
来年度以降の「政経」の授業改善に資するためにアンケートをとりたいと思います。よろしくご協力ください。  
回答はすべて選択肢の中から選び、回答用紙に記入してください。

#### 1 授業を受けたあなたについて

【問 1】 あなたのクラスは何組ですか。

- 1 1組      2 2組      3 3組      4 4組      5 5組      6 6組

【問 2】 あなたの性別は何ですか。

- 1 男      2 女

【問 3】 教員の講義・資料説明をどの程度聞きましたか。

- 1 よく聞いていた      2 だいたい聞いていた      3 普通である  
4 あまり聞かなかった      5 全く聞かなかった

【問 4】 個人ごとや班ごとの演習へはどの程度参加しましたか。

- 1 とても積極的に参加した      2 積極的に参加した      3 普通である  
4 消極的だった      5 とても消極的だった

【問 5】 授業外の時間に、関連する学習（授業中に紹介された指定図書を読むなど）をどの程度行いましたか。

- 1 よく行った      2 時々行った      3 普通である  
4 ほとんど行わなかった      5 行わなかった

【問 6】 この授業におけるあなたの受講態度を自己評価してください。

- 1 とても良い      2 良い      3 普通      4 悪い      5 とても悪い

#### 2 授業について

【問 7】 教員の話し方は聞きとりやすかったですか。

- 1 とても聞き取りやすかった      2 聞き取りやすかった  
3 どちらとも言えない      4 聞き取りにくかった  
5 とても聞き取りにくかった

【問 8】 黒板の使い方は効果的でしたか。

- 1 とても効果的だった      2 効果的だった      3 普通である  
4 効果的でなかった      5 全く効果的でなかった

【問 9】この授業は授業計画（シラバス）に沿っていましたか。

- 1 よく沿っていた      2 だいたい沿っていた      3 どちらとも言えない  
4 あまり沿っていなかった      5 全く沿っていなかった

【問 10】あなたにとってこの授業の難しさ／易しさはどうでしたか。

- 1 とても難しかった      2 難しかった      3 普通である  
4 易しかった      5 とても易しかった

【問 11】この授業の全体としてのまとめはどうでしたか。

- 1 とても良かった      2 良かった      3 普通である  
4 悪かった      5 とても悪かった

【問 12】授業の内容に興味をもてましたか。

- 1 とてももてた      2 もてた      3 どちらとも言えない  
4 もてなかった      5 全くもてなかった

【問 13】教員の説明はわかりやすかったですか。

- 1 とてもわかりやすかった      2 わかりやすかった      3 普通である  
4 わかりにくかった      5 とてもわかりにくかった

【問 14】授業の進行速度は速かった／遅かったですか。

- 1 速すぎた      2 速かった      3 ちょうどよい  
4 遅かった      5 遅すぎた

【問 15】資料（プリント）の内容はわかりやすかったですか。

- 1 とてもわかりやすかった      2 わかりやすかった      3 普通である  
4 わかりにくかった      5 とてもわかりにくかった

【問 16】資料（プリント）の配布頻度・量は適切でしたか。

- 1 多すぎた      2 多かった      3 普通である  
4 少なかった      5 少なすぎた

【問 17】教員による講義・資料説明と、個人や班での演習とのバランスはどうでしたか。

- 1 講義・資料説明が多すぎる      2 講義・資料説明が多い  
3 ちょうどよい      4 演習が多い      5 演習が多すぎる

【問 18】教員の授業に対する熱意を感じましたか。

- 1 強く感じた      2 感じた      3 どちらとも言えない  
4 あまり感じなかった      5 全く感じなかった

【問 19】教員は授業中に、生徒の参加（質問・発言など）をうながしましたか。

- 1 よくうながした      2 ときどきうながした      3 普通である  
4 ほとんどうながさなかった      5 全くうながさなかった

【問 20】生徒の質問への教員の対応は適切でしたか。

- 1 とても適切だった      2 適切だった      3 普通である  
4 不適切だった      5 全く不適切だった

【問 21】この授業を受けて、新しい知識を得たり視野が広がったりして、有益でしたか。

- 1 とても有益だった      2 有益だった      3 どちらとも言えない  
4 有益でなかった      5 全く有益でなかった

【問 22】この授業の満足度はどの程度ですか。

- 1 とても満足      2 満足      3 普通      4 不満      5 とても不満

ご協力ありがとうございました。

【資料 2】各年度・各クラスの【問 22】への回答分布

年度	組 ／ 性別	とて も 満足	満足	普通	不満	とて も 不満	計	評価 の 平均
2004 年度	α組	9	15	4	3	1	32	3.88
	β組	14	14	4	0	0	32	4.31
	γ組	19	10	3	0	0	32	4.5
	δ組	17	18	3	1	0	39	4.31
	ε組	15	11	2	1	3	32	4.06
	ζ組	11	11	4	0	0	26	4.27
	男子	41	39	11	3	4	98	4.12
	女子	44	40	9	2	0	95	4.33
	計	85	79	20	5	4	193	4.22

2005 年度	α組	22	11	6	0	1	40	4.33
	β組	21	14	1	0	0	36	4.56
	γ組	19	16	1	0	0	36	4.5
	δ組	16	17	3	3	0	39	4.18
	ε組	27	7	1	0	0	35	4.74
	ζ組	18	17	4	1	0	40	4.3
	男子	58	42	9	4	1	114	4.33
	女子	65	40	6	0	0	111	4.53
	不明	0	0	1	0	0	1	3
	計	123	82	16	4	1	226	4.42

年度	組／性別	とても満足	満足	普通	不満	とても不満	計	評価の平均
2006年度	α組	19	13	6	0	0	38	4.34
	β組	15	19	5	0	0	39	4.26
	γ組	19	13	4	0	0	36	4.42
	δ組	15	17	2	0	0	34	4.38
	ε組	16	19	2	0	0	37	4.38
	ζ組	19	17	2	0	0	38	4.45
	男子	43	54	16	0	0	113	4.24
	女子	60	44	5	0	0	109	4.50
	計	103	98	21	0	0	222	4.37

2007年度	α組	21	15	1	1	1	39	4.38
	β組	23	13	2	0	0	38	4.55
	γ組	22	16	0	0	0	38	4.58
	δ組	25	12	2	0	0	39	4.59
	ε組	25	14	2	0	0	41	4.56
	ζ組	27	10	2	0	0	39	4.64
	男子	67	43	9	1	0	120	4.47
	女子	76	37	0	0	1	114	4.64
	計	143	80	9	1	1	234	4.55

2008年度	α組	20	16	3	0	0	39	4.44
	β組	22	10	2	0	0	34	4.59
	γ組	12	14	7	0	1	34	4.06
	δ組	22	9	3	0	0	34	4.56
	ε組	18	16	1	0	0	35	4.49
	ζ組	17	11	7	0	1	36	4.19
	男子	50	37	15	0	2	104	4.28
	女子	60	39	8	0	0	107	4.49
	不明	1	0	0	0	0	1	5
計	111	76	23	0	2	212	4.39	

2009年度	α組	17	18	3	0	0	38	4.37
	β組	16	18	4	1	1	40	4.18
	γ組	22	13	3	0	0	38	4.5
	δ組	18	17	6	1	0	42	4.24
	ε組	13	23	3	0	1	40	4.18
	ζ組	22	16	2	0	0	40	4.5
	男子	46	55	13	2	2	118	4.19
	女子	62	50	8	0	0	120	4.45
	計	108	105	21	2	2	238	4.32

(表2と同じもの)

# 運動・スポーツ好きを学校で育てる

－ 授業実践及びスポーツ活動を通して －

筑波大学附属高等学校保健体育科

征矢 範子・鮫島 元成・貴志 泉

藤生栄一郎・中塚 義実

## 1. はじめに

昭和 43 年に改訂された小学校学習指導要領の第 1 章総則の第 3 には「健康で安全な生活を営むのに必要な習慣や態度を養い、心身の調和的発達を図るため、体育に関する指導については、学校の教育活動全体を通じて適切に行なうものとする。特に、体力の向上については、体育科の時間はもちろん、特別活動においても、じゅうぶん指導するよう配慮しなければならない。」と書かれた。それまでの学習指導要領総則にはこのような項目はなく、初めて健康の保持増進と体力の向上が学校教育全体の重要な目標として位置づけられたのである。この文章は、日本人の体格が向上しているにも関わらず、体力の向上がみられなかったことが問題となった背景がある。この項目は 40 年以上経った今でも、新学習指導要領の総則に継続して残されている教育目標である。この間、学校は様々な対策を講じてきたが、残念ながら日本は依然として子供たちの体力低下が続いている。平成 21 年 1 月文部科学省が公表した全国体力テストの結果によると、1 週間の運動時間調査では、中学 2 年生女子のおよそ 3 割が 60 分未満であったことが示され、さらに問題が明確となった。このままでは日本人の体力低下は改善するどころかますます深刻化することが懸念される。「体力の向上」という学校教育全体の重要な目標を達成するために、学校は運動・スポーツ好きを作らなくてはならない。本校の現状と実践例を紹介するとともに、学校で運動・スポーツ好きを作る方策について考えていきたい。

## 2. 本校生徒の運動に関する興味・実施状況

### 1) 体力テストアンケートより

毎年、年度初めに体力テストと同時に、運動に関する習慣や実施状況、興味関心などに関するアンケート（大修館書店）の記入を行っている。その結果から、本校生徒の運動の実施状況について以下のようなことが明らかになった。

#### ①運動の実施状況

体育授業以外の運動実施状況を見ると、全国女子平均（対象：352,265 人）では 33% が「体育以外に運動しない」という結果に対し、本校女子（対象：328 人）は 15% と全

国女子の半数以下であった（図1・2）。また、本校の女子生徒は50%が「週3日以上運動する」と回答していた。これは、全国女子の「週3日以上運動する」と「週1～2回運動する」を合わせた43%よりも多い値であった。

男子は、「体育以外に運動をしない」と答えた生徒が、全国男子平均（対象：370,082人）の14%に対し、本校男子（対象：350人）は半分の7%であり、「週3回以上の運動する」と「週1～2回運動する」の合計は、全国男子が70%に対して、本校男子は88%と、9割近くが週1回以上運動していることが明らかとなった（図3・4）。

これらの結果から、本校の生徒は体育以外に運動する割合が男女とも全国の平均より高く、特に女子は「週1回以上運動をしている」生徒が全国平均と比べ26%も多いことがわかった。

## ②スポーツへの興味

「スポーツは好きですか？」の問いに対し、全国女子は「大好き」もしくは「好き」と答えた生徒が合わせて55%であるのに対し、本校女子は68%と、13%の差があった（図5・6）。また、全国男子も、「大好き」もしくは「好き」と答えたのは72%であったが、本校男子は79%であり、7%の差がみられた（図7・8）。本校では男女とも約7～8割の生徒がスポーツを「好き」と答え、全国の平均に比べてスポーツに対する意識が高いことがわかった。

体力テストアンケート

①運動の実施状況

質問：体育授業以外の運動・スポーツ活動は？

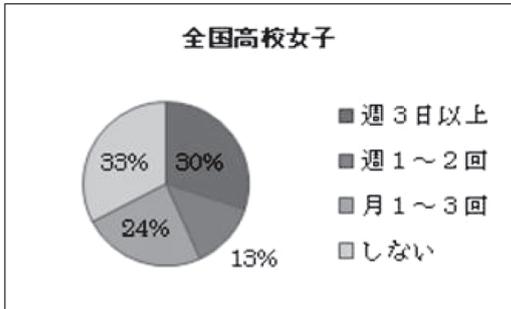


図1 全国女子

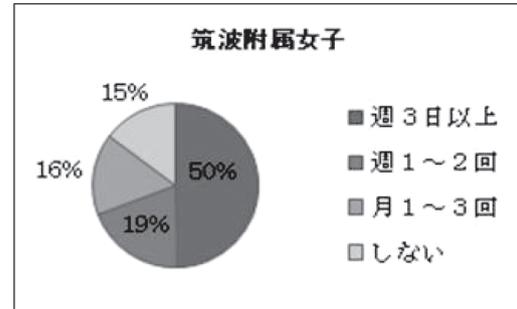


図2 筑波女子

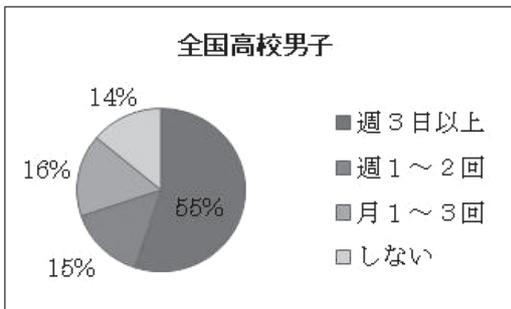


図3 全国男子

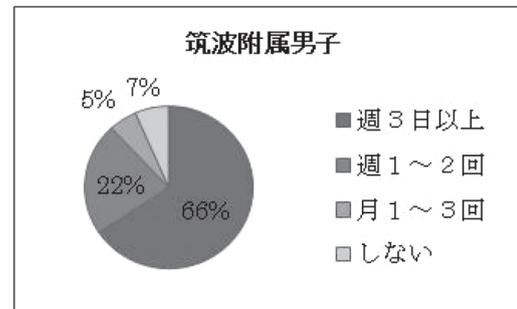


図4 筑波男子

②スポーツへの興味

質問：スポーツは好きですか？

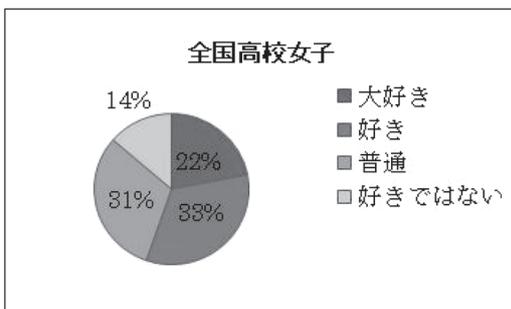


図5 全国女子

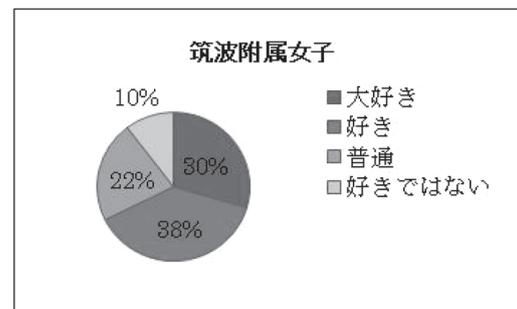


図6 筑波女子

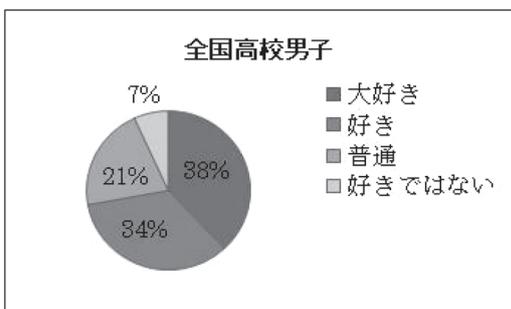


図7 全国男子

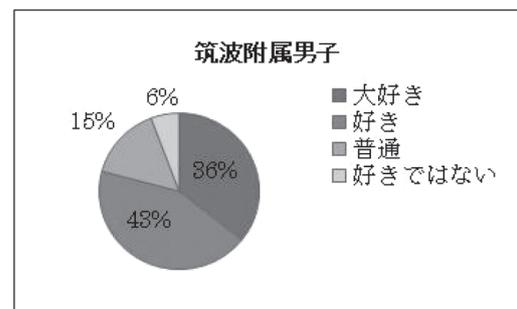


図8 筑波男子

## 2) 校内アンケートより

体力テストアンケートのほかに、平成 21 年 3 月に卒業した生徒 190 名（以下高 3）と平成 21 年 4 月に入学した生徒 240 名（以下高 1）に体育の授業と運動に関するアンケートを行い、本校入学時の体育・運動部活動・スポーツに対する意識と、卒業時の意識について調査をした。

### ① 体育の授業について

高 3 男女に小学校時、中学校時、高校時に体育の授業を好きであったか聞いたところ、わずかではあるが男女ともに高校で体育を好きと答えた生徒が増加している（図 9・10）。嫌い・まあ嫌いと答えた生徒が男子 0%女子 2%という結果からもわかるように、本校の生徒が体育という授業を好意的にとらえていることが伺える。

### ② 運動部活動について

高 3 男女に運動部経験について聞いたところ、男子 93%、女子 75%が所属していたと答えている（図 11・12）。運動部に入部していた生徒の男子 89%、女子 74%が最後まで活動を続けていた（図 13・14）。また、男子 92%、女子 64%が運動部の活動日以外に自主練習をしていた（図 15・16）。活動の時間帯は「昼休み」が最も多く、男子は運動部所属者全体の 72.4%、女子で 37.5%が活動をしていたと答えた（図 17）。その頻度は、「毎日」あるいは「週 2～3 回」と答えた男子生徒が運動部所属者全体の 67.3%という結果であった（図 18）。これらは、運動部の活動日数が制限されている（週 4 回）ことや、本校の昼休みが通常より長い（60 分）ことなどの影響から、自主的な活動を行う者が多くなったと推測される。

### ③ 体育・部活動以外の運動について

体育・部活動以外に運動を行っている割合は高 3 で男子 43%、女子で 27%であった（図 19・20）。運動部所属の生徒は、この他に自主練習を行っている者が多くいるため、それを除いた男子のこの数値は高いものと言える。昼休みのグラウンドや体育館、屋外バスケットコート混雑が、この数値で裏付けされた。

また、本校で昼休みに行われている生徒主体のスポーツイベント（4. 体育授業以外のスポーツ活動参照）には高 3 男子の 57.1%、女子の 54.8%がバレーボールのトーナメントに出場している（図 23）。日常的には継続した運動をしない生徒でも、このつくバレーと呼ばれているイベントには参加したことのある生徒が多くいる。このイベントは参加希望者が多く、抽選せざるを得ない状況である。他に、TFC と呼ばれているフットサル大会にも男子の 56.1%が参加しており、自らスポーツを楽しもうとする姿勢が伺える。

#### ④運動スポーツ全般について

一番運動をしていた時期の運動時間が8時間を超える生徒が高3男子で79.6%、高3女子で40.4%であった。高1の中学時代をみると男子59.6%、女子30.7%であり、高校時代に運動時間が増加することが分かる(図24・25)。同一学年の比較検証ではないが、中学に比べ高校での体力増加とともに、運動時間の増加につながるものが推測できる。また、スポーツすることは好きですかという問いに対しても、高3男子の94%、女子の88%が好き・まあ好きと答えており(図26・27)、見ることにしても高3男子の86%、女子の83%が好き・まあ好きと答えている(図28・29)。これらはいずれも高1より増加しており、スポーツに対して本校の多くの生徒が好意的であることを示している。

## 校内アンケート

### ①体育の授業について

#### 1. あなたは小・中・高校で体育の授業が好きでしたか(高3)

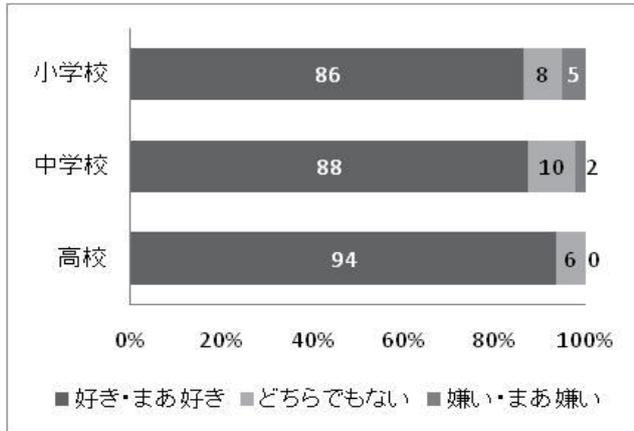


図9 高3男子

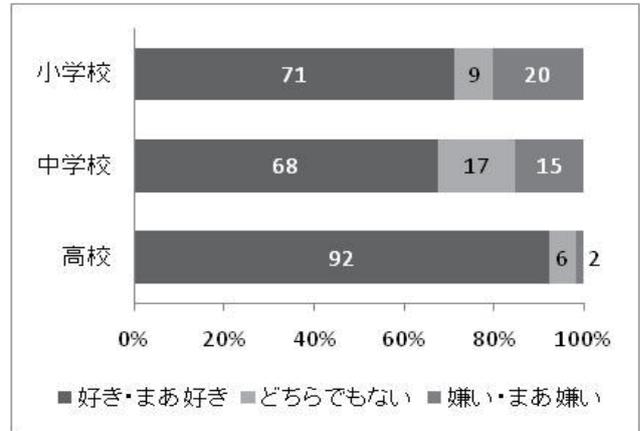


図10 高3女子

### ②運動部活動について

#### 1. あなたは高校で運動部に所属していましたか(高3)

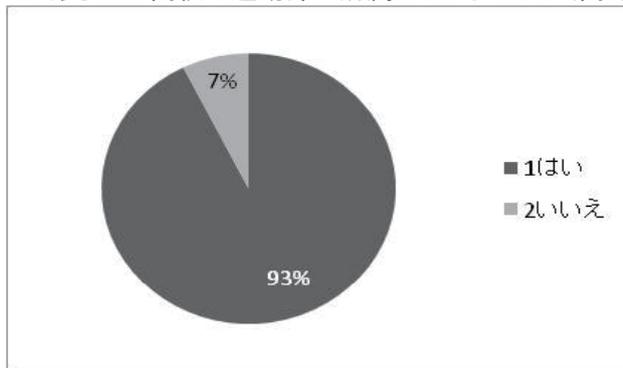


図11 高3男子

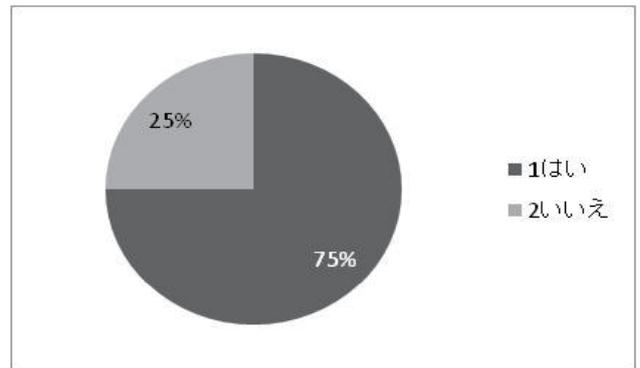


図12 高3女子

#### 2. 運動部での活動期間はどのくらいですか(高3)

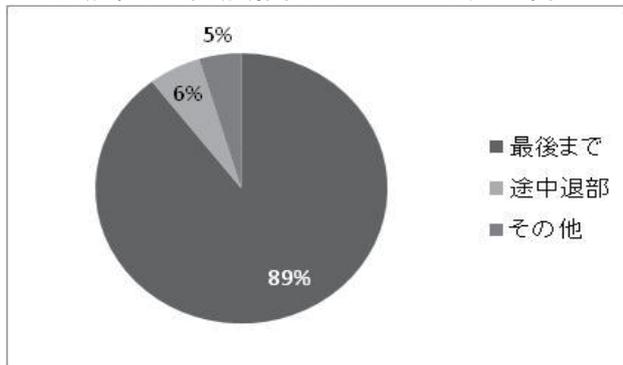


図13 高3男子

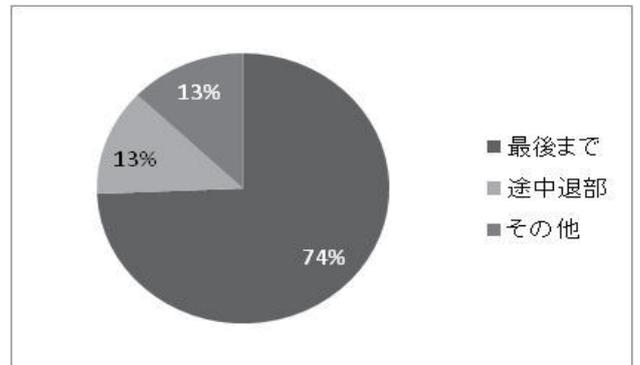


図14 高3女子

3. 運動部の活動日以外に自主練習をしていましたか(高3)

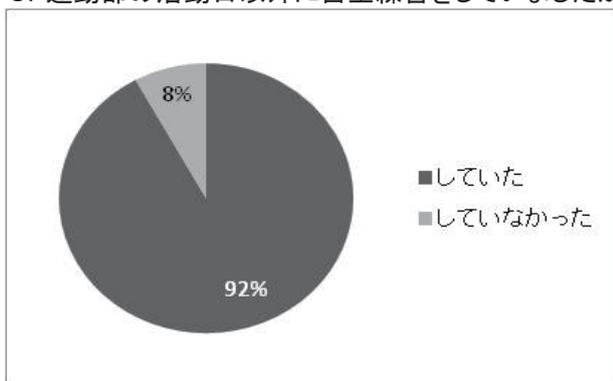


図15 高3男子

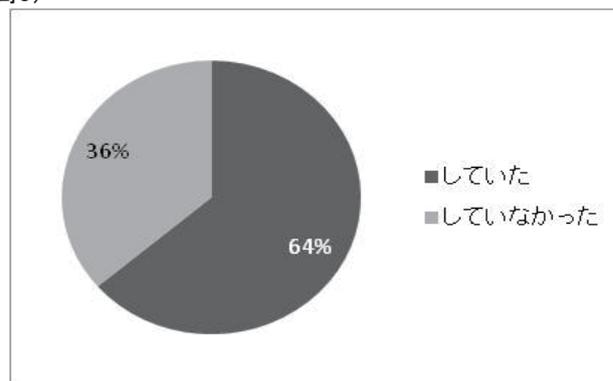


図16 高3女子

4. 活動日以外の自主練習は、いつ行っていましたか(3で「はい」と答えた人のみ回答、複数回答可)

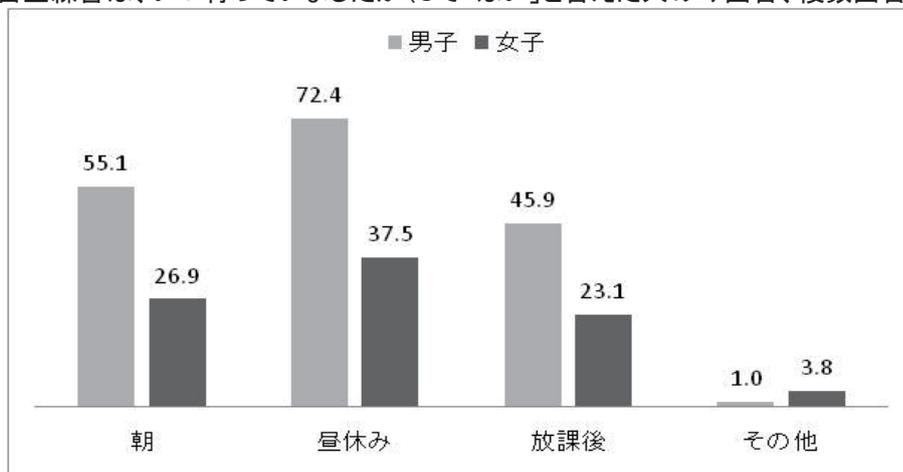


図17 高3男女

5. 自主練習はどのくらいの頻度で行っていましたか

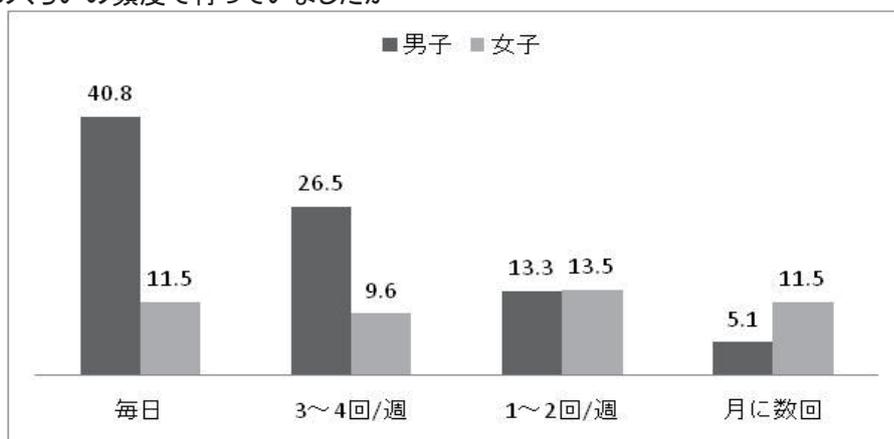


図18 高3男女

③体育・部活動以外の運動について

1. あなたは体育・部活動以外に運動を行っていましたか(高1は中学時・高3は高校時)

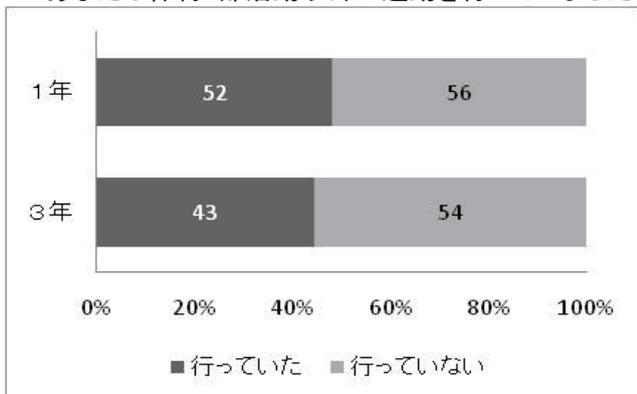


図19 男子

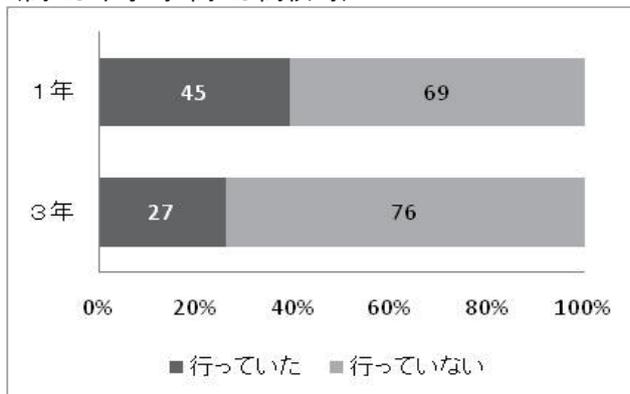


図20 女子

2. 体育・部活動以外の運動はどのくらいの頻度で行っていましたか

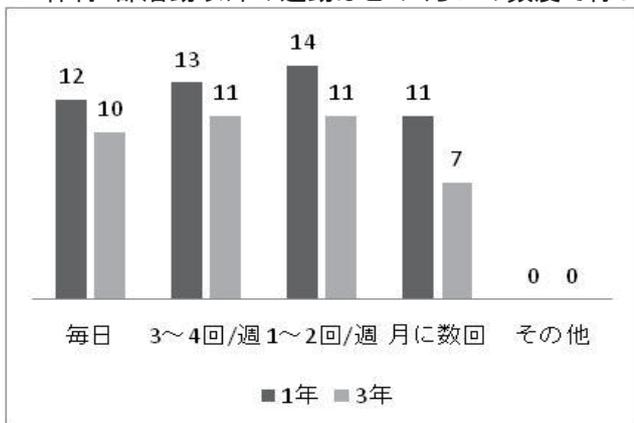


図21 男子

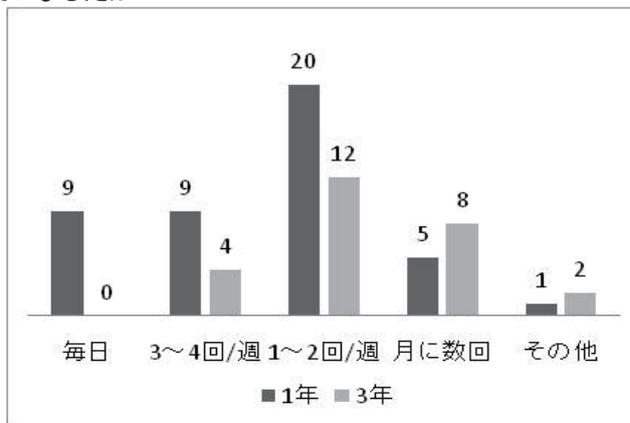


図22 女子

3. あなたが参加したことがある大会はなんですか(高3、複数回答可)

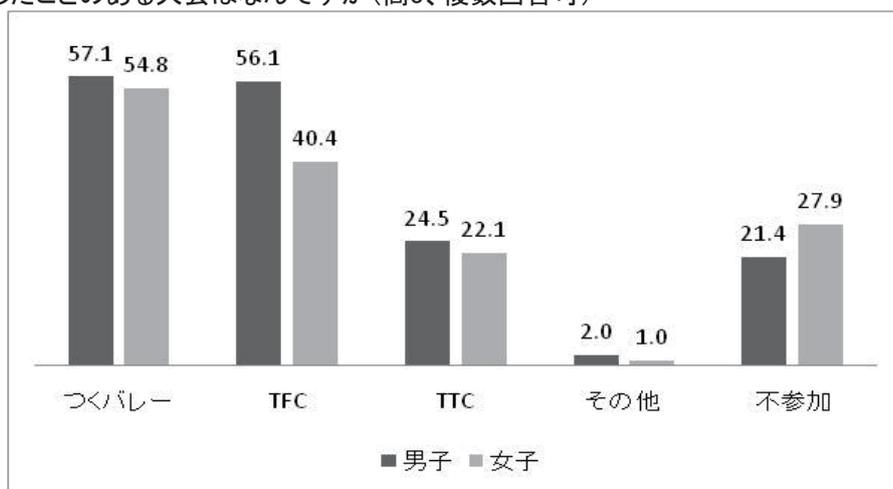


図23 高3男女

④運動・スポーツ全般について

1. 一番運動していた時期の運動時間(高1は中学時、高3は高校時)は週何時間ですか(体育は除く)

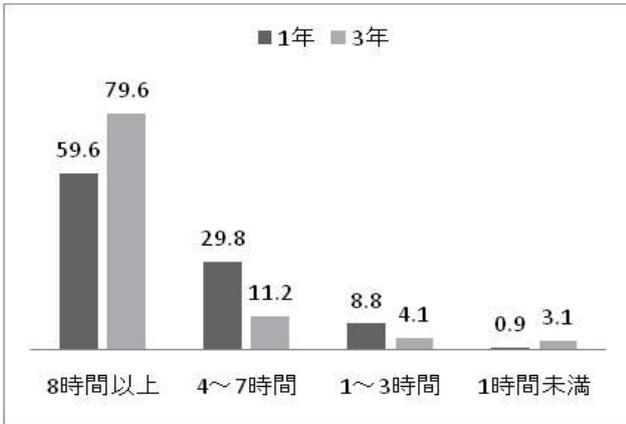


図24 男子

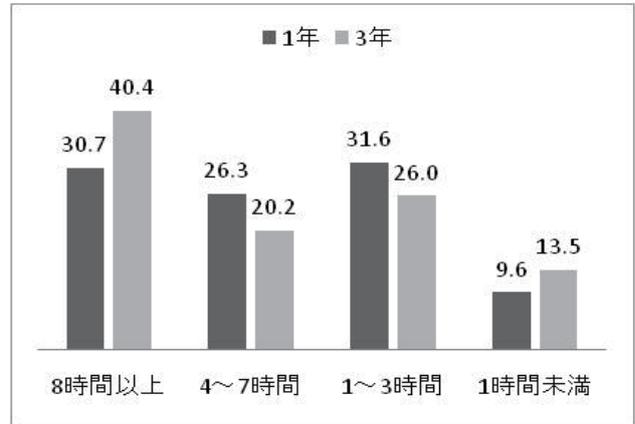


図25 女子

2. スポーツをすることは好きですか

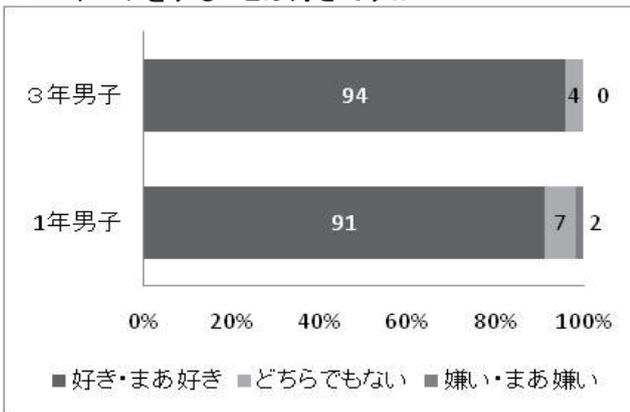


図26 男子

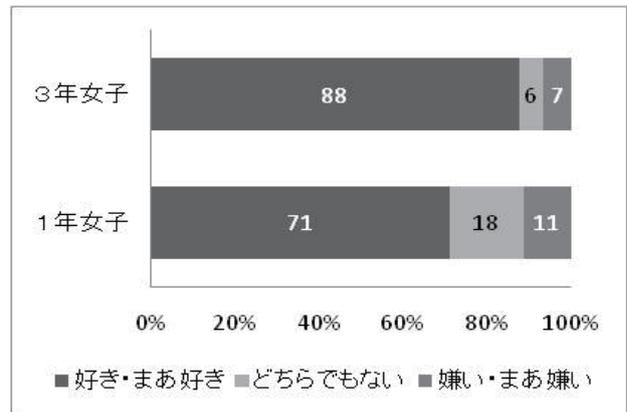


図27 女子

3. スポーツを見ることは好きですか

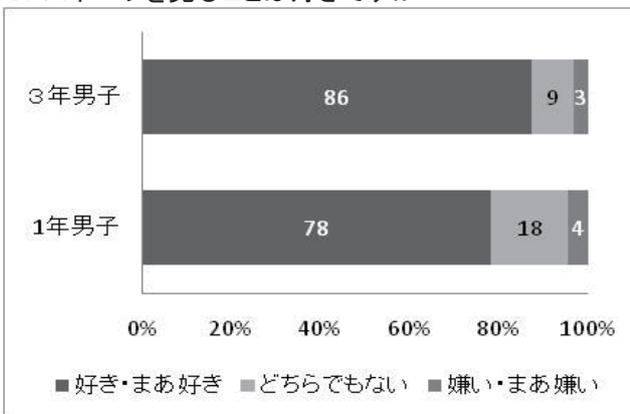


図28 男子

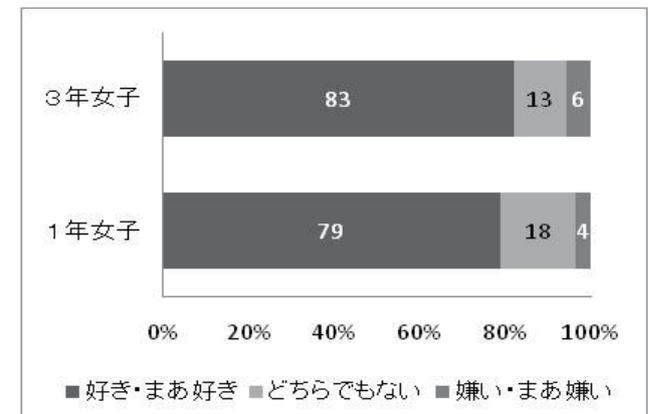


図29 女子

### 3. 授業実践について

アンケート調査から本校の生徒は全国平均や入学前の生徒と比較して運動・スポーツ好きが多く、運動量も多いことがわかった。では、なぜ本校の生徒は運動・スポーツが好きになるのだろうか。まずは本校の授業実践について見てみたい。

#### 1) 授業での取り組みについて

本校の体育授業でどのような取り組みをおこなっているのかを以下にまとめてみた。

##### ①体育理論

本校では保健と体育理論の両方を学習している。生活面を見直すことや運動の必要性、運動が与える影響について学習をしている。また、けがの対処方法やトレーニング理論・原理を学習することによって、自分たちで計画を立て、活動ができるようになる。運動への意欲が高まっていくことを期待して授業を行っている。

##### ②バスケットボール

バスケットボールでは、授業内で小さなイベントを作っている。「3on3 大会」を行うことで生徒が勝敗への意欲を高め、より積極的に授業へ取り組むようになる。スポーツの持つゲーム性の楽しさを味わわせることを重視し、勝つことの喜びを感じる機会を増やしている。また、シュートが決まったときなど、よいプレーをした者に対し、ハイファイブの励行を行っている。うまくいった時、周りから褒められると嬉しくなるものである。それを体現するのがハイファイブである。こんなときするものなのだ、と説明し、強調することでだんだん行う生徒が増えていく。

##### ③3年生の選択制授業

本校の体育授業は、1・2年生で必修種目、3年生で選択種目を導入している。生涯スポーツにつながる経験を獲得することと、未履修種目への挑戦を目的としている。前期は体育科の示した種目から選択して15時間ずつ2種目を経験できるようにする。既習種目であれば、自分たちで練習の計画と授業内でのスポーツイベントの立案・実行を目標とする。未習種目の場合は、一般種目と同様、教員主導で種目特性の学習や技術指導をした後、チーム毎に活動をさせる。自分たちの弱点を考えさせ、チームを強くするために必要な練習や戦術を考えて実行する。既習種目同様、最終的には専門の運動部生徒の力を借りるなどして、生徒が自分たちでスポーツイベントを計画・立案する。この授業内では、生徒たちが自分たちで考えた授業内容にすることができ、必然的に上級者が初心者へ指導をする場面ができる。生徒同士の指導はリーダーを育てることはもちろん、自分たちが楽しむのも、つまらない時間を過ごすのも自分たち次第であるという責任の中で計画・実行していく。このような授業は生徒の自主性を育て、運動意欲を高めるこ

とが期待できる。勝敗が関わるイベントは、生徒のやる気を引き出し、勝つためにはどのようにすべきか、を真剣に考えることにつながる。このことによって、生涯自分たちで練習を計画し、実行する能力を身につけさせている。さらに後期は種目も自分たちで考えることができる。教室の廊下に貼った模造紙に種目と内容を書いて仲間を募り、人数が揃ったところで企画書を作成し、自分たちの種目を主張する。その中から4つが選ばれて、実際に授業となるため、やりたい種目がある生徒は、一生懸命仲間を集め、その授業内容をどんなものにしていくか考える。これまでに、生徒たちの情熱で「ヨガ」や「ビリーザブートキャンプ」といった授業が展開されたことがある。

#### ④ダンス発表会

2年女子体育後期の単元はダンスである。単元目標は12月に行われる創作ダンス発表会に向けてクラス(21名程度)で1作品を完成させることである。学年テーマをもとに、クラスで話し合い、自分たちの考えたテーマでダンスを創作するのだが、約1ヵ月間で7分程度の作品が出来上がる。授業内ではダンスが得意・不得意にかかわらず、全員が作品のモチーフ作りに関わるように3つのパートに分けて動きを考える。時間数としては非常に少ない中での作品づくりだが、クラスのリーダーが中心となり、衣装や音楽など工夫し、各クラスの個性があふれた作品となる。授業だけでは足りないため、早朝・昼休み・放課後の自主的な活動は非常に重要である。教員は道具の貸し出しと、授業優先の指導を行い、生徒の自主的な活動を見守る。時に意見の相違でぶつかることもあり、様々な経験をしながら完成させた創作ダンスは、自主練習の成果もあって1か月で作ったとは思えない見ごたえのあるものとなる。

## 2) 授業を実施する上で考慮していること

すべての体育の教師は、生徒を「体育・スポーツ好き」にさせたいと願っている。しかし、ただ楽しいだけの体育では、本来の体育の目的を果たすことはできない。体育で学ばせたい本質を外さず、体育・スポーツを楽しいと感じさせるために、授業でどのようなことを意識すべきか。本校が体育の授業を実施する上で考慮していることをまとめてみた。

### ①柔道(鮫島)

- \*自分ができることを一生懸命行う授業
- \*最初は「アバウトに行い、最後に「しっかり」おさえる授業
- \*自分の弱さを自覚し、強いふりをしない、さらに自分より弱いものをかばう授業
- \*相手を「かばいながら制する技」、「潔さ」を指導する授業
- \*技能の到達目標を、授業生徒数の、半分以下のレベルに設定する授業
- \*態度の到達目標を、個々の生徒の行動に合わせて指導する授業

\*知識・思考・判断に関して、技を最初から指導しないで、相手を制するためにはどのような力学的な要素が必要か考えさせる授業

## ②マット運動（鮫島）

- \*発表会を設定し、意欲づけに時間をかけ、技術の微々たる上達を褒める授業
- \*意欲づけのために、「学習ノート」を作り、授業内容、技術の上達度、質問、感想などを毎時記入、そして教師が「心、技、体」について気付いたことを個々にコメントして返却し、ノートでも会話する授業
- \*技術の高いものが低いものを指導する時間を設定した授業
- \*技術が低いものは「ごまかしながら」少しでも「ほんとうに」近づけるようにメンタル面で負荷をかけない授業

## ③バレーボール（藤生）

- \*技能の上達を目指す。（できるようになった気にさせる？）
  - ・基本技能をわかりやすく説明し、できるようになりやすく教える。（?）
  - ・攻防のバランスが取れるようなネットの高さにする。  
（ただネットを低くするのではない。）
- \*ゲームや技術を理解させる
  - ・ゲーム構造をわかりやすくする。
  - ・ルールの意味を理解させる。（オリジナルルール、授業での独自ルール）
- \*本格的なバレーに近づけた気にさせる。（トライさせる。）
  - ・クイックを打つ。（男子）
  - ・スパイクを打つ。（女子）
  - ・ジャンプサーブを打つ。（男子、希望者のみ）
  - ・フローターサーブを打つ。（女子、希望者のみ）
  - ・各クラス（2クラス）を3チームずつに分け、計6チームでの総当たりリーグ戦を行う。
- \*チームプレーを意識させる。
  - ・基本技能の練習を数時間やった後は、チームごとでの練習時間を確保する。  
（チーム内での教え合いを促す。）
  - ・チームワーク、カバーリング、リーダーシップ、フォロアーシップの意識。
  - ・作戦タイム（テクニカルタイムアウト）の指示

## ④陸上競技（征矢）

- \*「速く走りたい」という生徒の意欲から授業を始める

- ・「速く走るためにはどうしたらよいのか」を速い人の走りを見ながら分析し、理解させる
- ・走り方が変わると、速くなった気分になる（タイムだけではない）
- ・走るのが苦手な生徒でも、映像や専門的な道具（スターティングブロックやミニハードルなど）を使った授業で興味を持たせる

＊競わせる

- ・スタートダッシュ大会など競わせることで意欲が増す
- ・リレーのバトンパス技術が勝利に重要であることが分かると、熱心に練習する
- ・幅跳びで4m（女子）ラインを引き、超えた人数を発表しながら記録会を行う

＊様々な種目に触れさせて、興味を途切れさせない

- ・様々な種目を取り上げることは、得意な生徒を増やすことになる（投げるのが得意な生徒、跳ぶのが得意な生徒、ハードルが得意な生徒など）
- ・混成競技で得点計算をすることにより、投げるのが得意な生徒と、走るのが得意な生徒が競うことができる

#### ⑤ハンドボール（征矢）

＊投げる動作の習得とゲームの割合

- ・ボールが投げられないとゲームは楽しくない、ゲームばかりだと投げる動作を取  
得できない。両方が楽しめるバランスを意識して授業を作る

＊難しい技へのチャレンジ

- ・スクエアパスなど複雑なパス練習が連続何回できたかチャレンジさせる

## 4. 体育授業以外のスポーツ活動

### 1) 運動ができる環境づくり

本校では、生徒たちが活動したいと思った時に、自由に活動できる環境を作っている。本校は中学と共用の施設として、バレーコートが4面取れる体育館（大アリーナ）、剣道が2面取れる小アリーナ、正規のサッカーコートが1面取れるグラウンド、柔道が2面取れる武道館があり、他に高校専用の屋外バスケットコート3面、テニスコート3面、プールを所有している。これらプール以外の施設は、通常生徒がスポーツを楽しむ目的で利用する際、許可を得る必要はなく、授業の妨げにならない活動であれば、自由に利用することができる（プールは申し出をすれば利用できる）。ボール等の道具は屋外バスケットコートに隣接する体育教員室に置いてあり、自由に貸し出しをしているため、昼休みは、友人とスポーツを楽しむ目的で、多くの生徒でにぎわっている。3年生の選択授業の空き時間なども体育の授業と重なっていなければ自由に利用するため、体育館や屋外バスケットコートではバレーやバスケを自由に遊ぶ生徒の様子がみられる。教員は授業優先の指導を徹

底し、ルールを守るという前提のもと、自発的な活動を応援している。生徒の身体活動の増加を最優先にした結果、自由な施設利用というシステムが取り入れられている。

## 2) スポーツ大会

本校は2期制で10月上旬の期末考査が終了すると短い秋休みがある。この秋休みが明けた2日間を利用してスポーツ大会を行っている。これは、他校の体育祭に相当するもので、2日間かけて男女それぞれ3つの球技「サッカー（女子はフットサル）」「バスケットボール」「バレーボール」と、学年種目（年によって変わる）1年生「とんとんとん」2年生「玉入れ」3年生「大縄」、全学年共通「リレー」をクラス対抗で競う行事である。これらの大会運営は生徒の実行委員会が中心となっており、体育科は授業時間を球技の練習に充て、この行事に協力をしている。夏休み明けの体育3～6回の授業をスポーツ大会練習期間と位置づけ、各クラスが3つの種目毎に分かれ球技の練習を行っている。この大会に向けて、9月中旬頃から各チームの練習は活発になり、授業内だけでなく昼休みや放課後を使った猛練習を繰り返す。これらには種目優勝と、学年種目優勝、球技クラス優勝、クラス優勝（3学年合同の総合優勝）があり、表彰式は大変盛り上がる。

## 3) 生徒が運営するスポーツイベント

本校の昼休みは60分と長い。これは委員会などの活動をすべて昼休みに行うためである。この長い昼休みを利用して、年に数回運動部が主催するスポーツイベントが開催されている。これらはすべて、生徒たちが自主的に運営し、楽しむためのものである。テニス部主催の「桐陰テニストーナメント」、サッカー部主催の「TFC（筑波フットサル大会）」、バレー部主催の「つくバレー」などが定着しており、毎年行われている。申し込む生徒は様々で、友人同士で作ったチームもあれば、クラス、部活動仲間（運動部・文化部問わず）、時には教員チームが参加することもある。普段運動部に所属していない生徒も、友人に誘われチームに入り、早朝や放課後は練習に励む様子がみられる。校内アンケートの結果でも示した通り、男子57.1%、女子54.8%が「つくバレー」に参加したことがあると答えている。任意の大会であるにも関わらず、スポーツイベントがたくさん生徒に支持されていることが分かる。その他にも時期が異なるため重複して出場している者も多数いるが、「TFC」フットサル大会は男子56.1%、女子40.4%、「TTC」テニス大会は男子24.5%、女子22.1%の生徒が参加していた。この中には毎年欠かさず参加しているものも含まれている。

## 5. まとめ

これらの実践から、本校の生徒がなぜ運動・スポーツを好きになるのか、考えられることをまとめてみた。

①バスケットボールの授業で行われているハイファイブや、イベントで勝者をたたえる

指導など、授業の中でスポーツマンシップに則った、相手を思いやる気持ちを育て、運動が苦手な生徒も気劣りせず取り組むことができる。

- ②3年体育では自分で種目選択し、自分たちで練習計画・イベント計画を立てさせることで、男女・習熟度を考慮し誰もが楽しめるような考え方ができる。
- ③ただ楽しいだけの授業ではなく、体育で学ばせたい本質を外さない授業を作ることで、生徒の上達や達成感を増大させ、意欲を高めることができる。
- ④勝敗を決するイベントが授業内だけでなく、スポーツ大会、昼休みを使った大会など、年間に複数行われるため、生徒の意欲が高められ、目標に向かって仲間同士が誘い合って自主練習に取り組むようになる。
- ⑤運動の場所や時間、道具など、活動を制限するような規則をできるだけ作らず、運動を推奨し、活動量を保障（サポート）する。

本校の生徒が運動好きであるという調査結果から、これまでの本校の実践を振り返ってきたが、他校との比較を行っていないため、一概にこれらの実践が本当に効果を上げているかは実証できない。また、本校附属小学校・中学校との比較・検証を行えば、より研究を深めることができる。今後の課題としたい。

#### 参考文献

中塚義実 『する・みる・語る・ささえる』スポーツの楽しさにつなぐ授業づくり「体育科教育 2004年9月号」

中塚義実 生徒が企画・運営するスポーツイベント「体育科教育 2006年5月号」



# 15時間のサッカー単元をどう構成するか

－ 高校1年生女子サッカーの学習指導案 －

保健体育科

中塚 義実

## I. 本報告の位置づけと概要

### 1. 保健体育科公開授業と本報告の位置づけ

筑波大学附属高校では、毎年行われる研究大会で各教科の授業を公開し、参加者を交えた議論の場を設けている。保健体育科では5名の教員が持ち回りで公開授業を行うので、ほぼ5年に一度、機会が巡ってくる。

1987年に赴任して以来、筆者はこれまで6回の公開授業を、研究大会で行ってきた。

- 1) 1988年12月10日 3年女子サッカー … 「自由と責任」を学ぶ
- 2) 1993年12月4日 1年男子サッカー … 全33時間で「する」「みる」スポーツ教育
- 3) 1997年12月6日 1年女子サッカー … 全22時間で「する」「みる」スポーツ教育
- 4) 2002年12月7日 2年体育理論 … FIFAワールドカップを題材とした総合学習
- 5) 2003年12月6日 3年男女セパタクロウ … 男女共習の選択実技
- 6) 2008年12月8日 1年女子サッカー … 約15時間のサッカー単元

1)の授業は、3年生の必修単元である(当時、保健体育科で3年生の選択実技は行っておらず、女子サッカーの必修単元を3年次に置いていた)。その内容は、月刊『体育科教育』の1990年2月号で報告し、さらに1990年9月に中華人民共和国天津市で開かれた「日中学校体育研究大会」において発表する機会を得た。天安門事件後の統制された雰囲気の中、「自由と責任」をテーマにしたサッカーの授業は中国の若手研究者を中心に賛同を得、滞在中、多くの方々と、筆談を交えて有意義なコミュニケーションをとることができた。

2) 3)は、いずれもJリーグ発足後の授業である。「する」だけでなく「みる」楽しさを享受する能力を養うことも体育実技としてのサッカーの大切な要素であると位置づけたもので、いまの授業の原型となるものである。3)は、月刊『学校体育』(現在は廃刊)1997年12月号に、「高校におけるみるスポーツ教育の可能性と課題」と題して投稿したものの実践編であり、本校の研究紀要第40巻(1999年3月発行)にまとめた。

4)は、2002年にFIFAワールドカップが開催され、また「総合的な学習の時間」が始まることを踏まえて、体育理論の授業の中で、FIFAワールドカップを題材として約10時間の授業を展開したものである。これも研究紀要第44巻(2003年3月)にまとめた。

5)は変則的な公開授業であったが、3年生の選択実技を取り上げ、セパタクロウとアルティメット(担当:宮崎明世教諭)の授業を、それぞれ時間を短縮して公開した。セパ

タクロウの授業では、日本代表選手らによる技術指導もあり、この授業を受けた生徒の中には、大学入学後にセパタクロウ部に入り、本格的に取り組んだ者もいる。

6) が本報告で取り上げる授業である。

## 2. 学習指導案を掲載する意義と目的

本報告は、2008年12月6日（土）に行われた、第58回高等学校教育研究大会（筑波大学附属高等学校主催）における保健体育科公開授業の学習指導案である。

研究紀要には「研究」を掲載すべきだとの立場をとるなら、公開授業の指導案をそのまま掲載することには問題があるかもしれない。そのことを承知の上であえてここに掲載するのは、資料として次の点で意義があり、様々な形で活用できると考えたからである。

1) 体育における「サッカー」の指導実践事例として

2) 体育実技の「指導案」の例として

それぞれについてももう少し説明を加えたい。

1) 体育における「サッカー」の指導実践事例として

スポーツ少年団や地域のサッカークラブ、あるいは学校運動部でのサッカー指導と異なり、体育の授業には多様な生徒が参加している。サッカーが大好きで熱心に取り組む経験者がいる一方で初心者がおり、サッカーが嫌いな者やまったく関心を持たない者もいる。このような多様な生徒をどうやってサッカーに動機づけ、集団としての学習を進めていくかが、体育の授業でまず問われるところである。

（財）日本サッカー協会（JFA）では、少年少女や初心者を主たる対象とするD級コーチからはじまり、C級、B級、A級、そしてプロコーチの資格であるS級コーチと、指導者資格制度を確立させている。指導者養成講習会・更新講習会も充実しており、サッカーの指導や評価について、JFAのスタンダードがある。しかしそのプログラムは、基本的には「サッカー好きの少年少女」に適用されるものであり、多様な生徒が参加する体育実技には、また別の観点が求められるはずである。

高校の体育で“サッカーの”何を、どこまで学ばせるのか。それは、プレーヤーとしての観点（するスポーツ）だけでなく、「みる」「語る」「ささえる」といったスポーツの多様な楽しみ方をどう捉えるかということにも関わってくる。

また、“発達刺激としての運動”の量や質の確保も重要である。さらに、“サッカーを通して”学ばせることも多々あろう。コミュニケーション能力を獲得することや、集団づくり、クラスづくりにつなげるといった、スポーツ手段論的な観点も欠かすことができない。

本報告にある「約15時間のサッカー単元」は、ストリートサッカーからフットサル、そしてオフサイドルールのある本格的なサッカーまで、ゲームを進化させながら初心者も経験者も、ともに学んでいくプログラムである。ゲームの進化に応じて、ボール操作の技術、

攻撃や守備の戦術、ルールやマナー、チームづくりや大会運営までを幅広く学ぶ。サッカーの歴史や発展過程、今日の世界のサッカーの状況、ゲームの見方など、文化としてのサッカーを丸ごと学習するプログラムである。体育におけるサッカーの学習内容は幅広い。

しかし、他教科同様、授業時数は減少傾向にある。たとえば、1993年度の公開授業は総時数33時間、1997年度の授業は22時間、いまは平均して15時間程度でサッカー単元を構成しなければならない。そのため、生徒が自主的にチーム練習をする時間がとれないのが現状である。学習内容の精選とマネジメントの工夫がますます求められるのである。

授業時数が減った中で、何を、どのように指導するかが、本報告の主題である。体育におけるサッカーの指導実践例として、意義があろう。

参考までに、22時間の授業と15時間の授業の展開例を以下に示す。

### 1年次必修サッカー単元(女子) 学習の展開例(教科分科会資料より)

1997年10～12月	22時間	2008年10～12月	15時間
1	オリエンテーション:VTR①世界サッカー紀行→体育館で簡易サッカー	1	あそぶ:ボール遊び/ストリートサッカー
2	前進するための技術:ドリブル・フェイント・スクリーン	2	はこぶ・かわす・守る:ドリブル・フェイント・スクリーン
3	パスの技術:インサイド・アウトサイドでのキック・トラップ	3	つなぐ:枠ありサッカー
4	パスの戦術:サポートの基礎、3対1ボールキープ	4	フットサルとは何かⅠ:ビデオ学習と実技
5	フットサルとは何かⅠ:ゲームの精神とルール学習→フットサル実技	5	フットサル大会
6	フットサルとは何かⅡ:VTR②世界選手権決勝→フットサル実技	6	予備日Ⅰ:世界サッカー史をさぐる(VTR学習)
7	フットサルリーグ第1日:6チームの総当たりリーグ戦(2試合)	7	浮き球の処理&ハーフコートゲーム
8	第2日:チーム練習後、リーグ戦(1試合)	8	オフサイドの理解Ⅰ:オフサイドルールの精神と副審の仕事
9	第3日:リーグ戦最終日(2試合)	9	オフサイドの理解Ⅱ:オフサイドルールの利用法と攻略法
10	予備日:VTR③世界サッカー史をさぐる	10	サッカーにおける自由と責任Ⅰ:ポジションとシステム
11	これまでの復習とハーフコートゲーム	11	サッカーにおける自由と責任Ⅱ:前後左右のバランス
12	サッカーにおける自由と責任Ⅰ:役割(ポジション)の理解	12	サッカーリーグ第1日:ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
13	サッカーにおける自由と責任Ⅱ:自由な判断と全員攻撃全員守備	13	サッカーリーグ第2日:ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
14	オフサイドの理解Ⅰ:オフサイドルールの精神と副審の仕事	14	サッカーリーグ第3日:ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
15	オフサイドの理解Ⅱ:オフサイドルールの利用法と攻略法①	15	予備日Ⅱ:みるスポーツとしてのサッカー(VTR学習)
16	リーグ戦第1日:ハーフコートゲーム(4チームの総当たりリーグ戦)		
17	予備日:VTR④ルールの精神/オフサイドの理解Ⅲ		
18	リーグ戦第2日:ハーフコートゲーム(4チームの総当たりリーグ戦)		
19	リーグ戦第3日:ハーフコートゲーム(4チームの総当たりリーグ戦)		
20	オフサイドの理解Ⅳ:利用法と攻略法②/「サイド」の概念		
21	カップ戦第1日:ハーフコートゲーム(4チームのノックアウト方式)		
22	リーグ戦第2日:ハーフコートゲーム(4チームのノックアウト方式)		

## 2) 体育実技の「指導案」の例として

どの教科でも、授業計画は「学習指導案」の形で示される。その書式や盛り込まれる内容は、教科に特有の方法があるようだ。保健体育科においても、ある一定の共通理解はある。それは、大学の教科教育の授業で学び、教育実習で実践を通して身につけ、指導現場にあっては公開授業や研修会等で用いられる、指導案の書き方のスキルである。

しかし保健体育科の学習指導案については、ある一定の共通理解はあるものの、モデルとなる指導案が少ないのが以前から気になっていた。

今回、学習指導案をそのまま資料として提示するのは、教育実習等の指導の際に活用できると考えたからでもある。また、この資料をたたき台と捉えるなら、よりよい指導案作

成のための議論の題材として利用することもできる。

なお、本報告に掲載されているのは、単元計画と、4種類の指導案である。

- ①「まとめ」の授業（正案）…グラウンドでのゲーム中心の授業
- ②「まとめ」の授業（副案）…教室でのビデオ学習の授業
- ③「はじめ」の授業（正案）…グラウンドでの通常の授業
- ④「はじめ」の授業（副案）…体育館での導入授業

場所も内容も異なる4種類の指導案は、教育実習の指導等で活用できるはずである。

## 高校1年生女子サッカー—約15時間のサッカー単元について

次ページより「高校1年生女子サッカー」の学習指導案を示す。

資料の扉ページに全体の目次が掲載されているが、補足資料は割愛した。いずれも他の専門誌、研究紀要等をご参照いただきたい。

サッカー単元の配付資料の出典は次のとおりである。

- ・歴史編1～3 … 中塚義実著『少年のためのサッカー入門』（長岡書店、1994）
- ・歴史編3「2人の金選手の苦悩」…Jリーグ選手協会機関誌「FRONT」、Vol.15、1999年4月
- ・体育実技サッカー資料No.1 … デズモンド・モリス『サッカー人間学—マン・ウォッチングⅡ』、小学館、1983
- ・体育実技サッカー資料No.2 … 別冊サッカーマガジン1981秋季号『世界のサッカー—ビッグゲームにわいた120年』、ベースボールマガジン社、1981
- ・3年生選択サッカー資料—個人参加型草サッカーについて … サッカー瞬間誌「サポティスタ」第37号（1998年12月27日発行）

注）「サポティスタ」は、かつて国立競技場の入場者に配られていた個人発行の機関誌。いまはネット上で展開されている。

# 高校1年生女子 サッカー

約15時間単元の「導入」と「まとめ」の公開授業

第58回 高等学校教育研究大会

主催・会場 筑波大学附属高等学校

期日 2008年12月6日(土)

授業担当者 中塚義実(保健体育科)

目 次	
p2	… はじめに
p3	… 単元計画(概要)
p4	… 単元計画(詳細) I. 学習環境 II. 学習者
p5	… 単元計画(詳細) III. 教材「サッカー」
p6	… 単元計画(詳細) IV. 学習目標と評価
p7	… 単元計画(詳細) V. 学習の展開(1年1,2組の場合)
p8～12	… 授業概要(10月22日～12月12日)
p13～14	… 時案①11:00～11:50 まとめ授業(於グラウンド)
p15～18	… 副案①11:00～11:50 まとめ授業(於化学講義室)
p19～21	… 時案②13:00～13:50 導入授業(於グラウンド)
p22～24	… 副案②13:00～13:50 導入授業(於体育館大アリーナ)
p25～29	… 1年生女子サッカー単元配布資料(歴史編5枚)
p30	… 参考:3年生選択サッカー単元配付資料(「個人参加型草サッカー」に関するやりとり)
<b>以下は補足資料(今回の授業に関係する拙稿を掲載しました)</b>	
p31～33	… 補足資料1. 高等学校「女子サッカー」、女子体育、2003年9月号
p34～35	… 補足資料2. 女子サッカー(高校)、体育科教育、1990年2月号
p36～37	… 補足資料3. 高校における「みるスポーツ」教育の可能性と課題、学校体育、1997年12月号
p38～40	… 補足資料4. 「する・みる・語る・ささえる」スポーツの楽しさに～、体育科教育、2004年9月号
p41	… 補足資料5. 教師の質問箱「技能差のある生徒を～」、体育科教育、2005年6月号
p42～43	… 補足資料6. 体力低下に対して学校体育は何ができるか、体育科教育、2008年11月号

# はじめに

筑波大学附属高校では、毎年行われる研究大会で各教科の授業を公開し、参加者を交えた議論の場を設けています。保健体育科では5名の教員が持ち回りで公開授業を行うので、ほぼ5年に一度、機会が回ってきます。

1987年に赴任して以来、授業者はこれまで5回の公開授業を、研究大会で行ってきました。

- 1) 1988年12月10日 3年女子サッカー(必修) … 「自由と責任」を学ぶ
- 2) 1993年12月4日 1年男子サッカー(必修) … 全33時間で「する」「みる」スポーツ教育
- 3) 1997年12月6日 1年女子サッカー(必修) … 全22時間で「する」「みる」スポーツ教育
- 4) 2002年12月7日 2年体育理論(必修) … FIFAワールドカップを題材とした総合学習
- 5) 2003年12月6日 3年男女セパタクロ(選択) … 男女共習の選択実技

1)の授業は『体育科教育』の1990年2月号に報告しました(補足資料2. 参照)。また、1990年9月に中華人民共和国天津市で開かれた「日中学校体育研究大会」において発表する機会を得ました。天安門事件後の「統制」された雰囲気の中、「自由と責任」をテーマにしたサッカーの授業は中国の若手研究者を中心に賛同を得、滞在中、多くの方々と、筆談を交えてコミュニケーションを図ることができました。

2)3)は、いずれもJリーグ発足後の授業です。「する」だけでなく「みる」ことも学習内容に含めながら展開した授業で、いまの授業の原型となるものです。3)は、『学校体育』1997年12月号に「高校におけるみるスポーツ教育の可能性と課題」にまとめたもの(補足資料3. 参照)の実践編であり、本校研究紀要(第40巻、1999年3月発行)にまとめました。

4)は、2002年にFIFAワールドカップが開催され、また総合的な学習が始まることを踏まえて、体育理論の授業(通年で行っています)の中で、FIFAワールドカップを題材として約10時間の授業を展開したものです。これも研究紀要(第44巻、2003年3月)にまとめました。

5)は変則的な公開授業でしたが、3年生の選択実技を取り上げ、セパタクロとアルティメット(担当:宮崎明世教諭)の授業を、それぞれ時間を短縮して公開しました。セパタクロの授業では日本代表選手らによる技術指導もあり、この授業を受けた生徒の中には、大学へ行ってセパタクロにはまっていた者もいます。

今回また「女子サッカー」を取り上げたのは、「授業時数が減ってきた中で、何を、どのように指導すればよいのか」を皆さんと議論したかったからです。

たとえば2)の授業は総時数33時間、3)は22時間です。いまは平均して15時間程度です。学習内容の精選とマネジメントの工夫が、年々求められるようになっていきます。

導入段階の授業と、15時間経過したところの授業をみていただくのは、このようなねらいからです。参考までに、22時間の授業と15時間の授業の展開例を示します。

## 1年次必修サッカー単元(女子) 学習の展開例(教科分科会資料より)

1997年10~12月	22時間	2008年10~12月	15時間
1	オリエンテーション:VTR①世界サッカー紀行→体育館で簡易サッカー	1	あそぶ:ボール遊び/ストリートサッカー
2	前進するための技術:ドリブル・フェイント・スクリーン	2	はこぶ・かわす・守る:ドリブル・フェイント・スクリーン
3	パスの技術:インサイド・アウトサイドでのキック・トラップ	3	つなぐ:枠ありサッカー
4	パスの戦術:サポートの基礎、3対1ボールキープ	4	フットサルとは何か I:ビデオ学習と実技
5	フットサルとは何か I:ゲームの精神とルール学習→フットサル実技	5	フットサル大会
6	フットサルとは何か II:VTR②世界選手権決勝→フットサル実技	6	予備日 I:世界サッカー史をさぐる(VTR学習)
7	フットサルリーグ第1日:6チームの総当たりリーグ戦(2試合)	7	浮き球の処理&ハーフコートゲーム
8	〃 第2日:チーム練習後、リーグ戦(1試合)	8	オフサイドの理解 I:オフサイドルールの精神と副審の仕事
9	〃 第3日:リーグ戦最終日(2試合)	9	オフサイドの理解 II:オフサイドルールの利用法と攻略法
10	予備日:VTR③世界サッカー史をさぐる	10	サッカーにおける自由と責任 I:ポジションとシステム
11	これまでの復習とハーフコートゲーム	11	サッカーにおける自由と責任 II:前後左右のバランス
12	サッカーにおける自由と責任 I:役割(ポジション)の理解	12	サッカーリーグ第1日:ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
13	サッカーにおける自由と責任 II:自由な判断と全員攻撃全員守備	13	サッカーリーグ第2日:ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
14	オフサイドの理解 I:オフサイドルールの精神と副審の仕事	14	サッカーリーグ第3日:ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
15	オフサイドの理解 II:オフサイドルールの利用法と攻略法①	15	予備日 II:みるスポーツとしてのサッカー(VTR学習)
16	リーグ戦第1日:ハーフコートゲーム(4チームの総当たりリーグ戦)		
17	予備日:VTR④ルールの精神/オフサイドの理解 III		
18	リーグ戦第2日:ハーフコートゲーム(4チームの総当たりリーグ戦)		
19	リーグ戦第3日:ハーフコートゲーム(4チームの総当たりリーグ戦)		
20	オフサイドの理解 IV:利用法と攻略法②/「サイド」の概念		
21	カップ戦第1日:ハーフコートゲーム(4チームのノックアウト方式)		
22	リーグ戦第2日:ハーフコートゲーム(4チームのノックアウト方式)		

11:00~11:50の1年1,2組は、10月下旬にはじまったクラスで、今日で15時間目となります。すでにまとめの段階で、グラウンド半面でのリーグ戦をやっています。

13:00~13:50の1年5,6組は、1月からサッカー単元が始まるクラスで、1月からのサッカー単元の最初の時間をここにもってきたものです。単元ごとに授業担当者が変わる「種目ローテーション方式」を採用しているため、授業者の自己紹介から始まります。新しい単元、新しい担当教師のもと、最初の授業はいったいどうなるのか。お楽しみください。

# 単元計画（概要）

## 1 学習者・期間・授業時数

12組 40名(1組20名、2組20名) 2008年10月22日～12月12日(計17時間。うち1時間は研究授業) 水6&金  
 34組 40名(3組20名、4組20名) 2008年10月20日～12月10日(計14時間) 月2&水5  
 56組 39名(5組20名、6組19名) 2009年1月13日～3月3日(計16時間。うち1時間は研究授業) 火3&木1

## 2 施設・設備・用具・ボール

・グラウンド半面(時には全面)。雨天時は体育館または教室(教室での授業は2回行う)  
 ・サッカーボール35個、フットサルボール30個/セーフティコーン、マーカー等使用可  
 ・フットサル(ハンドボール)ゴール4組、少年用ゴール2組、正規ゴール2組。いずれも移動式

## 3 教材「サッカー」の特性

- |  |   |
|--|---|
| 1) するスポーツとして<br>①ゴールをめぐる攻防を中心とする<br>②ボールを手で扱うことができない<br>③チームゲームである<br>④身体的接触が認められている | 2) みるスポーツとして<br>①オフサイドを除いてルールが簡単<br>②勝敗がわかりやすい<br>③目を向けるべき範囲が広い<br>④グローバルなスポーツである |
|--|---|

## 4 学習目標(スローガン)

- 1) 「するスポーツ」としてのサッカーを楽しもう!
- 2) 「みるスポーツ」としてのサッカーを楽しもう!
- 3) コミュニケーション能力を高めよう!

## 5 日程と概要(1年1・2組の場合)

時数	月	日	曜日	キーワード	学習内容	ゲーム
1	10	22	水	あそぶ	ボールと遊ぶ/ストリートサッカー	4対4のストリートサッカー
2		24	金	世界サッカー史をさぐる(DVD講義)	教室でビデオを用いた「サッカーの歴史と現状」の学習	
3		29	水	はこぶ・かわす・守る	ブラジル体操/ドリブル、フェイント、スクリーン/ストリートサッカー	4対4のストリートサッカー
4		31	金	つなぐ&枠ありサッカー	パスの技術・戦術/サポートと体の向き/枠ありでストリートサッカー	4対4のストリートサッカー(枠あり)
5	11	5	水	復習&フットサル導入	1対1→3対1/フットサルもどき	簡易フットサル
6		7	金	フットサルとは(DVD&実技)	VTR学習→フットサル	フットサル
7		12	水	フットサル大会	クラス対抗でフットサル大会	フットサル
8		14	金	浮き球の処理	クッション&ウェッジコントロール/ヘディング/半面サッカー(ヘディングで1点)	半面サッカート(ヘディングで1点)
9		19	水	オフサイド①	オフサイドの理解と副審の仕事	半面サッカー(オフサイドあり)
10		21	金	オフサイド②	オフサイドの攻略法と活用法	半面サッカート(オフサイドあり)
11		26	水	自由と責任	ポジションとシステム/責任を果たした上での自由な判断	半面サッカー(役割分担ゲーム&全員攻撃全員守備ゲーム)
12		28	金	バランス(ウイングを使う)	前後左右のバランス/両サイドのウイングを使ったゲーム	半面サッカー(ウイング安全地帯ゲーム)
13	12	3	水	リーグ戦①	4チーム総当たりリーグ戦第1日	半面サッカー(オフサイドあり)
14		5	金	リーグ戦②	4チーム総当たりリーグ戦第2日	半面サッカー(オフサイドあり)
15		6	土	リーグ戦③	4チーム総当たりリーグ戦最終日	半面サッカー(オフサイドあり)
16		10	水	みるスポーツ(DVD講義)	教室でビデオを用いた「みるスポーツとしてのサッカー」の学習	
17		12	金	予備	予備	全面サッカー(?)

# 単元計画（詳細）

## I. 学習環境

### 1. 施設・設備・用具・ボール

100m×66mのグラウンドの半面または全面が使用できる。中学1年生の持久走単元と重なる場合は、手前側半面を使用する。

ピッチ表面は土である。「グリーンダスト」を入れているので水はけはよいが、晴天が続くと砂埃はひどい(今年はまだ大丈夫)。

ゴールは正規のものが2組、少年用が2組、ハンドボール兼フットサル用が3組あるが、女子の授業ではフットサルゴールと少年用ゴールしか使用しない。いずれも移動式で、チーム全員で声をかけながらバランスよく運搬することが必要である。運搬後は「セメントタイヤ」を転倒防止用に設置する。女子にとっては重労働であるが、必ず生徒に行わせる。

ボールは、サッカーボールが30～40個、フットサルボールが約30個ある。個数が確定しないのは、中学体育用、中高サッカー部用などが混在することがあるからであり、管理が行き届いていない部分である。

このほか、セーフティコーン、マーカーなど、授業に必要なものは十分ある。ラインも適宜引くことができる。

### 2. 単元の配置と授業時数

本単元は、高校体育において最初で最後の必修サッカー単元である。希望者は3年次に選択サッカーがあるが、これは男女共習で、自分たちでいかに活動を組み立てていくか、つまり「ささえる」ことをテーマにした授業である(補足資料4.参照)。また、「スポーツ大会」(校内球技大会)の女子の種目にフットサルがあるので、選択した生徒は9月の授業でも取り組むことができるが、行事単元なのでチーム作りが中心となる。

したがって、サッカーそのものの学習はこの必修単元しかなく、ここで基礎・基本をしっかり押さえて置く必要がある。

1年次は、前期のバスケットボールに続いての球技である。授業時数は、1,2組が公開授業を含めて17時間。同時期に行われる3,4組は14時間と差がある。3,4組は中身を詰めながら進めている。1月から行われる5,6組は、公開授業を含めて16時間。平均すると15時間程度の単元構成となる。

### 3. 気象条件と雨天時の活動

グラウンドで行うため、天候に左右される。晴天続きだとグラウンドが埃まみれになるが、今回はそのようなこともなく、比較的安定した気候の中で授業を行っている。

雨天時は、体育館での実技または教室でのビデオ学習となる。体育館使用については中学との調整が必要である。半分ビデオ、半分実技のように、入れ替えて行う場合もある。

教室でVDVDを用いた授業を2種類用意しており、これは雨が降っても降らなくても必ず行う。「世界サッカー史をさぐる」「みるスポーツとしてのサッカー」の2つである。

映像機器を常設してある特別教室を利用したいが、あいていないときは、ホームルームにモニターを持っていく。

## II. 学習者

### 1. 筑波大学附属高校の1年生女子

進学校でありながら(あるからこそ?)、本校生徒の運動意欲は高い。だいたい休み時間は早弁をして、丸1時間ある昼休みを外で過ごす生徒が多い(生徒の様子については、補足資料6参照)。1年生女子も、意欲の差はあれ、概ね運動意欲の高い生徒が多い。

全体の3分の2を占める附属中からの内部進学生の中に高校から入学してきた生徒が入ってくるため、当初はお互いギスギスしている。新たな環境になじめない生徒が多数おり、夏休み前のバスケットボール単元では人間関係の部分で気苦労することが多いようだ。

入学して半年以上が経過し、生徒もだいぶ高校生活に慣れ、蓼科生活(ホームルーム合宿)や文化祭を経て、クラスメートとは十分にコミュニケーションが取れるようになってきた。しかし他クラスの生徒とのつながりは、部活動で一緒にならない限り、いまだ薄い。

### 2. 1年生女子とサッカー／フットサルのかかわり

1年1,2組の最初の授業で「サッカーをやったことがある人」と聞いたところ、全員が「ある」と答えた。「みたことがある人」も全員で、「競技場へ行ってみたことがある人」は3分の1程度、「海外でサッカー観戦したことがある人」も1名いた(カタールからの帰国生)。同じ質問を20年前にしたときには、ほとんどの生徒が「やったことはない」と答え、大部分の生徒が「みたこともない」と答えたのとは雲泥の差である(当時、「みたことがある」のは高校サッカーぐらいだった)。

サッカー部に女子部門ができたのは2001年度である。本年度から「女子蹴球同好会」として独立し、1年生が11名在籍している。ほとんどが高校から始めた生徒だが、中には少年サッカーから継続している者や運動能力の高い生徒もいる。

スポーツ大会でフットサルを選択した生徒が、各クラスに6～7名いるが、それ以外にも、サッカー部主催の校内フットサル大会「TFC杯」にチームを編成して出場した者がいる。このようなイベントがあるため、3年間でサッカーやフットサルに触れる機会は、女子であっても比較的多いといえるだろう。

### 3. 当該クラスの生徒の様子

1年1,2組は大変活発なクラスである。サッカー部員は1組に2名、2組に2名おり、いずれも各チームの主将としてリーダーシップを発揮している。

スポーツ大会前後に足首を骨折した生徒が2名おり、当初は松葉杖での見学であった。しかし彼女らの意欲は高く、毎回着替えて出て来て「できることをやります」と宣言し、授業に臨む。いまも動きは制限されているが、ゴールキーパーをするなど、ゲームに関わろうとしている。毎回の見学者記録の代わりに授業ノートをつけさせることにしたのだが、要点を押さえたよいノートを作っている。

運動能力の低い生徒が何人かいる。しかし足を引っ張ろうとする者はいない。同時期に行っている3,4組には、意欲が低く活発でない(その結果足を引っ張るように見える)生徒がいるのに対して、1,2組は全員が高い意欲を示して授業に積極的に取り組んでいる。それは授業前の様子(自分たちでボールを出してリフティングなどに積極的に取り組む)や活動の切り替え時のてきぱきした動きからわかる。

5,6組については今回が初めてなので、コメントできない。

## Ⅲ. 教材「サッカー」

### 1. 一般的特性

サッカーは、世界で最も多くの人に親しまれているスポーツである。FIFAワールドカップに代表される大イベントは、単に一つのスポーツの大会というよりも、大きな社会現象として、オリンピック以上に注目されている。

ボールとゴール(ゴールに見立てたもの)と仲間がいれば、技能の程度に関わらずゲームが成り立つ。特別な用具がいらず、ルールも簡単。このようなシンプルなゲーム構造が、世界中に普及した一つの要因であろう。また、クラブ同士のリーグ戦やカップ戦、代表チームの試合など、国内外問わず多様なゲーム環境が整備されており、みるスポーツ(ライブスポーツとしてもメディアスポーツとしても)としても世界中の人々に親しまれている。日本においては1993年のJリーグ発足以降、観戦環境が整備され、フットサルの普及もあり、するスポーツとしてもみるスポーツとしても定着してきている。

多くの国において古くから、唯一の娯楽として親しまれてきたことや、各国のスポーツ振興の牽引役として機能してきた事実も見逃すことはできない。サッカーくじは、諸外国のスポーツ振興政策の基盤となるものであったし、それは同時にサッカーの広がりにも貢献した。スポーツクラブの頂点にサッカーのプロチームが位置づけられる構造は、クラブシステムのモデルであり、大衆スポーツの土台を形づくった。プロとアマが同じルールで、同じ組織で活動できるということも、サッカーの広がりにも貢献した。国際サッカー連盟(FIFA)を頂点とする競技団体の考え方が、このスポーツを世界一の愛好者を持つスポーツに育てたといえる。

### 2. 体育の教材としての特性

体育の教材としての特性を、「するスポーツ」としての観点と「みるスポーツ」としての観点から整理した。

#### 1) するスポーツとして

##### ①ゴールをめぐる攻防を中心とする

「フットボール」には必ずゴールがあった。ゴールをめぐる攻防を中心とすることはサッカーの本質的要素である。遊びのサッカーにおいても競技のサッカーにおいても変わることはない。

##### ②ボールを手で扱うことができない

日常生活場面で細かな動作が要求され、神経系も充分発達している“手”が使用できないことがサッカーのゲームを困難にしている。だが逆に、手以外ならどこを使ってもよいから、プレーに意外性が生まれるし、技術的に未開発の部分なので練習すればするほど上達する。達成の喜びを感じることもできる。サッカーの楽しさの源もここにあるといえよう。

##### ③チームゲームである

一人ひとりに役割があり責任がある。各自が勝手なことをしてはゲームにならない。一方で、試合開始の笛が鳴ったら終了まで、プレーヤーはフィールド上のどこに位置しても構わない。どこに位置するかは監督やコーチの指示でなく、自分自身の判断で為される。責任を果たした上で自由な行動が要求されるのがサッカーである。常に周囲の状況に気を配り、最善の行動を選択するというサッカーのこのような特性は、日常生活においても大切な心得であり、本当の意味での「自由」を考える良い題材を提供してくれる。

##### ④身体的接触が認められている

元来極めて激しかったものをスポーツとして成り立たせているのはフェアプレーの精神であり、いかなるレベルにおいても重視される。フェアプレーの精神のもとにはプロもアマチュアも関係なく参加の機会を持つというのがサッカーの考え方で、世界中で最も多くの人々に愛されている所以でもある。

#### 2) みるスポーツとして

##### ①オフサイドを除いてルールが簡単

常識的に考えて「良くないこと」が反則であるという程度の理解でサッカーをみることができる。ルールは至って簡単である。ただしオフサイドだけは、わかりにくいかもしれない。

##### ②勝敗がわかりやすい

採点競技と異なり、勝敗が明確である。そのため、ゴールシーンや勝敗などの結果にばかり注意が向けられがちである。

### ③目を向けるべき範囲が広い

広いフィールドで行われるので、特に競技場でのライブ観戦ではどこをみれば良いのかわかりにくい。とりあえずボールを中心にみてしまうが、熟練した観戦者はボール以外のところにも注目することができる。テレビ放送には限界がある。画面に映らないところで何が起きているのかをイメージする能力が必要になってくる。

### ④グローバルなスポーツである

世界中に普及しているサッカーの学習を通して、スポーツの見方を育むだけでなく、世界の多くの国を理解することも可能である。

## 3. 学習者からみた教材「サッカー」の特性

体育の教材としての特性をもとに、高校1年生女子という学習者からみた特性を「するスポーツ」と「みるスポーツ」の両面から整理した。加えて、「コミュニケーション」の観点からも考察した。

### 1) するスポーツとして

ほとんど全員が初心者であることから、他の種目に比べて技能差は少ない。但し、熱心な生徒とそうでない生徒の差は激しくなるだろう。練習すればするほど向上するということは、ボールリフティングの回数の変化からもわかる。ゴールをめぐる攻防ということさえ決まっていれば、ルールは自ら作り出してやっつけていける。

広いところで行うサッカーよりも、女子にとってはフットサルが、手軽で取り組みやすいと感じるだろう。スポーツ大会の種目であり、校内フットサル大会も開催される本校の女子生徒にとっては特にそう感じるのではないか。その一方で、フットサルには取り組みやすいので、せっかくの機会だから広いところでサッカーをやってみたいという生徒も多いに違いない。

### 2) みるスポーツとして

ルールは簡単であるはずだが、「難しい」と思い込んでいる生徒がいる。そのため、条文よりも理念を理解させることが先決である。また、オフサイドルールは、理解が困難だけでなく、このルールにサッカーの本質があるとも言えるので、学習内容の中核に据えていく必要がある。

勝敗がわかりやすいために、そこにしか注目しなくなる可能性がある。指導の際に、勝敗に至るまでの過程、ゴールに至るまでのプロセスに注目させる必要がある。

女子は球技を行う際ボールばかり意識が集中し、スペースを意識することや全体を広く捉えることが不得手である。これは「みるスポーツ」としても同様で、全体をみる広い視野を持たせることが必要である。

### 3) 「コミュニケーション」の観点から

黙っていてもサッカーにならない。言語的な、あるいは非言語的なコミュニケーションを取り合うことが、サッカーには不可欠である。

その際、まずは言葉によるコミュニケーションを重視したい。それは、言葉を発することであり、仲間の言葉に耳を傾けることである。一つひとつの練習で「声を出す」ような仕掛けを設け、声を出すことの習慣化が有効であろう。

まだ隣のクラスの生徒の名前と顔が一致しない者も大勢いる。互いに気軽に名前を呼び合える関係を築くためにも、球技は有効である。レベル差があまり大きくないサッカーの場合、他の球技に比べて比較的容易に取り組めるものと考えられる。

## IV. 単元目標と評価

上記を踏まえ、次の3つの単元目標を掲げた。

### 1) するスポーツとしてのサッカーを楽しもう！

- ・手以外でボールの操作ができる
- ・集団でボールをゴールに運ぶ／防ぐ方法を身につける
- ・草サッカー、フットサル、サッカーなど、状況に応じてゲームをはじめられる
- ・ルールやマナーを理解し実践する(フットサルではセルフジャッジでゲームができる。サッカーでは副審の仕事ができる)

### 2) みるスポーツとしてのサッカーを楽しもう！

- ・フットボールの発展過程を理解し、ルールの意味となかみを理解する(オフサイドルールを理解し判断できる)
- ・よいプレーとよくないプレーを判断できる
- ・サッカーを取り巻く社会的背景が理解できる

### 3) コミュニケーション能力を高めよう！

- ・周囲の状況を把握し、自分自身で考え、情報発信(発言または行動する)できるようになる。
- ・仲間の発するメッセージをしっかり受け止めることができるようになる。

1)2)では「楽しさ」という抽象的な用語を用いているが、この方がスローガンとして生徒に示しやすく、目標と内容を階層的に捉えやすいことからこのようにした(生徒には最初の授業で「スローガン」として示している)。

1)は「するスポーツ」としてのサッカーの特性から導かれたものである。プレーするときに楽しいと感じる場面は、レベルに応じて変化するだろう。初心者レベルが享受できる楽しさに満足することなく、次のレベルの楽しさに触れることがねらいである。あえて到達目標は設けない。

この目標に関する評価は、基本的には普段の活動の観察に基づく。スキルテストは行わないが、ボールリフティングの回数は参考にする(新記録が出たら報告する形をとっている)。

2)は「みるスポーツ」としてのサッカーの特性から導かれたものである。これまで学校体育において「みるスポーツ」教育はあまり為されてこなかったが、マスメディアによる過剰報道をみるにつけ、学校体育でしっかりと「みるスポーツ」教育をする必要があると、改めて感じる次第である。

「する」に関してレベル差があるのと同じように、「みる」に関して上手な人と苦手な人がいる。レフェリーの意味の理解を含め、まずはルールを正確に把握することが必要である。そして、よいプレーとよくないプレーを判断できるようになることが求められる。さらに、ゲームの社会的背景を知ることが大切である。個々のゲームに入れ込む人々の熱狂の意味を理解することにつながり、国際理解にもつながるだろう。グローバルな広がりを持つサッカーだからこそできる、総合的な学習の場がここにある。教室で「世界サッカー史をさぐる」「みるスポーツとしてのサッカー」の二つの講義を行うが、基本的にはこの内容をどれだけ把握しているかが評価の観点となり、まとめの提出物が判断材料となる。

3)は、情報発信と受信の両面から捉えることができる。インフォメーションだけでなく、真の意味でのコミュニケーションを求めたい。携帯やメールを用いた「発信だけ」でコミュニケーションが完結していると思いこんでいる生徒もいるようだが、発信することとともに受信すること、すなわち「仲間からのメッセージを聞くこと」が重要である。サッカーは自分自身で判断して行動するスポーツである。「指示待ち人間」にはプレーできない。これは日常生活にも通じる場所である。自分自身の意見を持つこと、そして発信すること、さらに仲間からのメッセージをしっかりと受け止めることが、ここでいうコミュニケーション能力を高めることの内容である。

授業では、とにかくしゃべる機会を設けるようにしている。パス練習でも「イン、イン」と言ったり、他愛もないことだが、口に出す習慣づけを意図している。どの程度できたかは、授業中に随時チェックする。

評価の前提として、まずは出席すること、そして体を動かすことである。

その上で、「実技」と「提出物」で評価・評定する。実技面では、ボールリフティング回数の伸びとともに、ゲームや練習の様子から「個人技能」「攻撃面」「守備面」「運動量」「声(コミュニケーション)」「ルール・審判」の6項目を設け、○△×で授業中にチェックする。提出物は資料にあるとおりである。これらを総合的に評価し、5段階で評定する。

## V. 学習の展開(1年1, 2組の場合)

全体を2段階に分けて考え、毎時間のテーマを「キーワード」の形で示して授業を進めていった。

### 1)第1段階…サッカー遊び → フットサル(第1回～第7回)

まずは遊びとしてのサッカーを取り上げ、よりよく遊ぶための技術や戦術の学習の場とした。簡単なルールでゲームを行い、最終的には遊びを組織化したものとしてフットサルまで持っていった。フットサル大会までは、特定のチームはつからない。誰とでも仲間づくりをし、即席の仲間ですoccer遊びを楽しむ。個々の技術・戦術の学習も、毎回違った仲間とペアを組んで進めていくようにしている。

毎時間、はじめの15分は全体でのウォーミング・アップとボール・リフティング、パス練習、1対1などを継続して行い、スキルアップを図る。その後テーマに即した課題練習を行い、最後に必ずゲームを入れる。コーンを置いただけのストリート・サッカーからはじまり、最終的には各クラス3チームが、他のクラスと対戦する形でフットサル大会を行った。

「みるスポーツ」については、サッカーの歴史についてのビデオ学習と、フットサルの試合の様子をビデオでみた。

### 2)第2段階…より本格的なサッカー(第8回～第16回)

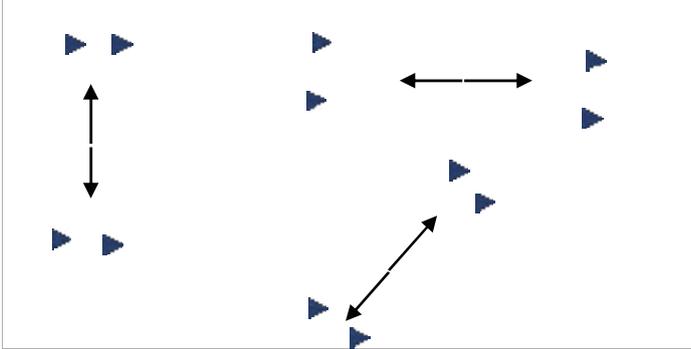
この段階でクラス混合の4チームに分かれる。このチームは最後まで固定である。毎時間、はじめの15分ほどは各チームの時間として、チームごとにアップとチーム練習を行う。チームづくりのためにルールを加工したゲームを少しずつ行い、ゲームを進めながら「サッカーはチームゲームである」ことが理解できるように進めていく。また、サッカーを取り巻く(ささえる)人として、アシスタント・レフェリー(副審)の仕事を学習する。オフサイドルールの理解が重要である。最終的にはルールを正規のものに近づけながらグラウンド半面でのリーグ戦を行い、サッカーのゲームのより良い進め方(ゲームをみる際のポイントにもなる)について学習する。

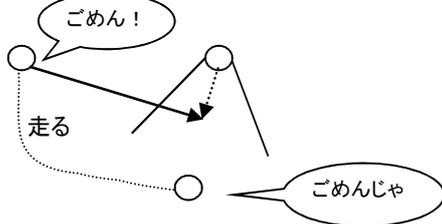
「みるスポーツ」としては、オフサイドなど正式なルールを理解したり、テレビ画面の外側にあるものを理解することを学習する。

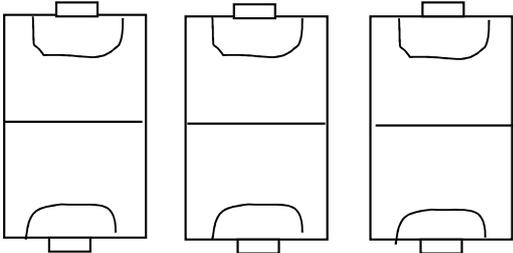
授業の概要は次ページ以降に示した。

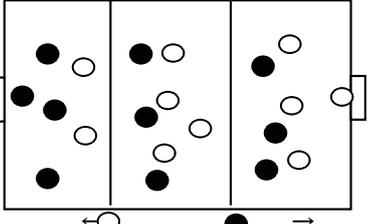
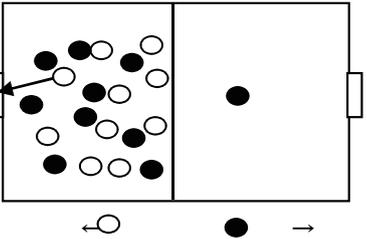
# 1年1・2組女子 サッカー 授業概要

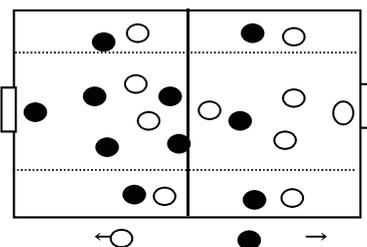
2008.12.6.

時数	期日	学習テーマ・内容	生徒の様子・教師の指導
1	10月22日 グラウンド	<p><b>あそぶ</b></p> <p>1) アップ(シャドーラン・シャドードリブル)                      ・2人組。ジャンケンで勝った方が好きなように走る。負けた方は3m後方を、前の人のマネをして走る。50秒交替。                      ・同様に、一人1個ボールを持って、ドリブルしながら行う。</p> <p>2) ドリブル&amp;リフティング                      ・狭いエリア内(コーンあり)をドリブルで移動。ぶつからないように。右足だけ、左足だけ。                      ・ボールぶつけ鬼ごっこ。一人1個ボールを持って、自由にドリブル。他人のボールに自分のボールをぶつけたら1点。5点先取で勝ち。                      ・ボールリフティング。最高回数を報告</p> <p>3) 4~5人の即席チームでストリートサッカー                      ゴールはコーンの間。グラウンドのどこで行ってもよい。手を用いないでボールをコーン間に通したら1点</p> 	<p>1)シャドーランではすぐに「ネタ切れ」になる。2回目は動き方を紹介するが、なかなか大胆になれない者がいる                      ・前の人を見失うのがおもしろい</p> <p>2)個人差が大きい</p> <p>3)全体的に非常に狭い範囲で行っているが、中にはラインなしでダイナミックに動いているグループもあった。</p>
2	10月24日 化学講義室 (雨のため)	<p><b>世界サッカー史をさぐる</b></p> <p>VTRをみながら、歴史の学習</p> <p>1) 世界各地にあったサッカーのルーツ                      ・漢の時代の「足球」→日本の「蹴鞠」                      ・中南米で行われていた「トラチトリ」                      ・ヨーロッパ各地で行われていた「襲撃ゲーム」(VTR中の呼び方)                      ・世界各地にいまも残る様々なフットボール</p> <p>2) 英国におけるフットボールの発展                      ・祭としてのフットボール→校庭のフットボールへ                      ・ラグビーとサッカーに分化(1863年の会議)</p> <p>3) ラグビーフットボールの発展                      ・ラグビーユニオンとラグビーリーグに分裂                      ・ワールドカップ・ラグビーの優勝国からみるラグビーの発展</p> <p>4) サッカーの発展                      ・世界に広がるサッカー                      ・ワールドカップ優勝国からみるサッカーの発展                      ・世界のサッカー界の現状</p>	<p>1)みたこともない映像に驚きの声。特に「カルチョ・ストリコ」の殴り合いのシーンは「え～」という声上がる。</p> <p>2)校庭のフットボールのイメージとして「ホグワーツ魔法学校」を例に挙げるとわかりやすかったようだ。</p> <p>全体的に大変よく話を聞いており、反応もよかった。ただ、5分ほど時間オーバーし、申し訳ないことをした(6時間目だったのでもまだよかったが)</p>
3	10月29日 グラウンド	<p><b>はこぶ・かわす・まもる</b></p> <p>1) アップ(ブラジル体操・ボール扱い)                      ・4列縦隊で移動しながら全員でブラジル体操&amp;ストレッチ                      ・約3~4分、ボールリフティングやドリブルの自由練習</p> <p>2) ①パスの技術                      ・2人組で「歩いてポン！」と言いながら、インサイドキック&amp;トラップ                      ・同様に、テンポよく「イン・イン」または「アウト・イン」                      ②1対1ボールキープ                      ・止めないで連続パス。笛が鳴ったらボールの取り合い。負けはおんぶスクワット                      ・「あなた・わたし・ボール」の順になるようにしてボールを奪われないように工夫する(「スクリーンプレイ」という)</p>	<p>1)リズムに乗れない者や妙な動きをする者がいるが、はじめてのブラジル体操が面白いようで、全体的にノリノリでやっている。                      2)-①面白がって取り組んでおり、よく声が出ている。</p> <p>2)-②おんぶが下手(背負っている者は腰を曲げすぎ。乗っている者は腕をつっかえ棒になっている)</p>

		<p>③1対1かわしあい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅3～5mほどのライン間で1対1のラインゴールゲーム。相手をかわして、ライン上にボールを置いたら1点。何らかのフェイントで相手をかわす(工夫)。取られそうになったら体を入れてボールを守る(スクリーン)</li> </ul> <p>3) 4～5人の即席チームでストリートサッカー(前回と同様)</p>	<p>2)-③フェイントを紹介する時間があまりとれなかった</p> <p>3)相変わらず、狭い範囲でやっているところが多い</p>
4	10月31日 グラウンド	<p><b>つなぐ</b></p> <p>1) アップ(ブラジル体操・ボール扱い)</p> <p>2) ①パスの技術・戦術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歩いてポン!」「イン・イン」「アウト・イン」の復習と「イン・アウト」</li> <li>・ワンタッチで返す。「同じ人が続いて2回触ってはならない」。連続30回。遅いところはおんぶスクワット</li> <li>・パスがずれた時のサポートの位置=受け手の顔が向いているところへ走る 「ごめん」のあとすぐに「ごめんでない!」と言って走る。そうすれば、ミスにはならない</li> <li>・「ごめん→ごめんじゃない!」の練習。</li> </ul>  <p>②3対1ボールキープ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートの理論…「死角」から出るように動く(フリーランニング)。動いて「はい!」と呼ぶ。</li> <li>・3対1でボールキープ。鬼に触られたり、パスが変なところに行ったら交替。時間は2～3分。最後の鬼は罰ゲーム</li> </ul> <p>3) 4～5人の即席チームでストリートサッカー(枠あり) フットサルコートの外枠のみ引いておき、そのエリア内で行う</p>	<p>2)-①「ボールを受けた人の顔が向いている方へ動いてやればよい」と言っても、「顔の向いている方」の意味がわからない生徒がいるようだ。</p>
5	11月5日 グラウンド	<p><b>復習&amp;フットサル導入</b></p> <p>1) アップ(ブラジル体操・ボール扱い)</p> <p>2) 復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2人組のパス練習</li> <li>・2人組で抜きあい、ボールキープ</li> <li>・4人組で3対1のボールキープ 「予測」が重要</li> </ul> <p>3) クラスごとに3チームずつ作って簡易フットサル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームは教室の席順(縦の列)。他クラスと対戦。人数はGK含めて5人。自由に交替、GKは全員が行う。ボールが出たらプレーできなくなるのですみやかに戻す。まわりの人も協力する</li> <li>・ゴール移動。移動が完了したチームからゲーム。約10分</li> </ul>	<p>2)復習なのでテンポよくできている。3対1では、相手の逆を取ることや、先回りして動くことが重要ということを、デモンストレーションで理解できたようだ。</p> <p>3)ゴールはあらかじめ設置されていた(前のクラスが動かしていた)ものを利用。片付け時にチームでゴールを動かした。最初にしては上出来。</p>
6	11月7日 地学教室  グラウンド	<p><b>フットサルとは</b></p> <p>1) ビデオ学習: 1996年FIFAフットサルワールドカップ決勝(ブラジルvsスペイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えて地学教室集合。15分程度のビデオ学習</li> </ul> <p>2) アップ(ランニング) 地学教室から走り出し、グラウンド2周とストレッチ。ゲームの準備</p> <p>3) 3コートに分かれてゲーム 1試合の中で必ず全員がGKを経験する(ローテーションを促す)</p>	<p>0) 大観衆とスキルフルなプレーの連続に驚きの様子。特にパス回しの解説で「動いた後にスペースができる」ことを説明し、リプレイした際、「お～」という声上がる</p> <p>2)地学教室から律儀にしっかり走っている。</p> <p>3)ボール拾いがうまくできていない(予備のボールの準備など)</p>

<p>7 11月12日 グラウンド</p>	<p><b>フットサル大会</b> 1) アップ(チームごとにブラジル体操)</p> <p>試合の準備</p>  <p>2) 第1試合 1組窓(2-1)2組中央 1組中央(0-0)2組廊下 1組廊下(2-1)2組窓</p> <p>3) 第2試合 1組窓(2-3)2組廊下 1組中央(0-1)2組窓 1組廊下(5-0)2組中央</p>	<p>・フットサルコートはタッチライン33m、ゴールライン20mのサイズで左図のように3面つくる。1組と2組の対戦で、勝利数の多いクラスの勝ちとした。 ※タッチラインを33mとしたのは、サッカーのペナルティエリア(16.5m)をハーフラインとして利用するため</p> <p>第1試合と第2試合の間に一度集合し、結果の確認と、次の試合へ向けての修正点を確認しあった。</p>
<p>8 11月14日 グラウンド</p> <p>コート面</p> <p>グラウンド</p>	<p><b>浮き球の処理</b> 1) アップ(ブラジル体操・ボール扱い)</p> <p>2) ①ウェッジコントロール 手で落としたボールを、足の裏と地面の間に三角形をつくってコントロール。同様にインサイド、アウトサイドでも</p> <p>②ボレーキック 投げてもらったボールをインサイドボレーで返す。次にインステップ。投げる側は「そっ」と言いながら「そっ」と投げ、帰ってきたボールを必死でキャッチする</p> <p>③クッションコントロール&amp;ボレーキック ももに投げられたボールをクッションコントロールしてボレーで返す。次に胸。</p> <p>④ヘディング ・額へのボール乗せ。10数える(早く数えればよい)。次に、その場でのボールつき。バレーボールのトスと並行して行う ・投げられたボールをヘディングで返す。次にジャンプヘッド ・円陣リフティング。円陣バレーの要領で、頭に当たった回数のみ数える。バレーボールでのつなぎあり、キャッチあり。落としたらゼロに戻る。</p> <p>3) クラス対抗で変則的ゲーム ・サッカー場半面にフットサルゴールを置き、全員で一斉にゲーム。最初はボール1個、途中から2個。GKはなし。普通のゴールは1点だが、それ以外に、ピッチ上のいかなる場面においても「頭にボールが当たったら1点」。外に出たら出たところから投げ入れ。投げ入れ時のヘディングがチャンス</p>	<p>2)-①「ポボン」のタイミングをつかむのが難しいようだ</p> <p>2)-②投げる方が重要。「そっ」と言いながらやさしく投げることを、面白がって取り組んでいた</p> <p>2)-③教師の示範に驚きの声。「できない」と言うのは禁止。「できる」と言いながら行うので明るい雰囲気になる</p> <p>2)-④コート面に走って移動。バレーボールを用いてのボール乗せ、ヘディングは興味深く取り組んでいた</p> <p>かなり盛り上がりやっていた。最高で10回弱</p> <p>3)最初は狭い範囲で固まっていたが、ボールが出たときなど、積極的に頭にボールに触ろうとする。目をつぶってジャンプするので危険と思われる場面もあった</p>
<p>9 11月19日 グラウンド</p>	<p><b>オフサイドI ルールの理解とアシスタントレフェリー(副審)の仕事</b></p> <p>1) ①チーム編成 ②アップ(ブラジル体操・円陣パス) 「チーム結成記念ブラジル体操」。円陣パスでは「3文字以内の呼び名」で互いにパス交換</p> <p>2) 講義①歴史と理念 ・農村のフットボールの時代、「固まりから離れているのはずるい」という感覚が原点。校庭のフットボールにおいて徐々に制度化</p> <p>講義②ラグビーのオフサイド ・ラグビーのオフサイド(これが原型)の説明…ボールの位置がオフサイドライン。ボールより前方はオフサイドの位置。プレーしたらオフサイドの反則</p>	<p>1)-①1,2組それぞれ4チーム作り、それを合体。</p> <p>2)生徒の反応は良好。よく聞いているし考えている。質問2~3あり。</p> <p>2)-②ラグビーのルールをあまり生徒は知らない。「トライ」の意味も全くなかった。</p>

	<p>講義③サッカーのオフサイド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日のオフサイドは「待ち伏せ禁止令」。「いつ」「どこで」「何を」がポイント</li> <li>「いつ」…味方がパスした瞬間</li> <li>「どこで」…相手守備側の後ろから2番目のプレイヤーより前方で</li> <li>「何を」…パスを受けるなど具体的にプレーに関与した場合</li> <li>例題を通して考える <ul style="list-style-type: none"> <li>例1)パスが出てから裏側でボールをもらった場合</li> <li>例2)戻ってパスを受けた場合</li> <li>例3)オフサイド位置だがパスをもらわなかった場合 戻し気味のパスを受けた場合</li> </ul> </li> </ul> <p>講義④アシスタントレフェリー(副審)の仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主審一人では判断できないので副審(アシスタントレフェリー)が旗を持って、オフサイドラインをずっと監視している <ul style="list-style-type: none"> <li>→オフサイドの反則があったら旗を上げ、主審に知らせ、主審が笛を吹いたら場所を示す</li> </ul> </li> <li>副審は、タッチラインとゴールラインもみる。ボールが出たら旗を上げ、開始方法を示す</li> </ul> <p>3) 半面でゲーム 試合をやっていないチームは、全員でアシスタントレフェリーを行う。</p>	<p>2)-③「例2)戻りオフサイド」については間違える生徒も多かったです。</p> <p>2)-④副審の旗の持ち方について、「人差し指を立てて、腕と旗が一体化するように持つ」と説明。生徒のデモンストレーションに「カッコいい！」の声が上がる。</p> <p>3)副審の仕事が難しいようだ。「ダッシュの連続」ということがなかなか体で理解できない。プレイヤーはボール周辺に固まる傾向あり</p>
<p>10 11月21日 グラウンド</p>	<p><b>オフサイドII 攻略法と活用法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>チームごとにアップ(ブラジル体操・ボール扱い)</li> <li>講義:オフサイドルールの攻略法と活用法 <ul style="list-style-type: none"> <li>攻撃側は「横への広がり」と「オープンスペースへの走り込み」を意識</li> <li>守備側は「オフサイドトラップ」を意識</li> </ul> </li> <li>半面でゲーム 試合をやっていないチームは、全員でアシスタントレフェリーを行う。</li> </ol>	<p>2) 理屈ではわかったようだ</p> <p>3) 前回よりも、副審の仕事についても、また横への広がりも意識できている。ただしまだまだ</p>
<p>11 11月26日 グラウンド (全面利用)</p>	<p><b>自由と責任</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>チームごとにアップ(ブラジル体操・ボール扱い)</li> <li>講義:サッカーにおける自由と責任(ポジションとシステム)</li> <li>①役割分担ゲーム 各エリア内に人(GK、DF、MF、FW)を配置。そのエリア内しか人は動くことができない。</li> </ol>  <p>②全員攻撃全員守備ゲーム ゴールインしたときに、全員がハーフラインを越えていないと得点と認められない。得点が入ったとき、相手側がハーフラインより前方に残っていたら、残っていた人数分だけボーナス点。</p> 	<p>3)-①ポジション決めにかかる時間がかり、なかなか始まらない。始まってみると一定の範囲しか動けないのもどかしい。それぞれのエリア内で狭く固まってしまう傾向がある。</p> <p>左の図では、白が3-4-2、黒が3-3-3(各チーム10人)。はじめてみないと、数的有利なところがどこかはわからない。</p> <p>3)-②一気に運動量が多くなる。特にGKが長い距離を移動するので大変。予測が大切</p> <p>この図では、黒が一人敵陣に残っているので、ボーナス点1点加わり2点となる</p>

12	11月28日 グラウンド	<b>左右の広がリーウイングを使う</b> 1) チームごとにアップ(ブラジル体操・ボール扱い) 2) 講義:「ウイング」を使う オフサイドの攻略法のところでも出てきたが、両サイドに大きなスペースがあり、そこを活用するとよい攻撃ができる。そのポジションを「ウイング」と呼ぶ。チームづくりの際、GK、DF、MF、FWだけでなく、右サイド、中央、左サイドの担当を考えておくとよい 3) ウイングを使おうゲーム ①ウイングは安全地帯(このエリア内では相手に妨害されない) ②ウイング同士取り合いあり いずれもオフサイドあり。副審もつく 	2)利き足を考えた方がよいが、「左利き」と自覚している者は一人しかいなかった 3)-①安全地帯にボールを出すのはよいが、そこで時間をかけすぎて、相手が全員戻ってしまってからクロスを上げようとしている。遅い。また、ボールのあるサイドに人が集まる傾向がある。途中で指摘したが、ゴール前への入り方のイメージが持てない 3)-②パスをもらう前の動きの工夫がない。もう少し時間をかければそのあたりまでできるのだが…。第2試合は「第3段階」つまり、安全地帯なしの普通のゲームまで行った。
13	12月3日 グラウンド	<b>リーグ戦①</b> 0) フィールド上に引かれたラインの意味とリーグ戦の進め方 1) アップ(ブラジル体操・ボール扱い)・試合準備 2) リーグ戦: 第1試合前半→第2試合前半→第1試合後半→第2試合後半 試合結果(第1日) 第1試合…阿佐ヶ谷マザーズ(栗木)1-1浦和ブルー(館野) 第2試合…チーム名未定(清水)1-0ガンバ東京(宮)	1)各ラインの意味を解説。リーグ戦の進め方についても確認した 2)3)約7分でチーム入れ替え。入れ替え時間もゲームのうち。副審は全員でよく動いていたので、次回から横幅を10m広げることを伝えた
14	12月5日 グラウンド	<b>リーグ戦②</b> 1) アップ(ブラジル体操・ボール扱い)・試合準備 2) リーグ戦: 第1試合前半→第2試合前半→第1試合後半→第2試合後半 試合結果(第2日) 第1試合…阿佐ヶ谷マザーズ(栗木)0-0年末ジャンボ宝くじ(清水) 第2試合…ガンバ東京(宮)2-1浦和ブルー(館野)	1)まずは全員、後ろへ倒れたときの受け身(手の付き方)を練習 前半終了時に全員集合し「パスをもらうときの体の向き」と「前を向いている人を使う」ことを学ぶ。終了後は「大きなクリアーの有効性」を学ぶ
15	12月6日 グラウンド	<b>リーグ戦③</b> 1) アップ(ブラジル体操・ボール扱い)・試合準備 2) リーグ戦: 第1試合前半→第2試合前半→第1試合後半→第2試合後半 試合結果(最終日) 第1試合…阿佐ヶ谷マザーズ(栗木) - ガンバ東京(宮) 第2試合…年末ジャンボ宝くじ(清水) - 浦和ブルー(館野)	
16	12月10日 化学講義室	<b>「みるスポーツ」としてのサッカー</b> 1) オフサイドルールをめぐってルールと審判のとらえ方 2) テレビ観戦のポイント 3) 競技場でのライブ観戦のポイント	
17	12月12日	<b>予備(現時点で未定)</b>	

# まとめの授業 1年1・2組女子「サッカー」 時案

2008.12.6.

## 1 日時

2008年12月6日(土) 11:00~11:50

## 2 場所

グラウンド

## 3 学習者

1年1, 2組女子(40名)

## 4 単元名

サッカー

## 5 本時の位置

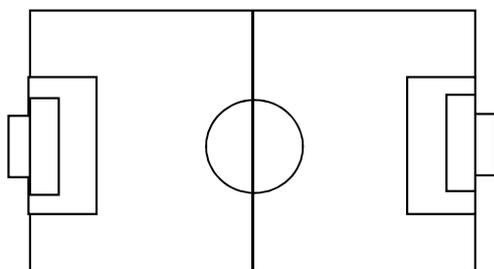
全17時間中の15時間目

## 6 本時の目標

- ①一人ひとりが…、②各チームが…、③クラス全体が…、
- 1)ゲームの中で思う存分力を発揮する
  - 2)リーグ戦の当事者として、ゲームをささえる
  - 3)いま、何をすべきかを考え、主体的に行動する

## 7 準備

- ・サッカーボール30個
- ・副審用フラッグ8本
- ・リーグ戦星取表
- ・ビブス: オレンジ10枚、水色10枚
- ・少年用ゴール(5m×2.15m)1対
- ・ラインは右のように引いておく



タッチライン66m  
 ゴールライン50m  
 センターサークル半径6m  
 ペナルティエリア7.5m×10m  
 ゴールエリア3.5m×4m  
 (それぞれゴールの中心から6mと10m)  
 ※タッチライン、ゴールライン以外は歩測

## 8 展開

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導 入  ( 1 3 分 )	4分	<b>集合・整列・挨拶・点呼</b>	1)教師の号令で集合。チームごと4列縦隊に整列 ・「前へならえ」をして列を整える 2)教師の号令で挨拶・着座・点呼 ・大きな声で挨拶、点呼にも大きな声で返事する	1)集合の際の基準は教師が示す。  風向き、太陽の位置などを考慮
		<b>本時の内容把握</b>	1)これまでの経過と本時の位置づけを把握する ・リーグ戦最終日。これまでの結果はどうなっているのか ・今日の結果次第で順位がどうなるか ・研究大会なので、いままでにないぐらいの「大観衆」がいる 2)本時の流れを把握する ①準備(「場」の準備と「身体」の準備) ②第1試合前半→第2試合前半→第1試合後半→第2試合後半の順 試合がないときはチーム全員で「副審」を行う	1)星取表の見方を説明し、現在の状況を確認する  2)助っ人として出場した者を確認する(人数は多い方に合わせている。不足分は副審のチームから「助っ人」を借りてくるが、助っ人として出場できるのはリーグ戦期間を通して1試合の半分だけ)
	9分	<b>リーグ戦へ向けての準備</b>  ゴール移動	1)試合順・ビブス着用チーム決め ・主将同士のジャンケンで決める 2)ゴールを所定の位置に設置する ・走ってゴールまで移動。両脇について互いに合図をしてゴールを倒して運ぶ ・ゴールを立てたら「セメントタイヤ」を設置する	1)試合順は既に決まっているので確認のみ  2)ゴール移動はいつもやっているが、「しっかり倒して運ぶ」「ゴールポストを持って運ぶ」「チーム全員で協力する」「立てるときはゆっくりと」等に注意させる

	<p>ウォームアップ</p> <p>ボール扱い</p> <p>チームづくり</p>	<p>3)ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームごとにブラジル体操とストレッチングを行う</li> </ul> <p>4)チーム練習・ミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール扱いの練習(リフティングやドリブルなど)</li> <li>・ポジション等に関する打ち合わせ</li> <li>・副審チームはフラッグの準備</li> </ul>	<p>3)4)時間の目安だけ言って、あとはチームごとに活動を委ねる</p>
展 開 (3 2 分)	<p><b>第1試合「阿佐ヶ谷マザーズ(栗木)vsガンバ東京(宮)」前半</b></p>		
	<p>集合・整列</p> <p>挨拶・トス</p> <p>ゲーム ゲームのサポート (副審の仕事、ボール 拾いなど)</p>	<p>1)ハーフラインをはさんで第1試合のチームが集合</p> <p>2)互いに挨拶。主将は握手の後ジャンケン。勝ったチームが攻撃方向を決め、負けチームがキックオフ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副審(たち)はあらかじめ所定のタッチライン際に配置する。予備のボールも持っていく。副審をしながらボール拾いし、自分たちのゲームの打ち合わせをする</li> <li>・主審は教師が行う</li> </ul> <p>3)約7分間で前半終了。笛が鳴ったら副審をやっている2チームと交替</p>	<p>1)すばやく行動するよう促す</p> <p>副審の仕事が適切に行われているか、教師(主審)から言葉かけをする</p> <p>主審をしながら適宜、プレーについてのアドバイスなど、言葉かけをする。</p>
	<p><b>第2試合「年末ジャンボ宝くじ(清水)vs浦和ブルー(館野)」前半</b></p>		
	<p>移動・集合・整列・挨拶・トス</p> <p>ゲームとそのサポート</p>	<p>1)笛の合図ですばやく移動。第2試合のチームはハーフラインをはさんで挨拶・トス</p> <p>2)笛の合図でキックオフ。以下、第1試合と同様</p>	<p>1)移動時間もゲームのうちであることを伝える</p>
展 開 (3 2 分)	<p><b>第1試合「阿佐ヶ谷マザーズ(栗木)vsガンバ東京(宮)」後半</b></p>		
	<p>移動</p> <p>ゲームとそのサポート</p> <p>ノーサイド精神</p>	<p>1)笛の合図ですばやく移動。後半戦なので挨拶はなし。攻撃方向を変えて、あらかじめ広がっておく。</p> <p>2)笛の合図でキックオフ。以下、第1試合と同様</p> <p>3)試合終了後はその場で互いに握手。同時に第2試合後半チームと入れ替え</p>	<p>ゲームをみて適宜アドバイス</p>
	<p><b>第2試合「年末ジャンボ宝くじ(清水)vs浦和ブルー(館野)」後半</b></p>		
	<p>移動</p> <p>ゲームとそのサポート</p> <p>ノーサイド精神</p>	<p>1)笛の合図ですばやく移動。後半戦なので挨拶はなし。攻撃方向を変えて、あらかじめ広がっておく。</p> <p>2)笛の合図でキックオフ。以下、第1試合と同様</p> <p>3)試合終了後はその場で互いに握手。</p>	<p>ゲームをみて適宜アドバイス</p>
整 理 (5 分)	<p><b>本時のまとめ</b></p>		
	<p>集合</p> <p>リーグ戦の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者のまわりに集合、着座</li> <li>・試合結果の確認と、記録・集計</li> <li>・表彰式</li> <li>・教師からの講評</li> <li>・次回の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優勝チームには星取表を授与す</li> <li>・リーグ戦を通しての講評を行う</li> <li>・次回は「みるスポーツとしてのサッカー」をテーマとした授業で、化学講義室で行う</li> </ul>
	<p><b>挨拶・片づけ</b></p>		

# まとめの授業 1年1・2組女子「サッカー」 副案

2008.12.6.

## 1 日時

2008年12月6日(土) 11:00~11:50

## 2 場所

化学講義室

## 3 学習者

1年1, 2組女子(40名)

## 4 単元名

サッカー

## 5 本時の位置

全17時間中の15時間目(教室での授業は2回目)

## 6 本時の目標

- 1) サッカーのゲームの見方を理解する
  - ① テレビ観戦の際のポイントを理解する
  - ② 競技場でのライブ観戦の際の視点を知る
  - ③ 視点が違えば見えるものも異なることを理解する
- 2) ルールの意味と審判の位置づけを理解する
- 3) いま、何をすべきかを考え、主体的に行動する

## 7 準備

- ・「みるスポーツとしてのサッカー」DVD(オリジナル)
- ・DVDデッキ・プロジェクター・スクリーン(化学講義室に常設)

## 8 展開

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導 入  ( 3 分 )	3分	<b>集合・挨拶・点呼</b>	1) 化学講義室に集合。座席は自由 2) 1組週番の号令で、起立、礼、着席 3) 点呼	映像のチェック等はあらかじめ済ませておく
		<b>本時の内容把握</b>	1) これまでの経過と本時の位置づけを把握する ・雨天のためリーグ戦ができない。よって教室の2回目の授業。テーマは「みるスポーツとしてのサッカー」 ・研究大会なので多くの観戦者がいるが、よそ行きになることはない 2) 本時の学習内容と流れを把握する ・ワールドカップの映像などをみながら、テレビ観戦とライブ観戦の両方について、みるスポーツとしてのサッカーの楽しみ方を学ぶ	1) 本時の学習内容は、本単元の3つの目標のうちの一つであり、生涯スポーツの観点からも重要であることを説明する
	3分	<b>1. 1986FIFAワールドカップ・メキシコ大会準決勝 西ドイツvsフランス</b> <b>■オフサイドの場面はテレビでどう映るか①典型的なオフサイドシーン</b> 場面1. 0-1とリードを許したフランスが後半猛攻。ジレスのパスからプラティニが抜け出てゴールを決めるが、わずかに前へ出ていたためオフサイド。 解説1. 通常の映像ではわかりにくい、横からの映像ではわかりやすい。アシスタントレフェリーもしっかり最終ラインの横にいて旗で合図をしている。西ドイツのディフェンダーはあえて一瞬立ち止まり、プラティニをオフサイドのわなにかけた。典型的なオフサイドの場面。	「当時ドイツはまだ東西に分裂していた」と、「ドイツとフランスの間には、日韓関係同様、歴史的・政治的問題が多々ある。代表チームの試合は、それらを踏まえた、ある種の代理戦争になることがある」とにも言及する	

## 2. 1990FIFAワールドカップ・イタリア大会 3位決定戦 イタリアvsイングランド

### ■オフサイドの場面はテレビでどう映るか②“ミスジャッジ”もゲームのうち—ルールと審判の捉え方

場面2-1: 2-1とイタリアがリードしたまま試合は後半ロスタイムへ。右サイド、イタリアのバジジオからのクロスがベルティがヘディングシュート。ゴールインかと思われたが、副審が旗を上げ、主審がそれを認め、オフサイドでノーゴール。

通常の映像ではわかりにくいのが、横からの映像では、ボールがキックされた瞬間、ベルティはオンサイドであることがわかる。副審は正しいポジションについていたが、オフサイドと判断して旗を上げた。解説者は「これはオフサイドじゃないな」と言っている。

発問2-1)今の場面、オフサイドの反則だと思う人？

解説2-1)オフサイドの反則である。なぜなら主審がそう判断したから。サッカーのゲームにおいて主審の判断は最終的なものである。

発問2-2)初期の頃のルールには、何が反則かは書かれていたが、反則をしただけで罰則を決める必要はなかった。プレイヤーはすべてフェアプレーの精神で参加するので反則をするはずがないというのが前提である。

解説2-2)してはならないこと(反則)が決まっているのなら、それをするわけがない。だから罰則を決める必要はなかった。プレイヤーはすべてフェアプレーの精神で参加するので反則をするはずがないというのが前提である。

17条しかないサッカーのルールで最も重要なのは、「第18条 常識」と言われている。スポーツの世界での常識は「フェアプレー」であり「スポーツマンシップ」。

もともとサッカーのゲームには審判はおらず、プレイヤー同士でゲームをやっていた。もめごとが起きたら双方のキャプテンが話し合っ解決していた。それが徐々に競技性が高まり、当該チームの関係者から一人ずつ「アンパイヤ」を出すことになったが、それでももめごとはなくなる。ゲームをコントロールする人が必要になって来た。そこで第三者に「委ねる=Refer」ことになった。レフェリーは、プレイヤーから委ねられている人であり、最終的な判断を下す人である。サッカーの試合において、レフェリーに文句を言うことはあり得ない。

人間がプレーして人間がジャッジする。ミスのないよう誠実に取り組むが、人間なのでミスは起こりうる。「ミスジャッジもゲームのうち」ということで成り立っているのがこのスポーツ。

今日、一つの試合の勝敗の意味がますます大きくなり、レフェリーの判定にも多くの注目が集まるようになって来た。テクノロジーが進化し、テレビカメラの台数も増え、レフェリーが見切れないところをテレビの映像で映し出せるようになり、ミスに対する厳しい目が向けられている。今後、もしかすると、判定に機械が導入される日が来るかもしれない。現にいくつかの試みは為されている。そういうものを、人間は受け入れていくのかどうか。スポーツは誰のためのものなのか。

少なくとも現在のところ、サッカーは、人間がプレーして人間が判断するものである。

イタリアで開催されたワールドカップだったが、準決勝でイタリアはアルゼンチンに敗退。サッカーの母国イングランドと3位決定戦を戦うことになった。美しいゲームは後半ロスタイムに入っているということを使う。

・拳手させる。おそらく大多数が「オフサイドではない」と答えるだろうが、「審判の決定が最終である」ことを強調する。

・何名か指名して発言させる。

「第18条 常識」は板書する。

答えは出せない。問いかけのままこの話題を終える。

10分

## 3. 1994FIFAワールドカップ・アメリカ大会 R16 ブラジルvsオランダ

### ■オフサイドの場面はテレビでどう映るか③ライン際の駆け引き

場面3-1)0-0で迎えた後半、後方からのロングパスにブラジルのベベットが抜け出し、左サイドから中央へクロス。それをロマーリオがうまく合わせて右足でボレーシュート。  
ゴール!

解説3-1)ベベットの飛び出しは、テレビ映像だとオフサイドのように見えるが、キックされてから出ているので問題なし。クロスが蹴られた瞬間、ロマーリオはボールの後方にいたのでこれも問題なし。すばらしいゴールである。

場面3-2)1-0でブラジルリード。オランダGKのキックがハーフラインを越え、ブラジルのディフェンダーがヘディングで前方へフィード。オランダの浅いバックラインを抜け出したベベットが、GKと1対1になり、GKをかわしてゴール。喜ぶブラジルの選手たち。

8分

発問3-2)今の一連のシーンで、「喜んでいる場面」が気に入った人? 「GKをかわしたところ」が気に入った人? 「オフサイドぎりぎりの巧妙な駆け引き」が気に入った人? 「オフサイドぎりぎりの巧妙な駆け引きに気付かなかった人?」

解説3-2)ブラジルのディフェンダーがヘディングしたときの位置が重要になるが、テレビ画面では捉えきれない。実はこのとき、ロマーリオがオフサイドの位置のため、オランダのディフェンダーが一瞬オフサイドの反則と思って立ち止まってしまった。しかしロマーリオは、ボールとは無関係を装い、歩いて戻っている。そのタイミングで、オンサイドであったベベットが一気に抜け出した。ここではオフサイドの位置にいたロマーリオの機転をかかせたプレーが素晴らしい。

このように、テレビでサッカー観戦をするとき、「画面外を想像する」ことは重要。サッカー観戦の達人は、普通の映像をみても、画面外で何が起きているかを想像できる。

恐らく生徒は「オフサイド疑惑」モードになっているので素直にゴールを喜んでいないが、ビューティフルゴールであることを強調する

恐らくほとんどの生徒は「オフサイドぎりぎりの巧妙な駆け引き」に気付かない。巻き戻し、スロー再生を何度か繰り返して理解させる。

<p>5分</p>	<p><b>4. 1998FIFAワールドカップ・フランス大会 アジア最終予選 日本vsイラン</b></p> <p><b>■オフサイドの場面はテレビでどう映るか④ライン際の駆け引きと画面外を想像するテレビ観戦法</b></p> <p>場面4-1)延長戦突入の場面から。イランのスローイン。岡野選手がボールに向かってプレッシャーをかけにいく。イランの選手は前方へ大きく蹴り、次の映像でオフサイドになっていることが判明。</p> <p>解説4-1)テレビ画面では追いきれていないが、岡野選手がプレッシャーをかけると同時に、画面外では日本のディフェンダーがいっせいにバックラインを押し上げて、イランのフォワードをオフサイドのわなにかけようとしていた。このようなラインコントロールを実際のゲームではよくやっているが、テレビでは映し切れない。だから画面外を想像することが大切。</p> <p>場面4-2)今度はハーフライン付近のイランのスローイン。先ほどと同様に、ボールに向かってプレッシャーをかけ、イランの選手が前方へ大きく蹴る。次の映像では、オフサイドにはならなかったものの、イランのフォワードが大急ぎで帰陣する様子が映っている。裏へ出たボールは、ペナルティエリアを出たGK川口が足で処理。</p> <p>解説4-2)先ほどと同様、テレビ画面では追いきれていないが、画面外では日本のディフェンダーがいっせいにバックラインを押し上げて、イランのフォワードをオフサイドのわなにかけようとしていた。バックラインの裏側にできた大きなスペースは、GKが埋めている。GKはただゴール前にいればよいのではなく、スペースを埋める仕事もしている。</p>	<p>巻き戻してスローで再生するとよくわかる。また、この場面と先ほどの部別途のゴールシーんとダブらせて、オフサイドトラップが危険と隣り合わせであることも理解させる</p> <p>巻き戻してスローで再生するとよくわかる。GKが広い範囲をカバーすることの重要性についても理解させる</p>
<p>2分</p>	<p><b>■ディフェンダーの攻撃参加とクロスの有効性およびプレーヤーの判断</b></p> <p>場面4-3)延長後半のイランのビッグチャンス。右サイドからディフェンダーが攻め上がり、クロスを上げる。マークにしていた秋田はボールを見送り、イランのダエイの足もとに。シュートはわずかにはずれたが、決定的なピンチであった。</p> <p>解説4-3)ディフェンダーであってもチャンスがあれば「自由」に攻撃参加。実技でもやったが、サイドをうまく活用することは攻撃の有効な手段。特にGKとDFの間に入られると、守っている側は大変困る。</p> <p>このシーンで秋田選手は、ボールに触るべきか否か、ぎりぎりの判断を一瞬のうちにした。この勢いだと、ボールに触っても自分のゴールにいれてしまう可能性がある。自分が見送ったら、ダエイ選手はボールに触るだろうが、疲労度からみてゴールにはできないだろう。そう判断して見送った。トップレベルのゲームには、このようなぎりぎりの判断がいくつかある。</p>	<p>スポーツを「語る」ことも楽しい。秋田選手の話は、ナンバーという雑誌に掲載されていたもの。選手は試合中、様々なことを考えてプレーしていることに気付かせる</p>
<p>2分</p>	<p><b>■歴史的瞬間①ー日本がはじめてワールドカップに出場を決めた！</b></p> <p>場面4-4)4-3)の直後のシーン。中田がドリブルで前進、左足でシュート。GKがはじいたところを岡野が詰めてゴール。史上初めて日本がワールドカップに出場を決めた瞬間。</p> <p>解説4-4)今でこそ日本がワールドカップに出るのは当たり前のような感じになっているが、実は1998年が初出場。2010年の予選が行われているが、どこの国も必死になっている。予選が一番面白い。</p>	<p>この時点で2002年の開催は決まっていたので、1998年は何としても出場しておく必要があった(出場できなかったら、「ワールドカップに出たこともないせに開催国となる」不名誉な国になるところだった)という背景にも言及する。</p>
<p>2分</p>	<p><b>5. 1998FIFAワールドカップ・フランス大会 大陸間プレーオフ オーストラリアvsイラン</b></p> <p><b>■歴史的瞬間②ーイランがプレーオフでオーストラリアを破って本大会出場</b></p> <p>場面5. メルボルンでの第2戦の後半、2-0とリードしていたオーストラリアが2-1とされ、さらに同点ゴールを決められる。テヘランで1-1、メルボルンでも2-2となり、敵地で多く点を取ったイランが、1998年フランス大会の出場を決めた。</p> <p>解説5. ワールドカップは大陸ごとに予選をやっている。オセアニア代表はいつもどこかとプレーオフをすることになり、オーストラリアはなかなか本大会に出られなかった。2010年大会からは、オーストラリアはアジアの一員として予選を戦っている。2月11日に日本と試合。</p>	<p>オーストラリアのアジア連盟入りは、「スポーツの政治学」の観点から考察できる</p>
<p>2分</p>	<p><b>6. 1998年3月1日 横浜国際総合競技場(現日産スタジアム)のこけら落とし 日本vs韓国</b></p> <p><b>■競技場でのライブ観戦のために①ピッチ横からの引いた映像</b></p> <p>場面6. テレビ局も、サッカーの試合をどうやって映すか、頭を悩ませ、いろいろ工夫している。この映像は、あるテレビ局が作った試験映像。競技場へ行って、タッチライン脇からピッチを見るとこのようにみえる。どこをみてもよい。</p> <p>発問6. ボール周辺をみていた人？違うところをみていた人？</p> <p>解説6. 何らかの視点を持って観戦するとよい。ボールの反対側はどうなっているのだろう。ボールを持っていない側はどうやって守備の組織を作っているのだろう。あるいは、お気に入りの選手をずっと見続けるなど。競技場ならではの楽しみがある。</p>	<p>何人かに聞いてみる</p>

展 開 Ⅲ  ( 1 2 分 )	<p><b>7. 1992年トヨタカップ FCバルセロナvsサンパウロFC スイッチコフ選手を追い続けた映像</b></p> <p>■競技場でのライブ観戦のために②フォワードを見続けるとどうなるか</p>	
	<p>2分 場面7. バルセロナの左サイドのFWであるスイッチコフ選手が、周囲の状況を見て、ボールを呼んで、受けて、運んで、シュート。ゴールが決まり、チームメイトと喜び合う。</p> <p>解説7. ボールのないところで何をしているのかわかる。一人の選手を見続けるのも面白い。</p>	<p>なかなかボールに触れられないが、ストライカーはしっかり仕事をす</p>
	<p><b>8. 1993年トヨタカップ ACミランvsサンパウロFC バレー選手を追い続けた映像</b></p> <p>■競技場でのライブ観戦のために③ディフェンダーを見続けるとどうなるか</p>	
<p>2分 場面8. ACミランのセンターバックであるバレー選手は、4人のDFのリーダーとして、指示をし、ラインを押し上げ、カバーリングを繰り返す。</p> <p>解説8. このときのACミランは、4人のDFが一つの意思で動いて、オフサイドトラップを頻繁に試みていた。そのリーダーがバレー選手。このように、DFを見続けることで、ボールのないところでの駆け引きが見えて面白い。</p>	<p>映像は早送りしながら、4人のディフェンダーが一斉に動いているような場面を取り上げて解説する</p>	
6分	<p><b>9. 2002FIFAワールドカップ決勝 ブラジルvsドイツの2点目のシーン</b></p> <p>■視点を変えると見えるものも違ってくるー2つの映像の比較から</p>	
	<p>場面9-1)通常の映像。右からのグラウンダーのクロスをリバウドがスルー、ロナウドがフロントラップしてシュート。</p> <p>場面9-2)スカパーのタクティカル映像。ゴール裏の高い位置に設置したカメラの映像で、競技場に行ってゴール裏に座るとこのような見え方になる。まったく同じシーンだが、右サイドバックのカパーが長い距離を走り抜けたことで、マークが少しずつずれて行ったことがわかる。</p> <p>解説9. テレビで見えているのはサッカーのごく一部に過ぎない。実際に競技場に行けば、いろんな見方ができる。競技場へ行くと、サポーターの応援など、独特の雰囲気を楽しむこともできる。</p> <p>発問9. サッカーを競技場で観戦してみたいと思った人？</p>	<p>解説者の音声も同じだが、視点を変えるとみえるものが全く違ってくる。サッカーだけでなく様々なスポーツで、実際にライブ観戦することを勧めたいとのメッセージを伝える</p>
整 理  ( 3 分 )	<p><b>本時のまとめ</b></p>	
	<p>1)本時の学習内容を再確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オフサイドの場面がテレビでどう映っているか</li> <li>・テレビ観戦の達人になるために</li> <li>・競技場でのライブ観戦のために</li> <li>・見るスポーツとしてのサッカーの楽しみ方</li> </ul> <p>2)次回の確認</p> <p>次回はリーグ戦最終試合。今日みたことを活かして取り組もう</p>	<p>授業時間内に終わるよう、手際よくまとめる</p>
	<p><b>挨拶</b></p>	
	<p>2組週番の号令で挨拶</p>	

# 導入の授業 1年5・6組女子「サッカー」 時案

2008.12.6.

## 1 日時

2008年12月6日(土) 13:00~13:50

## 2 場所

グラウンド

## 3 学習者

1年5, 6組女子(39名)

## 4 単元名

サッカー

## 5 本時の位置

全16時間中の1時間目

## 6 本時の目標

- 1) 本単元の目標と内容を把握する
  - ①「整列」の意義と本単元の中心的課題
  - ②教材「サッカー」の理解
  - ③本単元の目標と内容
- 2) 「あそぶ」をキーワードに、ボール遊び、サッカー遊びを楽しむ
  - ・ボールを自由に操作する
  - ・仲間とチームを作ってゲームをする
- 3) いま、何をすべきかを考え、主体的に行動する

## 7 準備

- ・サッカーボール30個、フットサルボール20個
- ・コーン20本(グラウンドの脇に適当に立てておく)
- ・ラインは必要ないが、11:00からの公開授業でのラインが残っている

## 8 展開

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導 入	3分	<b>集合・整列・挨拶・点呼</b>		
			1) 教師の号令で「4列横隊」に整列 ・「基準」を決める ・4列横隊に整列する ・列を整えるために「右へならえ」をする 2) 教師の号令で挨拶・着座・点呼 ・大きな声で挨拶、点呼にも大きな声で返事する	・基準は教師が示す  ・あえて緊張感のあるムードをつくるが、理不尽さを感じさせないように、さりげなく整列の指示をする
	(10分)	<b>オリエンテーション</b>		
		1. 「整列」の意義 発問1. 「4列横隊」がわからなかった人? 「右へならえ」がわからなかった人? 解説1. 今日は「4列横隊」だったが、集合のしかたにはいろいろある。並ばなくても集合はできる。しかし並ばねばならないときもある。そのときのために「知っておく」必要がある。「4列横隊」が何かわかれば、あとは応用できるはず。横隊でなく「縦隊」、4列でなく「6列」。少し考えれば、どういものかはわかる。 整列は「勝負どころ」ではない。本題の「サッカー」に力を入れて取り組めるよう、本題以外のところはざらりとやれるようになってほしい。	2. 本単元「サッカー」について ・年内は、研究授業の1回のみ。1月から本格的に始まる。研究授業なのでいきなり「大観衆」がいるが、興奮しないように。	・挙手させる  ・生徒の様子をみて、言葉の強さを調整する

	<p>発問2-1)サッカーをやったことがある人？</p> <p>発問2-2)サッカーをテレビでみたことがある人？ 競技場でチケット買って見に行ったことがある人？ 海外でみたことがある人？</p> <p>発問2-3)20年以上前からこの学校では女子のサッカーの授業をやっているが、15年ぐらい前までは、ほとんどの女子がサッカーをやったことがなく、みたことがあると言う人も高校サッカーぐらいしかなかった。それはなぜか？</p> <p>解説. 日本では1993年からJリーグが始まり、メジャーなスポーツとして認知されるようになった。それまでは、競技人口は多かったものの、強くなかったためファンは少なく、マイナーなスポーツであった。ただ、世界中のほとんどの国で、人々は昔からサッカーが大好きであった。競技人口もファンも、世界一多いスポーツがサッカーである。</p> <p>解説. 本単元のねらい</p> <p>①するスポーツとしてのサッカーを楽しもう…文字通り、プレーを楽しもうということ。足でボールを扱う技術や、サッカー、フットサルのゲームのやり方などを学習する</p> <p>②見るスポーツとしてのサッカーを楽しもう…こちらの方が生涯スポーツとしては関わりが深くなるかもしれない。プレーに上手下手があるのと同じように、みるのが上手な人はいる。サッカー観戦の達人になろう</p> <p>③コミュニケーション能力を高めよう…少なくとも5,6組女子全員の名前と顔は一致させよう。できれば3文字以内の呼び名で互いに呼び合えるようになろう</p> <p>3. 本時のねらいと流れ</p> <p>キーワードは「遊ぼう」</p>	<p>2-1)2)挙手させる</p> <p>2-3)わかる人がいたら挙手の上、発言させる</p> <p>単元のねらいは、ここでは「スローガン」の形で、大きな目標だけを提示する。細かな内容についてはあまり言わない(むしろ活動時間を確保したい)</p> <p>ここでもキーワードのみ伝え、すぐさま動けるようなムードをつくる</p>
<p>展開Ⅰ (12分)</p>	<p><b>ウォーミングアップ: シャドーラン、ドリブル</b></p> <p>体ほぐし(仲間と交流しながらの自由な動き)</p> <p>1)シャドーラン 2人組をつくりジャンケン。勝った方は好きなところへ好きなように走る。負けた人はその人の3m後方から、マネをして走る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約40秒程度で交代</li> <li>・その場で軽くストレッチ</li> <li>・ペアを替えてもう一度行う</li> </ul> <p>2)シャドードリブル 別の2人組をつくり、各自ボール1個ずつ持ってジャンケン。先ほどと同じ要領で、シャドードリブル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約40秒程度で交代</li> </ul> <p>足でのボール操作と状況把握</p> <p>3)フリードリブル コーンを置いてある区域内を自由にドリブル。コーンや人にぶつからないように注意する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指示に従い、ボールにさわれるのは右足だけ、次に左足だけでやってみる</li> </ul> <p>4)ボールぶつけゲーム フリードリブルしながら、自分のボールを他の人のボールにぶつけたら1点。ただしさわることができるのは自分のボールだけ(攻撃されたら逃げる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のボールに当てたら2点。5点取った人が勝ち</li> </ul>	<p>1)できるだけ話したことがない人と2人組をつくるよう促す。ペアを解体するときは握手してさよならをする。2回目は、よりダイナミックな動きを取り入れるよう促す</p> <p>2)ボールとパートナーをとともに視野に入れる(または交互にみる)必要があることに気付かせる</p> <p>3)いろんなところに行ってみよう促す</p> <p>4)5点取ったら「取った！」と大声で言うよう促す(しかし最初なので照れはあるだろう)</p>
<p>展開Ⅱ</p>	<p><b>様々なボール遊び</b></p> <p>ボール感覚</p> <p>1)手や腕を用いてのボールつき 手のひらだけでなく、拳や、肘を使ってもやってみる</p> <p>ボールの種類(サッカーボールとフットサルボールの違い)</p> <p>2)足でボールつき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手でつきながら、ときどき足の裏でボールをついてみる</li> <li>・ほぼ足の裏でボールつき。ときどき手を使ってもよい</li> </ul> <p>ボールリフティング</p> <p>3)ボールリフティング 手以外の部位で、ボールを地面に落とさず何回つくことができるか</p>	<p>1)2)とも、教師の短い示範の後、取り組ませる。ここまではテンポよく、次から次へと課題を紹介する。弾まないボール(フットサルボール)でやっている者は、弾むボールを使っている者と時々交換する。</p>

(10分)	3分	集合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の回りに集合する</li> <li>・ボールリフティングの回数を発表する 次回以降、新記録が出たら授業者に報告する</li> <li>・その場で「遊ぼう」に関する解説を聞く</li> </ul>	3)リフティングは「前回の自分」との競争として取り組んでもらいたい
	2分		解説: 今日のキーワードは「遊ぼう」。ボールを使った遊び方はいろいろあるけど、サッカーは日常生活であまり細かな動きを求められることのない“足”を主に使う遊び。未開発だからこそ、やればやるほどうまくっていく。ドリブルごっこもボールリフティングも、あいている時間を見つけてどんどんやってもらいたい。間違いなく上手になっていく。	
展開Ⅲ(13分)	3分	ストリートサッカー	<p>解説: そして世界中で、ありとあらゆる人たちがやっているのが「サッカーのゲーム」という遊び。ボールとゴールと仲間がいればいつでもどこでもできる。手を使わないで、ボールをゴールに入れるという簡単な遊びをいまからやってみよう!</p> <p>1)ゲームの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人組をつくる(誰でもいい)。できたら座る。その4人が今日のチームメート</li> <li>・相手チームを探す。みつかったらくつつく</li> <li>・ボールを選ぶ。使わないボールはしまう</li> <li>・ゴールはコーンを2本立てた間。ここは重要なので、どうなったらゴールインかということをしっかり話しておくこと(高さは? 後ろからもありか? など)</li> <li>・どこでやるかは自分たちで考える。準備ができたところからゲーム開始</li> </ul> <p>2)ストリートサッカー</p> <p>グラウンド全面で、4対4のゲームを各地で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やってみておもしろくなかったら自分たちでルールを変えてみる</li> </ul> <p>ノーサイド精神</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の笛で試合終了。互いに握手。コーンそのままにして集合</li> </ul>	<p>1)人数が半端になったら調整する(5人組になってもかまわない)</p> <p>既成の概念にとわられず、自由な発想で考え、ゲームに取り組むよう促す。ただし相談にあまり時間をかけることのないように。</p>
	10分	ゲームの工夫(遊び心=スポーツマインド)		
整理(5分)	5分	本時のまとめ	<p>集合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のまわりに集合、着座</li> <li>・各ゲームの様子を発表(どこで、どのようなルールでやっていたか。スコアは?)</li> <li>・教師からの講評</li> </ul> <p>解説: ルールは自分たちでつくるもの。今日やってみた様子をもとに、次回、どうすればもっとおもしろいゲームができるかを考える。そして考えたことをその場で表現する。コミュニケーションが大事。</p> <p>解説: ゴールを奪い合うというのがこの遊びのもっとも重要なところ。いま何対何なのか、いまのプレーはゴールなのかノーゴールなのか、そこはこだわることが大切。あいまいにしない。相手チームとは、ゲーム中は徹底的にやりあうが、ゲーム後はよき仲間。仲間の印に「握手」を忘れないように。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の確認 次回は1月。そこから本格的にはじまる。それまで元気で!</li> </ul>	・置いてあるコーンをみながら、各ゲームの様子を順に聞いていく
			挨拶・片づけ	

# 導入の授業 1年5・6組女子「サッカー」 副案

2008.12.6.

## 1 日時

2008年12月6日(土) 13:00~13:50

## 2 場所

体育館大アリーナ

## 3 学習者

1年5, 6組女子(39名)

## 4 単元名

サッカー

## 5 本時の位置

全16時間中の1時間目

## 6 本時の目標

- 1) 本単元の目標と内容を把握する
  - ①「整列」の意義と本単元の中心的課題
  - ②教材「サッカー」の理解
  - ③本単元の目標と内容
- 2)「あそぶ」をキーワードに、ボール遊び、サッカー遊びを楽しむ
  - ・ボールを自由に操作する
  - ・仲間とチームを作ってゲームをする
- 3)いま、何をすべきかを考え、主体的に行動する

## 7 準備

- ・サッカーボール10個、フットサルボール30個
- ・コーン20本(グラウンドの脇に適当に立てておく)

## 8 展開

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	3分	<b>集合・整列・挨拶・点呼</b>  1) 教師の号令で「4列横隊」に整列 ・「基準」を決める ・4列横隊に整列する ・列を整えるために「右へならえ」をする 2) 教師の号令で挨拶・着座・点呼 ・大きな声で挨拶、点呼にも大きな声で返事する		・基準は教師が示す  ・あえて緊張感のあるムードをつくるが、理不尽さを感じさせないように、さりげなく整列の指示をする
	(10分)	<b>オリエンテーション</b> 着座のまま、オリエンテーションを受ける  1. 「整列」の意義 発問1. 「4列横隊」がわからなかった人? 「右へならえ」がわからなかった人?  解説1. 今日は「4列横隊」だったが、集合のしかたにはいろいろある。並ばなくても集合はできる。しかし並ばねばならないときもある。そのときのために「知っておく」必要がある。「4列横隊」が何かわかれば、あとは応用できるはず。横隊でなく「縦隊」、4列でなく「6列」。少し考えれば、どういものかはわかる。  整列は「勝負どころ」ではない。本題の「サッカー」に力を入れて取り組めるよう、本題以外のところはざらりとやれるようになってほしい。  2. 本単元「サッカー」について ・年内は、研究授業の1回のみ。1月から本格的に始まる。研究授業なのでいきなり「大観衆」がいるが、興奮しないように。		・挙手させる  ・生徒の様子をみて、言葉の強さを調整する

7分	<p>発問2-1)サッカーをやったことがある人？</p> <p>発問2-2)サッカーをテレビでみたことがある人？ 競技場でチケット買って見に行ったことがある人？ 海外でみたことがある人？</p> <p>発問2-3)20年以上前からこの学校では女子のサッカーの授業をやっているが、15年ぐらい前までは、ほとんどの女子がサッカーをやったことがなく、みたことがあると言う人も高校サッカーぐらいしかなかった。それはなぜか？</p> <p>解説. 日本では1993年からJリーグが始まり、メジャーなスポーツとして認知されるようになった。それまでは、競技人口は多かったものの、強くなかったためファンは少なく、マイナーなスポーツであった。ただ、世界中のほとんどの国で、人々は昔からサッカーが大好きであった。競技人口もファンも、世界一多いスポーツがサッカーである。</p> <p>解説. 本単元のねらい</p> <p>①するスポーツとしてのサッカーを楽しもう…文字通り、プレーを楽しもうということ。足でボールを扱う技術や、サッカー、フットサルのゲームのやり方などを学習する</p> <p>②見るスポーツとしてのサッカーを楽しもう…こちらの方が生涯スポーツとしては関わりが深くなるかもしれない。プレーに上手下手があるのと同じように、みるのが上手な人はいる。サッカー観戦の達人になろう</p> <p>③コミュニケーション能力を高めよう…少なくとも5,6組女子全員の名前と顔は一致させよう。できれば3文字以内の呼び名で互いに呼び合える</p> <p>3. 本時のねらいと流れ</p> <p>キーワードは「遊ぼう」</p>	<p>2-1)2)挙手させる</p> <p>2-3)わかる人がいたら挙手の上、発言させる</p> <p>単元のねらいは、ここでは「スローガン」の形で、大きな目標だけを提示する。細かな内容についてはあまり言わない(むしろ活動時間を確保したい)</p> <p>ここでもキーワードのみ伝え、すぐさま動けるようなムードをつくる</p>
展開Ⅰ (12分)	<p><b>ウォーミングアップ: シャドーラン、ドリブル</b></p> <p>体ほぐし(仲間と交流しながらの自由な動き)</p> <p>1)シャドーラン 2人組をつくりジャンケン。勝った方は好きなところへ好きなように走る。負けた人はその人の3m後方から、マネをして走る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約40秒程度で交代</li> <li>・その場で軽くストレッチ</li> <li>・ペアを替えてもう一度行う</li> </ul> <p>2)シャードドリブル 別の2人組をつくり、各自ボール1個ずつ持ってジャンケン。先ほどと同じ要領で、シャードドリブル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約40秒程度で交代</li> </ul> <p>足でのボール操作と状況把握</p> <p>3)フリードリブル コーンを置いてある区域内を自由にドリブル。コーンや人にぶつからないように注意する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指示に従い、ボールにさわれるのは右足だけ、次に左足だけでやってみる</li> </ul> <p>4)ボールぶつけゲーム フリードリブルしながら、自分のボールを他の人のボールにぶつけたら1点。ただしさわることができるのは自分のボールだけ(攻撃されたら逃げる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のボールに当てたら2点。5点取った人が勝ち</li> </ul>	<p>1)できるだけ話したことがない人と2人組をつくるよう促す。ペアを解体するときは握手してさよならをする。2回目は、よりダイナミックな動きを取り入れるよう促す</p> <p>2)ボールとパートナーをとともに視野に入れる(または交互にみる)必要があることに気付かせる</p> <p>3)いろんなところに行ってみよう促す</p> <p>4)5点取ったら「取った！」と大声で言うよう促す(しかし最初なので照れはあるだろう)</p>
展開Ⅱ	<p><b>様々なボール遊び</b></p> <p>ボール感覚</p> <p>1)手や腕を用いてのボールつき 手のひらだけでなく、拳や、肘を使ってもやってみる</p> <p>ボールの種類(サッカーボールとフットサルボールの違い)</p> <p>2)足でボールつき ・手につきながら、ときどき足の裏でボールをついてみる ・ほぼ足の裏でボールつき。ときどき手を使ってもよい</p> <p>ボールリフティング</p> <p>3)ボールリフティング 手以外の部位で、ボールを地面に落とさず何回つくことができるか</p>	<p>1)2)とも、教師の短い示範の後、取り組ませる。ここまではテンポよく、次から次へと課題を紹介する。弾まないボール(フットサルボール)でやっている者は、弾むボールを使っている者と時々交換する。</p>

(10分)	3分	集合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の回りに集合する</li> <li>・ボールリフティングの回数を発表する 次回以降、新記録が出たら授業者に報告する</li> <li>・その場で「遊ぼう」に関する解説を聞く</li> </ul>	3)リフティングは「前回の自分」との競争として取り組んでもらいたい
	2分	解説:今日のキーワードは「遊ぼう」。ボールを使った遊び方はいろいろあるけど、サッカーは日常生活であまり細かな動きを求められることのない“足”を主に使う遊び。未開発だからこそ、やればやるほどうまくっていく。ドリブルごっこもボールリフティングも、あいている時間を見つけてどんどんやってもらいたい。間違いなく上手になっていく。		
展開Ⅲ (13分)	3分	<b>ストリートサッカー</b>  解説:そして世界中で、ありとあらゆる人たちがやっているのが「サッカーのゲーム」という遊び。ボールとゴールと仲間がいればいつでもどこでもできる。手を使わず、ボールをゴールに入れるという簡単な遊びをいまからやってみよう！	1)ゲームの準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人組をつくる(誰でもいい)。できたら座る。その4人が今日のチームメイト</li> <li>・相手チームを探す。みつかったらくつつく</li> <li>・ボールを選ぶ。使わないボールはしまう</li> </ul> ①ボール ②ゴール ③仲間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールはコーンを2本立てた間(または1本だけ立てて当てる)。ここは重要なので、どうなったらゴールインかということをしっかり話しておくこと(高さは？後ろからもありか？など)</li> <li>・どこでやるかは自分たちで考える。体育館の中で入り乱れてもかまわない。自分たちの攻めるゴールと守るゴールが決まっていればサッカー遊びはできる。準備ができたところからゲーム開始</li> </ul>	1)人数が半端になったら調整する(5人組になってもかまわない)
	10分	ゲームの工夫(遊び心＝スポーツマインド)  ノーサイド精神	2)ストリートサッカー 大アリーナ全体で、4対4のゲームを各地で行う <ul style="list-style-type: none"> <li>・やってみておもしろくなかったら自分たちでルールを変えてみる</li> <li>・教師の笛で試合終了。互いに握手。コーンはそのままして集合</li> </ul>	既成の概念にとわられず、自由な発想で考え、ゲームに取り組むよう促す。ただし相談にあまり時間をかけることのないように。
整理 (5分)	5分	<b>本時のまとめ</b>  集合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のまわりに集合、着座</li> <li>・各ゲームの様子を発表(どこで、どのようなルールでやったか。スコアは？)</li> <li>・教師からの講評</li> </ul>	・置いてあるコーンをみながら、各ゲームの様子を順に聞いていく
		解説:ルールは自分たちでつくるもの。今日やってみた様子をもとに、次回、どうすればもっとおもしろいゲームができるかを考える。そして考えたことをその場で表現する。コミュニケーションが大事。  解説:ゴールを奪い合うというのがこの遊びのもっとも重要なところ。いま何対何なのか、いまのプレーはゴールなのかノーゴールなのか、そこはこだわることが大切。あいまいにしない。相手チームとは、ゲーム中は徹底的にやりあうが、ゲーム後はよき仲間。仲間の印に「握手」を忘れないように。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の確認 次回は1月。そこから本格的にはじまる。それまで元気で！</li> </ul>	
		<b>挨拶・片づけ</b>		

# 体育実技サッカー資料 (歴史編 1)

## 1 サッカーの誕生と発展

サッカーは、いつごろどのようにして生まれ発展していったのでしょうか。まずはサッカーの誕生と発展について見ていきましょう。

ボールのようなものを足で蹴る遊びは、昔から世界各地で行われていたようです。最も古い記録は、紀元前2697年に、中国最初の皇帝である黄帝が、この球技を始めたというものですが、このほかにもアメリカ大陸や、ヨーロッパなど、各地にサッカーのルーツといえるものがあります。特にイタリヤのカルチョ、フランスのラ・スールなどは有名です。しかし、直接の起源とされているのは、英国の各地で祭として行われていたフットボールです。



2 祭としてのフットボールから始まった  
中世の英国では、人々の祭として、フットボールが盛んに行われていました。何百人もの人々がゲームに参加し、数キロ隔てて設けられた2つのゴール（城壁、水車小屋、畑の門など様々）のいずれかをめざして、野を越え、川を渡り、街を走り抜けて、ボール（豚の膀胱をふくらませて作った）を持ち込もうと競い合う競技です。ボール

は手で持っても蹴ってもかまいません。あまりにも激しいので国王からたびたび禁止令が出されましたが、それでもフットボールは続きました。その後フットボールは、学校の中でも行なわれるようになり、パブリック・スクールでは紳士を育てるためにスポーツが盛んに行なわれ、フットボールも各学校独自のルールで楽しまれていました。彼らは校内での試合を主に楽しんでいましたが、そのうち学校間の対抗試合を行なうようになり、ルールの統一が必要になってきました。そこでルールに関する会議が開かれ、主流派はフットボール協会 (F.A.) を結成、協会ルールとして最初の統一ルールを作ったのです。1863年のことでした。サッカーという名称も、協会型フットボール (Association football) を省略した呼び方です。ただし、世界的に使われているのはフットボールという言葉です。

3 またたく間に世界へ  
当時英国は、日の沈むことのない大英帝国を築き上げ、世界各地に進出していました。このことが、サッカーが世界に発展していくきっかけとなりました。英国の船乗りや商人、兵士たちは、いったん先で、サッカーのゲームを楽しみました。するとその国の人も、おもしろそうだからやってみようということになり、またたく間にサッカーは世界へ広がっていったのです。こうして19世紀の後半から20世紀にかけて、サッカーは世界に広がり、それぞれの国で最も親しまれるスポーツとして発展していったのです。そして1904年、国際サッカー連盟 (FIFA) が発足しました。1930年のワールドカップ開催までは、まだまだ困難な道のりがありましたが、ワールドスポーツ・サッカーの基礎はこうしてでき上がったのです。

11 サッカーはこんなスポーツ

JFL (地域リーグ) 都道府県リーグ

1999年度からリーグに1部、2部制が導入され、その下にアマチュアリーグも作られ、昇格降格の動き、アマチュアのライセンスも移行しやす

## 2 今日の世界のサッカー

1 世界一を決めるワールドカップ

ワールドカップは、4年に1度、サッカーの世界一を決める、代表チーム同士の大会です。サッカー界だけにとどまらず、世界中の人々が注目する、世界最大の大会です。4年間せつせつと働いて、ワールドカップを見に行くのを人生の生きがいにしていくような人が世界中にはたくさんいます。ワールドカップは、1930年に始まりました。当時、オリンピックはアマチュアしか出られませんが、そこで、プロもアマも集めて、本当の世界一の国を決める大会を開こうということで、始められました。

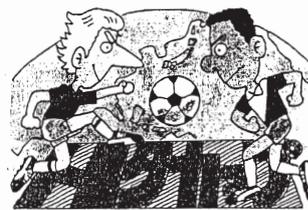
2 年齢別の世界大会

サッカー界では、年齢ごとの代表チームによって、各年代の世界一を決める大会が行なわれています。17歳以下のジュニアユース選手権、20歳以下のワールドユース選手権、23歳以下のオリンピック大会です (ただし、オリンピック大会の参加資格は、今後どうなっていくかわかりません)。ワールドユースは、世界の一流選手への登龍門です。1979年に東京で行なわれたワールドユース大会で優勝したのは、当時18歳のマラドーナ率いるアルゼンチンでした。マラドーナ以外にも、この大会で活躍して世界のトップレベルに駆け上がった選手は数多くいます。

3 国内で行なわれるリーグ戦とカップ戦  
国内では、単独チーム同士の試合が年中盛んに行なわれています。試合形式は、総あたりで試合を行なうリーグ戦と、トーナメントで行なうカップ戦があります。リーグ戦は、同じくレベルのチーム同士がホーム・アンド・アウェイで定期的に試合を行なうため、どの試合もスリリングな内容になります。一方カップ戦は、プロもアマチュアも参加でき、お互い対戦するため、1発勝負につきものの番狂わせが起きる可能性があり、リーグとはまた違ったおもしろさがあります。日本ではリーグ戦はリーグを筆頭に、各レベルのリーグがあり、カップ戦の最高峰は、1月1日に決勝戦が行なわれる天皇杯です。

4 クラブチームの国際交流  
各国のリーグチャンピオンやカップチャンピオンは、大陸ごとに、ナンバードワンを決める大会を行なっています。ヨーロッパの場合、チャンピオンズリーグ、UEFAカップと合わせて、欧州の大カップといえます。チャンピオンズリーグの勝者は、南米のチャンピオンを決めるリベルタドーレス杯の勝者と、世界一をかけて戦います。これがトヨタカップで、日本で見られる世界のトップレベルのサッカーです。ヨーロッパと南米だけで世界一というのをおかしと思うかもしれませんが、今の時点では世界の

13 サッカーはこんなスポーツ



2004年度の大会をもち、歴史的に終了しました。2005年度からは、6大陸のクラブチームが集まり、世界最強クラブを決める大会でFIFA主催の用がなっています (FIFA Club World Cup)

ア(ラ)五輪では、38まで、特別枠の選手が認められていた (23歳以上) 2004年度は2004年のアテネ五輪

特に、東京高等師範学校(現筑波大学)の卒業生が、普及に力を尽くした。また、その附属学校の生徒は、日本で最も早い時期にサッカーに取り組んだ少年たちである。

## 体育実技サッカー資料 (歴史編 2)

### 3 これから始まる日本のサッカー

1) サッカー伝来から日本リーグ発足まで  
 日本にサッカーが伝わったのは1873年、英国のダグラス少佐が築地の海軍兵学校で紹介したのが最初とされています。その後、大学や高校の運動部を中心にサッカーは広まりました。このように、学校が中心になって発展していったことは、日本のサッカー界の特徴です。  
 実業団では、大学のOBが同好会的に細々とサッカーを続けていました。昼休みや仕事が終わったからの個人練習と、大会前に集中的に行なうチーム練習で何とかやっているといた状態でした。1936年に行なわれたベルリンオリンピック

2) 日本リーグの発足とメキシコ五輪銅メダル  
 1964年の東京オリンピックに備えて、西ドイツからクラマー氏が代表チームのコーチとして呼ばれました。そして、クラマー氏によって、本場のサッカーの技術や戦術、考え方が伝えられました。  
 クラマー氏は、代表チームの強化だけでなく、日本サッカーの発展に関する画期的な提案をし、その提案を受けて、他のスポーツに先駆け、19

65年より日本リーグが発足しました。  
 クラマー氏の指導の功にあつて、代表チームは東京オリンピックでは、世界の強豪アルゼンチンを破ってベスト8に進出、1968年のメキシコオリンピックでは堂々3位に輝き、フェアプレー賞も受ける大活躍をしました。  
 当時のサッカー界には、釜本と杉山といった2人のスーパースターがおり、2人が対決した1968年の日本リーグのヤンマー対三菱戦には観客が4万人も入るなど、サッカーブームが巻き起こりました。このまま日本サッカーは世界に向けて羽ばたくかにもみえました。  
 3) 遠く世界と進行するプロ化  
 しかしその後、オリンピックやワールドカップの予選にはすべて敗退、アジアの壁を突破することができず、それに伴うかのように、サッカー人気も衰えていきました。日本リーグでは、観客が

いずれ真の世界一を決めるクラブチームの大会ができるかもしれません。↓2005年夏に開催された第1回大会

1、000人にも満たない試合が続きました。トップレベルのサッカーはこのようにして停滞していたのですが、底辺のサッカー人口は確実にふえ続けていました。全日本少年サッカー大会の参加チームは7、000にも及び、小学生の人気ナンバーワンスポーツになっていました。高校サッカーの発展にも目を見張るものがあり、特に昭和54年度に首都圏に移ってからは、マスコミの取り上げ方も大きくなり、観客数も大幅にふ



15 サッカーはこんなスポーツ

## 中塚義美 『少年のためのサッカー入門』 長岡書店, 1994

### 4 人々を熱狂させるサッカーの魅力は?

国立競技場の決勝には満員の観衆を集めるまでになりました。  
 1980年代に入つて、日本リーグは日産自動車や読売クラブなど、新興型企業チームやクラブチームが活躍するようになりました。このようなチームだけでなく、従来からサッカーをやっていた伝統型企業チームも、サッカーに理解を示し、練習の環境も整え、午前中だけ仕事をして午後からは練習に出られるようなところも出てきました。また、選手の中には、会社の仕事よりもサッカーで身を立たいと考える者もふえてきました。そして、1986年、日本のサッカー界にもプロ選手が認められたのです。  
 しかししよせん、企業の中でスポーツであり、親会社にとってサッカーは本業ではありません。サッカーが国民に根ざしたスポーツとしてさらに発展するためには、もうひとつ大きな飛躍が必要となります。

こんな背景のもとに、Jリーグが発足したのです。  
 Jリーグの発足  
 1993年5月15日、日本サッカー界にとって記念すべき日が始まりました。Jリーグの開幕です。すばらしいセレモニーの中で川淵三郎選手 エアマンの開会宣言の中には、「サッカー」という言葉はありませんでした。「スポーツを愛する」人々のために。サッカー界だけでなく、スポーツ界全体にとっての大きな飛躍のきっかけとなるJリーグの発足です。企業スポーツから脱皮して、地域に根ざしたプロスポーツを、人々が本心にサッカーを、スポーツを楽しめるような環境づくりを考えたJリーグ。日本のサッカーはこれからです。  
 2002年ワールドカップ。日本が立候補しているこの大会は、スポーツ界だけではなく、21世紀の日本の幕開けとなる、大きな歴史的できごととなりましょう。

世界中で最も多くの人々をひきつけているスポーツ、サッカー。今、この瞬間にも、世界中のいたるところで多くの人が競技場に足を運び大声をあげてひいきのチームを応援していることとしてう。そして、世界中のいたるところで、子供から大人まで、いろんな人たちが、それぞれのルールでサッカーのゲームを楽しんでいることとしてう。世界中のほとんどの国がサッカーを国技とし、サッカーだけが唯一のスポーツだと考えている国や人々も大勢います。サッカーの何が、人々をそれほどまでに熱狂させるのでしょうか。  
 この答えは、皆さん自身で見つけてください。きっとあなたも知らぬ間にサッカーのとりこになっているはずですよ。



# 体育実技サッカー資料 (歴史編3)



これまでのワールドカップを見てみると1968年のブラジルを除いて、ヨーロッパの大会ではヨーロッパのチームが、南米の大会では南米のチームが優勝しています。また、14回の大会のうち6回も開催国が優勝しています。

ワールドカップの開催国は、地元での大会に比べて代表チームを長期的に強化します。しかしそれだけではありません。国民全体の応援が、選手にとって大きな力になってくるのです。

果たして2002年のワールドカップで日本はこぼれにいけるでしょうか!?

## 地元が強いワールドカップ —開催国と優勝国の移り変わり

回	年	開催国	優勝国
17	2002	韓国・日本	韓国
16	2000	フランス	フランス
15	1998	フランス	フランス
14	1994	アメリカ	アメリカ
13	1990	イタリア	イタリア
12	1986	メキシコ	メキシコ
11	1982	スペイン	イタリア
10	1978	アルゼンチン	アルゼンチン
9	1974	ドイツ	ドイツ
8	1970	メキシコ	ブラジル
7	1966	イングランド	イングランド
6	1962	チリ	ブラジル
5	1958	スウェーデン	スウェーデン
4	1954	スイス	西ドイツ
3	1950	ブラジル	ブラジル
2	1938	フランス	イタリア
1	1930	ウルグアイ	ウルグアイ

ひとくちメモ

第1回ワールドカップは、1930年に、ウルグアイで開催されました。建国100周年の記念行事として開催を強く希望したこと、1924年と28年のオリンピックに連続優勝した実力が認められたため、南米での開催になったのです。

しかし当時、ヨーロッパからウルグアイに行くには、2週間の船旅しかなく、大会期間も含めて最低6週間は必要でした。当時、ほとんどの選手がアマチュアで、かに離業を持っていたので、6週間の休養をとるのは大変です。例えばルーマニアの選手の人々が勤めていた英国の石油会社では、初めは「退職すればよい。サッカーをやりたい」という態度でしたが、王自らが経営者に電話をかけ、ようやく認められたのです。結局ヨーロッパから参加できたのは、フランス、ベルギー、ユーゴ

## ワールドカップへの船旅 —第1回ワールドカップの話



スロバキア、ルーマニアの4チームでした。ヨーロッパの4チームは、船上でもトレーニングを続け大会に臨みましたが、決勝は地元ウルグアイと隣国アルゼンチン。ウルグアイの優勝は、その後の世界のサッカーの歴史にとって大きな1歩となりました。

ひとくちメモ

### 中塚 義実

筑波大附属高校保健体育科教諭  
日本サッカー協会科学研究委員

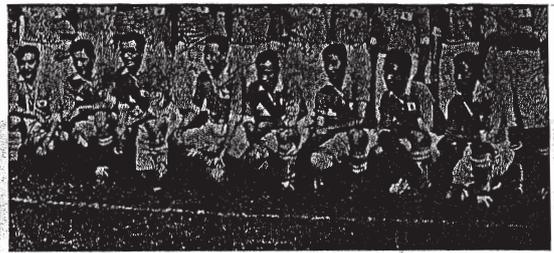
### 2人の金選手の苦悩

スポーツと政治。建て前、あるいは理想としては「別物」とされながらも、現実の世界において政治はスポーツに、スポーツは政治に、大なり小なり影響を及ぼしている。今回は、日本と韓国との、スポーツと政治にまつわる話である。

ベルリンオリンピックを翌年に控えた1935年、代表選手の選考・強化を兼ねて、全日本総合選手権大会が開催された。この大会の優勝チームを中心に代表チームが編成されることもあって、各地域の予選を勝ち抜いた6チームはやる気満々。1910年から日本の統治下にあった朝鮮半島でもオリンピックへの関心は高く、予選を勝ち抜いた京城蹴球団(現ソウル)に対する期待も大きかった。朝鮮半島のチームが日本一を決する大会に参加したのはこれが最初である。在日朝鮮人が大勢見守る中、準決勝で名古屋高商を6-0と完封した京城蹴球団は、決勝でも東京文理大に6-1で圧勝して優勝。その年の秋に行なわれた明治神宮体育大会にも優勝し、朝鮮半島のレベルの高さを証明した。技術や体力の差以上に、「日本のチームには絶対に勝たなければならない」という使命感、精神力の差が大きかった。

戦前の日韓交流は、厳密に言うと国レベルの交流とはいえない。日本と朝鮮半島は一体と考える日本にとって、朝鮮半島は一つの地域である。したがって海を越えてチームが来るのは国内交流の一環であり、朝鮮半島出身者が日本代表チームに入るのも当然であった。しかし、朝鮮半島の側からすれば、日本の一部とみなされるのは耐えがたい屈辱であり、統治権を失っても国まで奪われたわけではないという自負を持っていた。日本のチームとの試合は国の名誉、民族の誇りを賭けた戦いであったし、オリンピックに出場するためには「日本」代表選手になるしか方法がないということは、大きな悩みであった。

1936年3月26日から、ベルリンオリンピックへ向けての代表候補合宿が始まった。しかし、候補選手として朝鮮半島から呼ばれたのは、金栄根と金容植のわずか2名。この選手選考には、当然ながら朝鮮側から大き



1936年ベルリンオリンピックに出場した日本代表メンバー。(日本サッカー協会75年史(「日本サッカーのあゆみ」より))

な非難の声が上がった。選ばれた2人の金選手の心境も複雑である。サッカー選手としてはオリンピックに出場したい。しかし自分は朝鮮人であって日本人ではない。朝鮮蹴球協会からは、代表候補を辞退するよう迫られる……。彼らの心はスポーツと政治の狭間で大きくゆれたに違いない。

実力的には2人とも最後まで残る力があつたが、最終的に金栄根は途中で代表合宿を辞退し、朝鮮半島に戻ることを決意した。当時、東洋一のCFと言われた金栄根は、その後サッカーの表舞台に出ることはなかった。一方、そのまま合宿を続けた金容植は、朝鮮半島からの唯一の代表選手として、「ベルリンの奇跡」の一員となった。オリンピック後、早稲田大学に留学した金容植は、その後も日本代表の中心選手として活躍し、戦後は韓国サッカーの重鎮として、韓国最初のプロチーム・ハレルヤの初代部長・監督をつとめるなど、韓国サッカーの発展に尽くした。

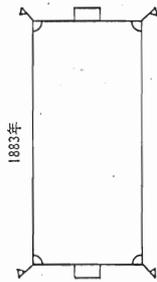
ピッチの中では日本人も朝鮮人も関係ない。みんな仲間である。しかし、ピッチを取り巻く社会情勢は、彼らの意思とは無関係に彼らの運命を左右する。その逆に、ピッチの中のできごとがピッチの外に大きく影響を及ぼすこともある。

“ドーハの悲劇”。イラクの同点ゴールにより、日本はほとんど手の届くところにあった1994年ワールドカップの出場権を失い、代わって韓国が出場が決定した。これ以降、韓国の2002年ワールドカップ招致運動は本格化する。日本にとっての“ドーハの悲劇”は韓国にとっては“ドーハの奇跡”であり、ワールドカップ日韓共催につながる大きなきっかけとなった。

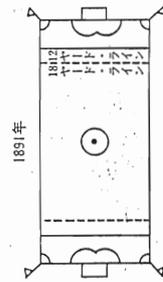
スポーツの勝敗はときに政治をも動かす力となる。このことは、政治によって振り回された2人の金選手とともに記憶にとどめたい。

サッカー・グラウンドの変遷(史料, I.R. Moirより)

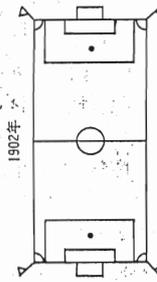
1863年 フットボール・アソシエーション創設(1863年)時のグラウンドである。ゴール・ポストとコーナー・フラッグを立てる以外には何の規定もない。広さは200ヤード×100ヤードを最大とした(1ヤードは91.4cm, したがって現在の約2倍の広さであった)



1866年 ゴール・ポストの頂上に紐(tape)を張ることが決められた。  
1873年 コーナー・キックが採用された。  
1875年 100ヤード×50ヤードを最低の広さにすると規定した。  
1883年 クロス・バーを設置すること、ラインを引くことが規定された。



1891年 ベナルティイー・キックが規定された。センターサークルの中央にマークすることも決められた。  
1897年 グラウンドの広さが130~100ヤード×100~50ヤードと決められた。  
また、タッチ・ラインとゴール・ラインが直角に交わることも成文化された。



1902年 ベナルティイー・エリア、ゴール・エリア、ハーフ・ラインを引くことがきめられた。  
1937年 ベナルティイー・アーク(円弧)が加えられた。

18世紀初頭のこの絵を見れば、ロンドン市内でのフットボールの盛況ぶりがよくわかる

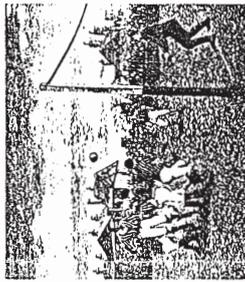


部族の徒の推移

1815 イートン校、初のサッカーの競技ルールを策定。  
1848 主要なブリック・スクールのそれぞれ独自のルールを用いていたため標準化を目的に、ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジにて会議。  
1855年創立の最古のサッカー・クラブのシエフィードは、ケンブリッジ決議に基づいたシエフィールド・クラブ・ルールを採択。  
1863 イングランド・サッカー協会(F.A.)がロンドンに設立され、多少の論争の後、12月1日、同協会ルール14条を制定。  
1865 ゴールの高さを2.44mとし、ここにテープを張る合意が成立。



1890年、初めてゴール・ネットが張られたが、ゴール・ポストの後方にスクリーンとして別に敷けられていた。



1866 オフ・サイド条項により、アタッカーとゴールの間には相手方が3人以上以上いなければならない、とする規定成立。  
1869 ゴール・キックの導入。  
1871 F.A.カップ初年度。ルールに初めてゴール・キーパーの呼称登場。  
1872 初めてボールの大きさの規定。  
1874 初め導入。ルールに初めてアソシエーションの呼称登場。  
1875 シエフィールド、ゴールにクロスバーを導入。これまでのゴール・テープにかわった。  
1877 F.A.とシエフィールド協会の間に、統一ルールに関して合意成立。  
1878 試合のコントロロールに初めてホイ

1882 両手スロー・インを導入。  
1885 初めてプロの認可が行われた。  
1888 イングランド・サッカー・リーグ結成。  
1931 ゴール・キーパーはボールを運ぶ際に従来の2歩から4歩まで歩けることに規定を変更。  
1935 レフェリー2名制を実施したが結局廃案。  
1938 ルール17条がイングランド・サッカー協会事務局局長スタンリー・ラクスによって、今日の形に整備。  
1939 選手の背番号を義務化。  
1951 白色サッカー・ボールの使用許可。



今日のよような照明が登場したのは1950年代であるが、初の試みがなされたのは、実に古く1878年のことであった。

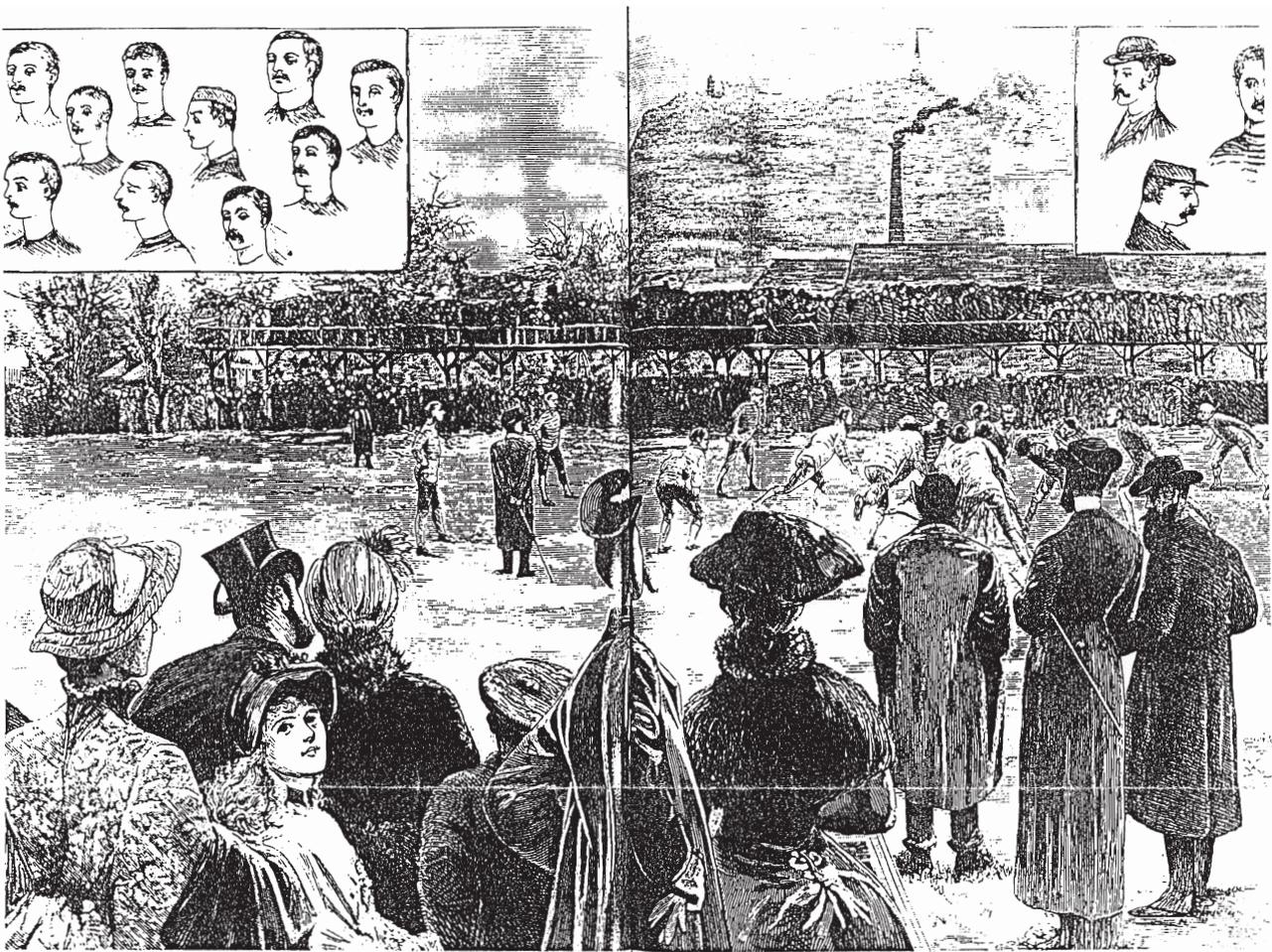
1890 初めてゴール・ネット使用。  
1891 ベナルティイー・キック導入。アンバニアにかわり、レフェリー1名、ライスマン2名が登場。  
1898 公式ルールの条項が今日と同じ17条となる。  
1899 リーグに昇格制度導入。  
1905 ベナルティイー・キックの際、ゴール・キーパーはゴール・ライン上にとどまることを規定。  
1912 ゴール・キーパーの両手使用を自陣ベナルティイー・エリア内に限定。  
1913 フリー・キックの際の相手位置の距離を7.3mから9.15mに延長。  
1914 コーナー・キックの際の相手位置の距離を同じく9.15mに延長。  
1920 スロー・インの際にはオフ・サイドを適用しないことを決めた。  
1924 コーナー・キックからの直接得点を認めた。  
1925 スロー・インは両足をタッチ・ラインにつけて行なうことを規定。  
オフ・サイド条項を改定し、アタッカーとゴールの間にいるべきデ

1955 国際試合で照明初使用。  
1956 リーグ戦で照明初使用(場所はボーツマス)。  
1965 リーグの試合で、負傷した選手に対し1名に限り交代を認めた。  
1966 リーグの試合で、理由を問わず、交代1名が認められた。  
1976 イエロー・カード(警告)、レッド・カード(退場)導入。

体育実技サッカー資料 (No.1)

三宅博之 1983

# 体育実技サッカー資料 (No.2)



▲プロが出現する以前は、グラスゴーのアマチュア・チーム、クイーンズ・パークがスコットランド・サッカー界に君臨していた。しかし、1880年初頭に入ると、彼らはもはや無敵の強さを持つわけにはいかなかった。1883年2月3日、スコットランド・カップ6回戦でダンバートンに連征したクイーンズ・パークは町の名士たちが見守る中で、3-1で敗れた。この試合に勝利をおさめたダンバートンは、さらに勝ち進んで、スコットランド・カップ初優勝を遂げた。このチームは、カップ優勝はこのときの1回だけで、リーグは2度優勝している。しかし、間もなくクイーンズ・パークと同様、セルティックとレンジャーズの事実上の王座独占に道を譲るのである。



エドワード2世時代のイギリスの地方都市で人々が熱中して観た、今日のサッカーとラッパリーの混血児のようなゲーム。嵐嵐のゲームで、しばしば人が罵詈雑言を吐き、このため国王から各都市に禁止令が発せられた。



▲イングランドでは1915年、元のままのサッカー競技会は中断された。だが、西部戦線の両側では、両軍の兵士たちがつねにサッカーに興じ、ときには士気を鼓舞するためにサッカー・ボールを戦場に蹴り込んだりした。写真のイギリス兵たちは、1915年ギリシアのサラニカで休憩時間にサッカーをやっているところである。

ロジャー・マゴット著

84冊 サッカーマガジン 1981(林孝考 80)

世界サッカーマガジンに載った(20年) サッカーマガジン社、1981

「投稿」チームに入らないでもサッカーはできる

# 個人参加型草サッカー顛末記

一度でも体験された方は草サッカーチーム運営の大変さを知っているでしょう。友達同士でチームを組んでも、やれ就職活動だ、テストだ、会社の仕事が入った、で人が抜ける。その度に助っ人を頼まなくてはなりません。学生時代、私が組んでいたチームがまさにこの状態でした。就職活動時には11人中9人が助っ人という時があったくらいです。それなら最初からチームを作らず、助っ人だけで即席チームを組もうか、最初は冗談で言ったんですが、

きっかけはフットサルクラブ(横浜(045.591.00005))の個人参加型フットサルに参加した事でした。「個人参加フットサル」は毎週、決まった時間にコートに行けば、その場でコート側がチームを組んでくれて、ゲームができるというシステム。2時間間で参加費は一人1200円。毎週、運営の事ばかりに頭を悩ましていた自分は、初めて心の底

からサッカーが楽しめたよな気がしました。と同時にこんな形で草サッカーやりたい人が大勢いるのか、という驚きが大きかった。毎朝にも関わらず40人集まると、そこで就職と同時にいつかチームを解散。しばらくしてホームページや都府県のサッカークラブとフットサルコート情報を立ち上げ、をメインにした個人参加型草サッカーの登録メンバーを募集しはじめたのです。

■お互い名前も知らなくて草サッカーは十分楽しめる

インターネットに接続している人しか参加できないのが難点だけど、方法は簡単。まず名前とメールアドレスを登録しておく。幹事がグラウンドを取ったら、登録メンバー全員に一齐にメール発送。×月×日×時から××グラウンドでFC××と試合やるので、来ればFC××と試合やるので、来ればフルコート。13人先着中で締切り。フット

サルなら15人くらい集めて仲間うちで試合をする。こんなので本当に人が集まるのかなと思つたけれどアクを付けてみれば、毎週あんなの間に参加申込みが殺到します。登録メンバーは百人を超えました。頻りに参加してくれて顔を覚えたりもいるけれど、本日は試合が全然知らない同士でチームを組んでます。年齢、職業は当然バラバラ。十代の学生と、四十を超えた人が同じチームでサッカーをする。完全初心者から経験者まで。ゲームが終わればコート代表を集めて解散。私は未だにメンバーがどこに住んで、何をしている人なのかあまり知りません。自分なんかは小、中、高とサッカー経験がまったくなくて、いわゆる外部の人。そんな人間から見ると、サッカーの最大の魅力は「誰かを受け入れることにあると思う。経験者、未経験者、道具のある人、ない人。スポーツに限らず

初めて何かをやろうとする人間には必ず壁があるけど、サッカーはそれが限りなく低い。イギリスでは、公園に行けば草サッカーやつてる人が大勢いて、誰でも気軽にその輪に入れる。年齢、性別、あらゆる障壁を超えて、誰でも受け入れられる空気がある。その空気の有無が、サッカー文化の重要なバロメーターではないだろうか。W杯で優勝できる代表チームを持つよりも、そんな空気のある国のほうが絶対、羨ましい。

■誰もがプレーを楽しめる場作りのノウハウを蓄積

代表やJリーグばかり特別強化して色々な大会で優勝できても、それは一時的喜びでしかない。僕い人たちは上フロアで踊り上れば、下も自然と盛りたくなると思ってるフシがある。トップの環境整備と同じ底辺の環境整備は怠りたてなわけで、個人参加草サッカーはメンバーを募集している。四十代のサッカー初心者も大募集。他にもいろんな企画、やっています。詳細は以下のURLで<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/kc4/s-tamai/> (玉井哲彦)

初めて何かをやろうとする人間には必ず壁があるけど、サッカーはそれが限りなく低い。イギリスでは、公園に行けば草サッカーやつてる人が大勢いて、誰でも気軽にその輪に入れる。年齢、性別、あらゆる障壁を超えて、誰でも受け入れられる空気がある。その空気の有無が、サッカー文化の重要なバロメーターではないだろうか。W杯で優勝できる代表チームを持つよりも、そんな空気のある国のほうが絶対、羨ましい。

■コーチ募集!

サボテイスメンバの所属するFCピアスでは、豊富かつ楽しい練習メニューとノウハウを持つコーチを募り、コーチを探しています。自薦他薦を問わずご連絡下さい。

■誰かがプレーを楽しめる場作りのノウハウを蓄積

代表やJリーグばかり特別強化して色々な大会で優勝できても、それは一時的喜びでしかない。僕い人たちは上フロアで踊り上れば、下も自然と盛りたくなると思ってるフシがある。トップの環境整備と同じ底辺の環境整備は怠りたてなわけで、個人参加草サッカーはメンバーを募集している。四十代のサッカー初心者も大募集。他にもいろんな企画、やっています。詳細は以下のURLで<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/kc4/s-tamai/> (玉井哲彦)

■感想を聞かせて下さい

サボテイスタは読者の批評を唯の楽しみに発行しています。が、楽しみに読んでますこの連絡は不要とごう面白かったか、逆しまらぬか、忌憚ない意見をお聞かせ下さい。反響がなければいつでも廃刊します。またピラマキスタッフ、HPSタッフ、投稿も募集しています。

サボテイスタ 98年12月27日発行  
カカコ

3年生登録をや一資料一個人参加型草サッカーについて? 担当:中塚

【サボテイスタに掲載された個人参加草サッカーの記事への意見メール】  
はじめまして、清水市に住む×××と申します。スタジアム配布版のサボテイスタを友人に見せてもらいバックナンバーを見てみたいと思つたらHPPがあったので拝見しました。37号に個人参加型草サッカーの記事がありました。サッカーあるいはスボーツの底辺を広げるためには、非常に有効なシステムの一つです。個人の参加が重視されるシステムは、現代人には、あまりフィットしないのではなないかと考えます。それは何故か? 純粋に仲間が11人集まらなくて、でも、サッカーをやりたいという人は大勢います。しかし、サッカーはやりたくないけど、チームの取りまとめや審判、大会登録手続きや会議など面倒なことはやりたくない、そういうことは他人に任せて自分はサッカーだけやりたい、という人はもっと大勢います。要するに権利を主張するためには義務があり、義務を果たせば権利を主張できるということを理解する人が少ないのです。加えて、多くの人は権利はお金で買うのだと考えています。

私の住む清水では、学校施設の開放を進めることで競技人口を増やした経緯もあり育成会と呼ばれる少年団の親の団体が大会運営・会場管理などをボランティアで担っています。清水でも、個人登録型のシステムを作りますが私は反対しています。何故なら、義務と権利に対して、しっかりと理解のないまま進められた場合、従来の組織は完全に崩壊してしまうからです。個人登録型のシステムに対する需要は増えるでしょうが、それを運営するスタッフは圧倒的に不足し、支え切ることができないでしょう。現在でも、親が付き合ひが多く、面倒くさいからという理由で、子供を少年団に入れないケースが多々みられます。

少し少ない参加費をもらつても、有給のスタッフを養うのは至難の技です。また、膨大な数のプレーヤー(清水だと2,000人程度は見込まれるのではないかと)を受け入れるとなると活動場所が学校しかありませんから営利性の強いシステムは受け入れられませんが、会場を新設するとして、それを参加費から捻出するなんてことは問題外です。となると、学校を会場としてボランティアが運営することになります。少しばかりお金を出しているからと言って、勝手なことばかり言う人たちの世話を誰が好きなんでやると思いまずか? 誰かが個人として始めることは良いことだと思いますが、少なくともサッカー協会とかがやることではないと思います。

今、地域のサッカーを支えている人々は、地域や子供たち、サッカー、スポーツに対して、何らかの責任感を持つて頑張つてくれている人ばかりです。本当は面倒くさいんだけど、やっていると良いことだということにははつきりしているし、やってみればそれなりに達成感もある。だけども、彼らとて、もっと安易で良心が傷まない方法があればそっちを選びたいんです。

個人登録型のシステムでも、しっかりした指導者が育つ可能性はあります。むしろ、非常に意識も能力も高い人材が出てくる確率は高いと思います。しかし、底辺を広げるためには、それなりの人材が多数いることも重要で、また、決して高いレベルではなくとも、それなりの理解を持った人々を多く育てることも必要です。個人登録型のシステムは、ビジネスとして成り立たせなければ、主流となることはあり得ないと思えます。

# 英語表現（オーラルプレゼンテーション）の指導

－ 2年間の授業実践を踏まえて －

筑波大学附属高校 江原 一浩

## 1. 授業の背景

英語表現は、高校3年生のために開講される自由選択科目の1つである。同時に、総合的な学習の時間のための選択講座の1つでもある。いわゆる併設授業と呼ばれる選択科目である。毎年12月初旬に実施される2年生を対象とした3年次選択科目説明会において、科目の内容、授業の方針、及び選択者への要望を文面（補足資料1参照）による資料を配布し、口頭で説明した後、2年生は科目を選択することになる。平成20年度選択者総人数は19名。選択者の内訳は、自由選択科目とした人数6名、総合的な学習の時間の講座として選択した人数13名であった。平成21年度選択者総人数は9名。2名が自由選択科目として選択、残り7名が総合的な学習の時間として選択した。

授業の理念と原則、運営方法、指導内容、使用参考書等は、筆者が以前所属し活動していたトーストマスターズクラブのものを土台にして、高等学校学習指導要領に記された英語表現の目的に沿い、学習者の言語及び知的レベルに適するよう調整した。ちなみに、トーストマスターズクラブとは、パブリック・スピーチを通してコミュニケーション、話し方、リーダーシップスキルの上達を目的とするアメリカ発祥の国際的な非営利教育団体である。

## 2. 授業の理念と原則

トーストマスターズクラブのスピーチマニュアル（Toastmasters International, 1988）で唱われている理念と原則を適応した。オリエンテーション時に方針と約束事を学習者に詳しく説明し、授業における最重要事項であることを強調した。授業者（筆者）は、授業の中のさまざまな場面で、理念に沿った指導を繰り返し実践し、学習者が原則に適う行動が取りやすい環境を創造すると共に、学習者の良きモデルとなるよう努めた。

### 2.1. 授業の理念

支持的で建設的な学習環境を提供し、個々の参加者がコミュニケーション及びリーダーシップスキルを伸ばし、自信と個性を育む機会を保障することを授業の柱とする。

（Toastmasters International, 1988, p.2）

### 2.2. 授業の原則

次の6項目を授業における行動規範として掲げた。

- ①主体的に授業に参加し、経験から学ぶこと。
- ②他の学習者を観察し、他の学習者から学ぶこと。
- ③お互いの優れた点を認め合い、互いに協力して成長し進歩することを誇りに思うこと。
- ④コミュニケーション技術は一つずつ着実に習得していくこと。
- ⑤名前を呼ばれ、聴衆の前で話す際に覚える緊張感と向かい合い対処すること。
- ⑥人と関わるあらゆる場面でみなぎる自信を身に付けられるよう努力すること。

（Toastmasters International, 1988）

### 2.3. 理念と原則の実現に向けた工夫

掲げた教育理念の下、学習者が原則に沿った行動が取れるよう工夫したことがらの具体例を記す。

オリエンテーション時に、授業の年間計画、スピーチの段階的課題とその内容を明示し、要求する活動と到達すべきスピーカー像を具体的にイメージさせた。

話者を紹介する際、温かく迎える雰囲気作りの効果をねらい、話者の名前とスピーチタイトルを読み上げることに加え、話者について事前に収集した補足的情報を読み上げ、話者と聞き手の距離を近づけると共に、舞台に立った際に覚える緊張感をコントロールする時間を確保した。その後、聞き手に話者に対する激励の拍手を求めると共に、励ましの言葉を添えて話者と堅く握手を交わした。

スピーチ終了時には、再度他の学習者に大きな拍手を求め、話者に労いの言葉をかけると共に堅い握手を交わした。

聞き手が準備スピーチを聞いて評価する際に配布するフィードバック用紙（補足資料 2 参照）に、スピーチの段階的目標に照らして具体的に意見を述べさせ、出来るだけ肯定的で建設的な意見を述べるよう方向付けるため、評価項目名に配慮して **good points**（良かった点）と **suggestions for improvement**（改善に関する提案）という名称を使った。また、2つの項目の分量を **good points** を 2、**suggestions for improvement** を 1 の割合となるようにした。

評価スピーチを行う際には、スピーチの段取りを定めた。具体的には、まず、聞き手全体に向かって挨拶した後、対象者に視線を合わせ、努力に対する労いと感謝の言葉をかけ、良かった点の具体例を数点挙げた後に改善点に触れ、最後に、次回のスピーチを期待する旨の表現を加えるよう指導した。

### 3. 学習指導要領

高等学校学習指導要領にある「英語表現」では、以下の事柄が目標として記されている。

英語で情報や考えなどを伝える能力を一層伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

（文部科学省, 1999, p.124）

英語表現の内容の（4）にスピーチがある。スピーチでは、「話すこと」の言語活動を発展させ、生徒自身の考えや意見を表現する能力を一層伸ばすことをねらいとしている。また、内容の（3）では、レシテーションによる「話すことの」言語活動が取り上げられており、書かれている内容を深く理解し、心的表象（Graesser & Kreuz, 1993; 門田& 野呂, 2001; 津田塾大学言語文化研究所 読解研究グループ, 2002; Grabe & Stoller, 2002）、つまり、読後に抱いた内容理解イメージをどう表現するかを生徒に考えさせ、音声化する活動も積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をねらいとしている。

### 4. 授業について

授業では、授業理念に掲げた望ましい教育環境の創造に特別な注意を払った。特に、学習心理面で、学習者の情意フィルター（Krashen, 1985）の低い環境を創造するよう努めた。情意フィルターとは、人前で英語を話すときに覚える緊張感や不安感であり、これらのマ

イナスの要因を出来るだけ緩和するため、出来るだけ友好的で支援的な教育環境を整える努力をした。教室で使用する言語の90%は英語で行った。授業開始時の挨拶から目標言語を使用し、英語を使用する雰囲気を創造した。学習者に授業に対する主体性を持たせるため、‘the course of the participants, by the participants, for the participants（授業参加者の、参加者による、参加者のための授業）’をスローガンに掲げ、授業の運営に必要な役割を生徒に振り分け、授業運営を出来るだけ生徒に任せるように導いた。

参加者の動機付けと目指す最終到達地点の指標として、優れたモデルスピーチを出来るだけたくさん視聴させた。モデルスピーチは、著名人によるものだけではなく、全英連主催のスピーチコンテストで上位入賞した同世代の学生によるスピーチも取り上げた。また、同学年に在籍していた生徒で第39回全日本青少年英語弁論大会優勝者や、カナダに留学していて一時帰国して登校していた学生にモデルスピーチを依頼した。ゲストスピーカーとして埼玉トーストマスターズクラブ所属のスピーチ経験豊かな社会人や、平成21年度には卒業生を招き、モデルスピーチを披露してもらった。スピーチ後、質疑応答の時間を取り、原稿の書き方、練習方法、緊張の対処方法、その他スピーチ技術に関する理解を深めた。同時に、学習者の発表活動を観察してもらい、助言とコメントを頂いた。指導者によるモデルスピーチを定期的に3回行った（2 prepared & 1 evaluation speeches）。

平成21年度では、学習者が行ったすべてのスピーチをデジタルビデオに録画した。また、評価スピーチを初めて行う際には、他人のスピーチを批評する心理的負担を考慮し、まずはDVDにダビングされた学習者自身の準備スピーチを対象にして評価スピーチを行わせた。

#### 4.1. 授業時の役割分担とその内容

授業時には大きく分けて、4つの役割分担があり、定期的に個々の役割を担うことになっている。4つの役割分担とその内容は以下の通りである。

- ・司会者（Master of ceremony: MC）は、会の円滑な運営と共に、あらかじめ収集した情報をもとに各話者を紹介し、聴衆から拍手を求め、話者を歓迎する雰囲気作りをする。スピーチ後には、話者に慰労の言葉をかけて握手すると共に、聴衆に話者の努力と発表に対する感謝の意を込めた拍手を求める。
- ・計時係（Timer）は、スピーチ時間を計測しつつ緑色のカード（規定時間クリア）・黄色のカード（残り30秒）・赤色のカード（制限時間オーバー）を掲げて、話者に時間経過の情報を伝える。全スピーチ終了後、各話者のスピーチ時間を発表する。
- ・準備スピーチ（prepared speech）話者は、段階的に設定された課題に沿ってスピーチを準備して、自信を持って人前で話す力を養い、論理的で効果的なスピーチの技術を身につけることを主たる目的として発表する。スピーチの制限時間は3分～5分。
- ・評価スピーチ（evaluation speech）話者は、対象となった話者の準備スピーチについて優れた点や改善すべき点を指摘するスピーチを準備する。評価スピーチ話者は、人の話を分析的に聞く力を養い、相手を励ます肯定的で友好的な精神を育成することを主たる目的として発表する。スピーチ制限時間は1分～2分。
- ・聴衆は、個々の話者に対するフィードバックとして観点別評価（5段階評価）を評価シートに記入する。同時に、優れている点と改善点を具体的に記述する。（補足資料2と4を参照）

## 4.2. 課題スピーチとねらい

トーストマスターズのスピーチマニュアルの1つである *Communication and Leadership Program* (Toastmasters International, 1988) を基に、学習者の実態に合わせて一部変更して作成した。

### 4.2.1. 準備スピーチ (Prepared speeches)

#### (1) 他己紹介 (The Ice Breaking)

人前で話すことを経験する。

#### (2) 自己紹介 (“Someone I know Well” With Visual Aids)

適切な視覚資料を効果的に利用して聴衆の関心を引き付け、内容の理解の助けとする。

#### (3) スピーチを組み立てよ (Organize Your Speech)

スピーチの構成 (導入部・本論・結論) を意識して原稿を作成し、自分の主張を根拠と伴に提示して論理的に展開する。

#### (4) 身振りで示せ (Show What You Mean)

効果的な身振り・手振り・タイミングを身につける。

#### (5) 声を豊かに (Vocal Variety)

声の強弱、高さ、速さ、質の使い方を知る。

#### (6) 言葉を生かせ (Work With Words)

正しい言葉を選び、言葉の間違いをなくす。また、話し言葉の機能と使い方を学ぶ。

#### (7) 学んだ話術を駆使せよ (Apply Your Skills)

今までの復習、今まで学んだ話術の応用。

#### (8) 説得力をもって話せ (Make It Persuasive)

聴衆の興味や感情に直接訴えるスピーチを学ぶ。

#### (9) 知識をもって話せ (Speak With Knowledge)

調査から得た知識を聴衆が興味を持つような調子で話す。

#### (10) 聴衆を感動させよ (Inspire Your Audience)

すべての話術を駆使し、聴衆を感動させる。

(Toastmasters International, 1988)

### 4.2.2. 評価スピーチ (Evaluation speeches)

トーストマスターズのスピーチマニュアルの1つである *Effective Speech Evaluation* (Toastmasters International, 1974) を参考にして、学習者の「他人の発表を評価する活動」経験と心理的負担に十分配慮して活動内容と活動順序を計画し、実施した。

#### (1) 自己評価スピーチ (Self-evaluation speech) : DVD に録画された自らのスピーチを対象にした評価スピーチ。

評価スピーチを経験する。準備スピーチの話し方やプレゼンテーションのあら探しをするのではなく、まず、優れた点を出来るだけたくさん発見して指摘し、それから、改善点を友好的で建設的な方法で指摘することに慣れる。

#### (2) 直接観察に基づく他人評価スピーチ (Evaluation speech based on a direct observation of someone’s prepared speech) : 事前に対象者の原稿を読んで内容・表現方法を分析しておく。その後、スピーチを直接観察する。原稿の分析と実際の話術や態度を加えて総合的

にスピーチを評価するスピーチ。

準備スピーチのねらいに照らして、準備スピーチ話者の優れた点と改善点を具体的に、また、友好的で支援的な方法で助言する。

- (3) DVD 観察に基づく他人評価スピーチ (Evaluation speech based on an observation of someone's prepared speech recorded on DVD) : 対象者のスピーチを直に観察し、さらに、DVD に録画された同一のものを何度も見返して観察した上で行う評価スピーチ。準備スピーチのねらいに照らして詳細に観察し、話者の優れた点と改善点をより多くまた具体的に、友好的で支援的な方法で助言する。

(Toastmasters International, 1974)

#### 4.3. 授業の展開

英語表現の授業は、50分を1コマとすると、10分の休憩時間を挟んだ2コマ連続の100分授業である。時間割通り、授業終了のチャイムと共に10分の休憩を取ることにした。というのも、休憩時間は廊下を移動する学生の騒音が大きく、発表者及び聞き手の活動に支障をきたすからである。以下は、基本的な授業の流れである。

- (1) 指導者による本時の概要説明 (当日の授業内容と流れとスピーチ課題の確認) と MC (司会者) と Timer (計時係) の役割担当者の紹介
- (2) MC による開会の挨拶と Timer による役割説明
- (3) Prepared speeches
- (4) Evaluation speeches
- (5) Timer からのスピーチ時間の報告
- (6) MC による会全体の総括と閉会の挨拶
- (7) 指導者による会全体のフィードバックと次回の予定及び役割担当者の確認

#### 4.4. 使用参考書及び資料

平成 20 年度、21 年度に使用した参考図書、視聴覚補助教材を授業で使用した順序で記す。

平成 20 年度

『Communication and Leadership Program』 Toastmasters International, Inc. (1988)

『Effective Speech Evaluation』 Toastmasters International, Inc. (1974)

『Welcome to Toastmasters!』 Toastmasters International, Inc. (1998)

『第 1 回 全国高等学校英語スピーチコンテスト DVD』 全国英語教育研究団体連合 (2008)

『独裁者 (The Great Dictator) ビデオ』 Charles Chaplin (1940) United Artists Entertainment LLC.

『アメリカ VS イギリス リーダーの英語』 鶴田智佳子、柴田真一 (2006) コスモピア

『さきたまトーストマスターズクラブ定例会ビデオ』 さきたまトーストマスターズクラブ (2008)

『埼玉トーストマスターズクラブ定例会ビデオ』 埼玉トーストマスターズクラブ (2008)

『Temple University Commencement Exercises ビデオ』 Temple University (2008)

『小笠原諸島 父島旅行ビデオ』 江原一浩 (2008)

- 『感動する英語！』近江 誠（2003）文藝春秋  
 『Unicorn English Course I』市川泰男、John R. Hestand、塩川春彦、小林千春、萩野敏、  
 安吉逸季（2006）文英堂  
 『米国大統領選 Obama vs. McCain の第 3 回 Debate』CNN（2008）

平成 21 年度

- 『Communication and Leadership Program』Toastmasters International, Inc.（1988）  
 『Effective Speech Evaluation』Toastmasters International, Inc.（1974）  
 『Welcome to Toastmasters!』Toastmasters International, Inc.（1998）  
 『第 1 回 全国高等学校英語スピーチコンテスト DVD』全国英語教育研究団体連合  
 （2008）  
 『独裁者（The Great Dictator）ビデオ』Charles Chaplin.（1940）United Artists Entertainment  
 LLC.  
 『アメリカ VS イギリス リーダーの英語』鶴田智佳子、柴田真一（2006）コスモピア  
 『感動する英語！』近江誠（2003）文藝春秋  
 『オバマ新大統領就任演説』CNN（2009）  
 『オバマ新大統領就任演説文』英文・和文  
[http://www.yomiuri.co.jp/feature07-5171446/fe\\_090121\\_01\\_01.htm](http://www.yomiuri.co.jp/feature07-5171446/fe_090121_01_01.htm)（2009）  
 『ハリウッド・トーク 2』朝日出版社（1997）  
 『Bell School 授業ビデオ（インタビュー番組作成活動）』江原一浩（1989）

平成 21 年 6 月 4 日に実施した童話音読コンテストで学習者が選択した絵本一覧

- 『THE THREE BILLY GOATS GRUFF』Paul Galdone. Clarion Books. New York. (2001)  
 『Lost and Found』Oliver Jeffers. HarperCollins Children's Books. (2007)  
 『I'll Always Love You』Hans Wilhelm. Crown Publishers. New York. (1985)  
 『How to Catch a Star』Oliver Jeffers. Harper Collins Children's Books. (2004)  
 『Hug Time』Patrick McDonnell. LITTLE. BROWN AND COMPANY. New York. (2007)  
 『THE HALLOWEEN PLAY』Felicia Bond. Harper Collins Children's Books. (1999)  
 『Who'll Pull Santa's Sleigh Tonight?』Laura Rader. Harper Collins Children's Books. (2003)  
 『Where the Wild Things Are』Maurice Sendak. Harper Collins Publishers. (1988)  
 『The Giving Tree』Shel Silverstein. Evil Eye Music. (1964)

#### 4.5. 実施状況

過去2年間に実施した授業を何回目の授業か、期日、学習内容と活動及び当日の役割担当（司会と計時係）の5項目を立てて記す。また、平成21年度学校際（第53回筑波大学附属高校 桐陰祭）に参加して、学習成果発表をした際に作成したプログラムと見学者からの感想を記す。

##### 4.5.1. 平成20年度実施状況

授業日：木曜日1、2限（8:20～10:10） 場所：3年6組教室

回	月 日	学習内容と活動	司会	計時
1	4月17日	オリエンテーション <i>Welcome to Toastmasters!</i> DVD 視聴 他己紹介スピーチ (The Ice Breaking Speech)	江原	
2	5月1日	自己紹介スピーチ (視覚資料の利用) パート1 課題タイトル“Someone I know Well” With Visual Aids	江原	江原
3	5月8日	自己紹介スピーチ (視覚資料の利用) パート2 第1回全国高等学校英語スピーチコンテスト DVD 視聴 Bob's comment on how to make a speech 視聴		石塚
4	5月15日	自己紹介スピーチ (視覚資料の利用) パート3 Instructor's model speech	江原	パーキン
5	5月22日	スピーチを組み立てよ (Organize Your Speech) パート1	西川	安富
6	5月29日	スピーチを組み立てよ (Organize Your Speech) パート2 チャップリンの演説 (「独裁者」) ビデオ視聴	パーキン	大塚
7	6月12日	スピーチを組み立てよ (Organize Your Speech) パート3	真野	内藤
8	6月26日	トーストマスターズクラブの定例会ビデオを使用して評価スピーチ (Evaluation speech) 学習 テンプル大学卒業式ビデオ視聴		
9	7月3日	Instructor's model evaluation speech 自己評価スピーチ パート1	永瀬	前田
10	7月10日	自己評価スピーチ パート2 Instructor's model speech with Bob's comment on it	松本	山本
11	9月4日	小笠原旅行ビデオを英語による解説と共に視聴 キング牧師の演説“I have a dream”のテープを使用して声を豊かに (Vocal Variety) を学習 “I have a dream”の演説原稿の音読練習と発表		
12	9月18日	“Life Is So Good” ( <i>Unicorn English Course I</i> より抜粋)	石塚	松本

		を利用しての感情読み練習と発表 声を豊かに (Vocal Variety) パート 1		
13	9月25日	声を豊かに (Vocal Variety) パート 2 米国大統領選 Obama vs. McCain の第 3 回 Debate ビデオ視聴	山本	滝沢
14	10月23日	声を豊かに (Vocal Variety) パート 3 音読大会 (Reading Contest) パート 1 「感動する英語」より抜粋した 3 テキストより 1 つ を選択 「私の生涯」 Love You More than 'Love' 「人間は死んだらおしまいなの」	江原	水越
15	10月30日	音読大会 (Reading Contest) パート 2	江原	
16	11月6日	学んだ話術を駆使せよ (Apply Your Skills) パート 1 Prepared speeches & evaluation speeches (直接観察に基づく他人評価スピーチ)	大坪	土渕
17	11月13日	学んだ話術を駆使せよ (Apply Your Skills) パート 2 Prepared speeches & evaluation speeches (直接観察に基づく他人評価スピーチ) Guest speaker 梅本和正さんによる講評と Model speech	高橋	藤元
18	11月20日	学んだ話術を駆使せよ (Apply Your Skills) パート 3 Prepared speeches & evaluation speeches (直接観察に基づく他人評価スピーチ)	水越	真野
19	12月4日	学んだ話術を駆使せよ (Apply Your Skills) パート 4 Prepared speeches & evaluation speeches (直接観察に基づく他人評価スピーチ) 解散会、授業評価の用紙配布	末松	高橋

Bob = Assistant Language Teacher、江原 = 指導者名

4.5.2. 平成 21 年度実施状況

授業日：木曜日 5、6 限 (13:10～15:00) 場所：3 年 6 組教室

回	月 日	学習内容と活動	司会	計時
1	4 月 16 日	オリエンテーション <i>Welcome to Toastmasters!</i> DVD 視聴 他己紹介スピーチ	江原	
2	4 月 23 日	自己紹介スピーチ (視覚資料の利用) 課題タイトル“Someone I know Well” With Visual Aids 第 2 回全国高等学校英語スピーチコンテスト DVD 視聴 Bob's comment on how to make a speech 視聴	江原	水上 豊中
3	4 月 30 日	「自己紹介スピーチ」を対象とした自己評価スピーチ	江原	勝俣 佐藤
4	5 月 7 日	スピーチを組み立てよ (Organize Your Speech) Instructor's model speech オバマ新大統領就任演説ビデオ視聴	江原	豊中
5	5 月 14 日	Instructor's model self-evaluation speech チャップリンの演説 (「独裁者」) ビデオ視聴	江原	本郷 大熊
6	5 月 21 日	音読大会 (Reading Contest) 「感動する英語」より抜粋した 2 テキストとキング牧師の演説より 1 つ選択 The Story of My Life by Helen Keller Virginia's Letter “I Have a Dream” by Martin Luther King, Jr.	江原	
7	5 月 28 日	声を豊かに (Vocal Variety)	豊中	本郷 豊中
8	6 月 4 日	「声を豊かに」のスピーチを対象とした DVD 観察に基づく他人評価スピーチ Instructor's model evaluation speech on Mr. Nakano's prepared speech 授業についてのアンケート実施	江原	増山 勝俣
9	6 月 11 日	童話音読コンテスト	江原	
10	6 月 25 日	言葉を生かせ (With a Choice of Words)	江原	仲野 本郷
11	7 月 2 日	「言葉を生かせ」のスピーチを対象とした DVD 観察に基づく他人評価スピーチ Model speech titled ‘The First Step is ABC’ by Ms. Watanabe Rika, a winner of All Japan ECC English Oratorical and Recitation Contest for the Mayor of	江原	

		Honolulu Trophy (第39回全日本青少年英語弁論大会優勝者) Model speech about life in Lester B. Pearson College of the Pacific in Canada by Ms. Nakata Maki		
12	7月9日	年間計画の確認 第53回桐陰祭参加についての話し合い Tea party		
13	9月3日	第53回桐陰祭 発表リハーサル	江原	増山
14	9月12. 13日	第53回桐陰祭 発表 Reading Aloud: 水上、増山、勝俣 Evaluation speeches: 本郷、仲野、伊藤 Prepared speeches: 佐藤、豊中、大熊	江原	
15	9月17日	桐陰祭の発表 DVD 視聴と反省 学習成果発表に関するアンケート実施 Model speech by Ms. Hirose from 埼玉トーストマスターズクラブ 桐陰祭における発表についての講評		
16	9月24日	Tall Tale Contest(ほらふきコンテスト) Instructor's model tall tale speech	江原	勝俣
17	10月22日	Interview 番組(有名人とインタビュアー)作成活動 ハリウッド・トーク2にあるモデルインタビューを聞く Bell School 授業ビデオ(インタビュー番組作成活動)視聴 ペアの決定と段取りの打ち合わせ		
18	10月29日	Interview 番組発表	江原	
19	11月5日	説得力を持って話せ(Make it persuasive) Model speech by Ms. Yamaki Hana from Hitotsubashi University	江原	大熊 水上
20	11月12日	“Someone I know” With Visual Aids のスピーチと「説得力を持って話せ」のスピーチを比較しての自己評価スピーチ	江原	江原
21	11月19日	学んだ話術を駆使せよ (Apply Your Skills) 課題タイトル“Ten years later(10年後の私)”	江原	伊藤
22	12月4日	解散会 授業評価の用紙配布 Tea Party		

Bob = Assistant Language Teacher、江原 = 指導者名

#### 4.5.3. 平成 21 年度 学習発表プログラム

平成 21 年度 第 53 回 桐陰祭

### Oral Presentation (英語表現) 発表プログラム

#### I. 期日及び時間：

9 月 12 日 (土) 13:00 ~ 14:00

13 日 (日) 9:30 ~ 10:30

#### II. 場所：3 階、「総合的な学習の時間 (3 年・2 年)」会場 (1 年 3 組教室)

#### III. 発表順、発表者、及びタイトル：

**絵本朗読** (海外で出版され、英語で書かれた絵本の聞かせ読み活動)

1. 水上 友理恵 *How to Catch a Star* by Oliver Jeffers

(『見つけたよ、僕だけの星』 星が大好きな男の子。自分の星があったら、一緒にかくれんぼしたり、散歩に行ったりしたいなあ、という思いがつのり、空から星をとることに挑戦。さて大好きな星は手に入るのでしょうか)

2. 増山 珠美 *I'll Always Love You* by Hans Wilhelm

(『ずーっと ずっと 大好きだよ』 犬のエルフィーは、男の子が生まれた時からどこへ行くのも、何をするのも一緒。彼はいつもエルフィーに愛情の気持ちを伝えます。『ずっと大好きでいるよ』と。しかし、エルフィーは男の子よりも早く成長して年老いてゆきます。その時男の子は...)

3. 勝俣 亜也 *The Three Billy Goat Gruff* by P.C. & Moe Anderson. J.E. & Brown

(『三匹のやぎのがらがらどん』 昔、大きさは違う「がらがらどん」という同じ名前の三匹のやぎがおりました。草を食べに山へ向かうには、気味の悪いトロール (鬼) が住んでいる古いつり橋を渡らなければなりません。三匹の「がらがらどん」が知恵を絞ってトロール (鬼) と対峙します。さて、三匹は無事渡れるのでしょうか？

**評価スピーチ** (他人のスピーチを評価するスピーチ。評価対象話者のスピーチ映像を流した後、発表を行います。)

4. 本郷 絵里子

評価対象話者 伊藤 瑛子 Title: My Special Experience

(課題：声を豊かに。声の強弱・高さ・速さ・質の使い方を知る。)

5. 仲野 悠毅

評価対象話者 仲野 悠毅 Title: Hippopotamus

(課題：構成に注意する。また、視覚資料を効果的に利用する。)

6. 伊藤 瑛子

評価対象話者 佐藤 知佳 Title: Experiences with Foreigners

(課題：声を豊かに。声の強弱・高さ・速さ・質の使い方を知る。)

**準備スピーチ** (段階的課題に沿って行うスピーチ)

7. 佐藤 知佳 Title: Experiences with Foreigners  
(課題：声を豊かに。声の強弱・高さ・速さ・質の使い方を知る。)
8. 豊中 悠介 Title: “好吃” (Delicious!)  
(課題：言葉を活かす。正しい言葉を選び、言葉の間違いをなくす。)
9. 大熊 麻祐子 Title: Great Contributions of a Translator  
(課題：言葉を活かす。正しい言葉を選び、言葉の間違いをなくす。)

#### 4.5.4. 学習発表に対する観覧者からの意見と感想（補足資料 5 参照）

##### (1) 絵本朗読について

「感情表現が良くできていて、それぞれの話に感動しました。絵本には、Text にはない表現や語彙があるので、面白いです。」

「絵本の特徴を良くとらえ、朗読者の個性を良く生かしたすてきな朗読でした。」

##### (2) 評価スピーチについて

「お互いを評価することによって、進歩することができ、効果があると思います。」

「『スピーチについてのスピーチ』という課題そのものが難しいと思うのですが、実に理路整然と、しかもなめらかな話しぶりに感心しました。」

##### (3) 準備スピーチについて

「評価スピーチ同様、だんだんこなれてきて、進化することができて良かったです。」

「よく準備が行き届き、また常に聴衆に直接語りかける姿勢で話してもらえたので、とても分かりやすく、楽しませていただきました。」

##### (4) 全体について

「Topic も様々で、個性があり、楽しく聞くことができました。」

「とにかく素晴らしかった。」

「皆さんよく練習されていて、スムーズな英語で感動しました。ビデオで見るよりも格段に進歩しているのが面白かったです。上手くスピーチをするより、自分の言葉を相手に伝える気持ちの強いスピーチが聞きやすく興味深かったです。先生のように強弱のはっきりした話し方ができるように、皆様更にごがんばってください。」

#### 5. 学習者からのフィードバック

過去 2 年間の授業に関する学習者からの声を、使用したフィードバック用紙にある項目順に沿って記すこととする（補助資料 3、6、7 参照）。授業に関するアンケートは、平成 20 年度は最終授業時に 1 回実施（補助資料 3 参照）。平成 21 年度は、中間期の 6 月と最終授業時に計 2 回実施（補助資料 6 と 7 参照）。学習者の意見・感想は授業成果を映し出す一つの鏡であり、また改善への指標である。彼らの声から授業目標の達成状況を垣間見る。

##### 5.1. 平成 20 年度参加者からのフィードバック（12月に実施。補助資料 3 参照）

最終授業に実施した授業に対する主な意見を記す。

#### (1) 授業の教材について

多くの学習者は、DVD やビデオテープで視聴したスピーチと指導者やゲストスピーカーによるモデルスピーチがとても参考になったと回答している。理由として以下の事柄が指摘された。生のスピーチは、「教室で行うスピーチ」に近く、スピーチをする際に留意する点、例えば、情報を伝える方法、タイミング、アイコンタクト等を直接観察できたので、自分がスピーチをする際にどうしたらよいかイメージし易くなった。また、モデルスピーチを目の当たりにして、自分が向かう目的地がはっきりした。加えて、2名の学習者の回答をそのまま紹介する。

「Toast Masters Club の DVD を見ることで、どのようにスピーチをすればいいのかイメージが湧いた。同学年の人のスピーチを見て、表情や手の動かし方などが学べてよかったと思う。教科書は、文と文をつなぐ言葉を探すときに使えたし、モデルスピーチはとても感動しました。人に伝えたいという気持ちがとても伝わって、『うわっ!』と思えました。目標になった。梅本（ゲストスピーカー）さんのアドバイスもよかったです。」

「とにかく『本場!!』って感じを受けました。DVD やビデオによるモデルスピーチは、世界にその名を轟かす名スピーチと言われるもので、たくさん得るものがあったと思います。『朗読する』という課題の時、皆がそれぞれ強調したい部分をそれぞれの手で工夫できるようになったなあと実感しました。Mr. Umemoto はとにかくスピーチの鏡のような人でした。実際に人のスピーチを聞くことはとてもいいと思います。」

#### (2) 授業の構成・展開について

実施した授業構成・展開で良いという意見がある一方、以下のような改善点も指摘された。

「話者と聞く側の問答があった方がよかった。MC（司会者）と Time Keeper（計時係）が事前に打ち合わせをしておき、通り一遍な進行方法ではなく、もう少し工夫出来ればよかったと思う。」

「Evaluation speech（評価スピーチ）をもっと早く取り入れると、より質の高いスピーチが出来るようになるかもしれないと思った。」

#### (3) スピーチの段階的テーマについて

ほとんどすべての学習者から肯定的な回答が得られた。その理由として、段階的にテーマを示すことで、スピーチの題材を決めるのに役立ったとか、話すときに何に気をつければいいのか気付きやすかったという点が挙げられた。一方で、自分の課題・改善点に集中しすぎて、テーマにまであまり頭が回らなかった気がするという意見もあった。

#### (4) スピーチについて

Evaluation speech（評価スピーチ）について触れた意見が多数あった。3人の回答をそのまま記す。

「評価対象とする話者の原稿を事前に読んでおくことに加えて、直接観察したスピーチをもとに評価スピーチをするという即興性が楽しかった。」

「Prepared speech は、自分で用意するだけなので、気楽にやれたけど、Evaluation speech は友達が頑張って準備したものについて喋るので、とても慎重に考えた。」

スピーチの評価の学習方法を提案してくれた回答もあった。その提案内容は、「一人が Evaluation speaker になるのではなく、ミーティングをする時のように、皆で一つのスピーチについて評価する時間があっても良かった。例えば、オバマ大統領スピーチの良い所、改善すべき所を自由に挙げて行き、まとめて、大統領のスピーチを改めて作り直すようなことも楽しいと思う。」

#### (5) 役割分担とスピーチの回数について

スピーチの回数を増やした方がよいという意見が多かった。主な理由として、人のスピーチを聴く機会は滅多にない貴重な機会であり、人の意見を聞くのは良い経験となる点が挙げられていた。指摘された改善点は、全員に MC と Time Keeper を担う機会を与えるべきというものであった。

#### (6) スピーチのフィードバックや評価（ジャッジ・シート）方法について

人の意見はとても参考になり、励みにもなった。また、自分では気づかない点を指摘され、良いところはさらに伸ばせるように、改善すべき点は矯正しようと意識して次のスピーチに取り組めたという肯定的意見が多かった。得点式の方（補足資料 4 参照）が具体的に記述し易いという意見もあった。

#### (7) 感想

3 人の学習者の意見をそのまま紹介する。

「楽しかった。前日寝るのが遅くなってしまいうことも良くあったが、スピーチは気分良く出来て楽しめた。受験で習った表現や、英語Ⅱや Writing の授業で習った表現をスピーチに入れてみたりも出来て、表現の定着にも役に立ったと思う。全体としてクラスの雰囲気が和やかだったのも、授業を楽しく感じられた大きな要因だった。スピーチは演説者の能力だけではなく、聞く側の態度も重要だから好意的な目で見てくれている状況はとてもスピーチしやすかった。来年の生徒達も楽しんでくれるといいと思います。卒業した後、第 1 回生として授業に参加したりするのも楽しいかもしれません。楽しい授業ありがとうございました」

「人前で話すのはまったく得意ではありませんでした。今もそうかもしれませんが、少しは自信が持てたかもしれません。経験を重ねていくうちに、自分の弱点が見えてきて、その弱点をどのように克服するかを毎回考えました。結局、最後まで prepared speeches の方では上手に自分の言いたいことが聞いている人に伝わりませんでした。人前で話すことは苦手ではなくなりました。ありがとうございました。」

「この授業を取ると決めたときは、『英語が苦手な俺が大丈夫なの?』という気持ちで一杯でしたが、授業が始まってからは本当に楽しくて毎週木曜日が楽しみでした。やる気があれば楽しめるし、スピーチで人を引きつけることも出来るのだということが分かりびっくりでした。だんだん、スピーチで 1 回は人を笑わそうということを目指に置くようになり、スピーチ中に跳んでみたり、落語を用いてみたり、最後のスピーチまでおとぼけ専門になっちゃいました。まあ、今までは英語のスピーチ＝真面目なものという印象があり、真面目なことしかやったことはなかったので良かったのではないかと思います。はっきり言って、『オーラル・コミュニケーション』という名、『英語ばかり使用する』という

内容紹介では、ちゃんとやる気のある人ではないとこの授業取らないと思います。だけど、だからこそ、落ち着いた雰囲気です。最初から最後まで締まった内容の授業を先生、生徒が一体となって作り上げることが出来たのではないかなと思いました。ということで、来年度も是非授業紹介の時は、ちょっと大変そうな授業というオーラを出してください。やはり、いいムードあってこそその授業だと思いました。本当によい経験をありがとうございました。」

## 5.2. 平成 21 年度参加者からのフィードバック 1 (補助資料 6 参照)

平成 21 年 6 月 4 日に実施。授業に対する主要な声をそのまま記す。

### (1) スピーチについて (目的、制限時間等)

「自分の練習してきたスピーチを DVD で見られるのはすごく良い。また、評価スピーチで他の人のスピーチを話したり、自分のスピーチについて話されたりするのは、違う視点を知ることが出来て良い。」

「テーマを細かく設定する回があるとよいと思う。」

「毎回きちんとした目標があって、『今までやってきたこと+今回の目標』を目指してスピーチを作ることができたので、自分の進歩を感じながらスピーチを書くことができた。」

「制限時間は長すぎず、短すぎず、ちょうど良いと思う。どれくらい書けばクリアできるか、オーバーするのかが分かってきた。」

「褒められたら気持ちいいし、全部のスピーチに自信が持てるから、自分が成長している感がある。」

「制限時間が 10 分くらいのスピーチもやってみたい。」

### (2) 授業の進め方について

「ずっと聞いているのもよいが、スピーチが終わってから英語で質問をしてもよいのでは。」

「スピーチのスキルアップはもちろん、リーディングコンテストなどとても楽しいです。」

「モデルスピーチがビデオや DVD で見られるのは参考になります。」

### (3) やってみたいこと (要望)

絵本の読み聞かせ活動、インタビューなど複数の人数で行う発表、英語の歌、アフレコ、英語劇、ディスカッション

### (4) その他 (感想)

「ようやく人前でスピーチするのも慣れてきて、声を変えたりとかそういうことに気を配れるようになってきていて楽しいです。自分がスピーチすることだけでなく、他の人のスピーチを聞くことから得られるものは多くて、周りのみんなも回を重ねるごとに構成がしっかりしてきたり、話し方に抑揚がついて来たりしているので、負けないように頑張りたいと思います。」

「スピーチを毎週作るのは大変ですが、作文の力や、習った構文・単語・熟語を実際に使う力がつくので、とても楽しいです。また、他の人のスピーチも聞くので、長い文章を集中して聴く力もつきそうです。今までのスピーチの中で、リスニングに集中できずにボ

一としてしまうこともあったので、今後気を付けるようにします。過度な緊張はだんだん無くなってきました。けど、9人しかいないというのも助けになっています。クラス一杯に人がいたら、まだまだ手が震えてきそうです。」

「気軽に英語に触れる雰囲気良かったです。英語は慣れが重要なので、このような授業が受けられて幸せです。」

「みんながスピーチを重ねるごとに上手くなってすごいです。」

「毎回スピーチというのは大変かと思っていたが、少人数ならではの楽しさみたいなものがあって、まったく苦になっていないです。もっともっと自分を磨いてゆきたい。」

### 5.3 平成21年度参加者からのフィードバック2（補助資料7参照）

平成21年12月3日に実施。授業に対する主要な意見を記す。

#### (1) 授業の教材について

全国高等学校英語スピーチコンテスト参加者のスピーチは、年齢も近いこともあり親しみが湧き、その分刺激も受け勉強になったという意見が一番多かった。指導者やゲストスピーカーによるモデルスピーチでは、スピーチ後に質問する機会を設定したことで、学習者が普段直面する問題や課題のヒントが得られたという回答があった。政治家や有名人によるモデルスピーチは勉強になる一方で、発見した事柄が自分のスピーチに生かせるまでには至らなかったと回答している。

#### (2) 授業の構成について

MCの役割分担に関する意見が多数あり、学習者全員に回るように予め順番を決めておくべきであるという助言であった。また、授業の最後に行う「全体のまとめ」の活動時に、スピーチで工夫した点を話者や聞き手の双方の観点から全体で評価し合っても良いのではという助言があった。

#### (3) スピーチの段階的テーマについて

多くの学習者から肯定的な回答を得られた。2つの代表的な意見は、「段階を踏んで進歩しているという自覚を持ちながら取り組むことが出来た。」と「毎回前時までに学んだことを全て存分に使おうと心掛けたのでとても良かった。」というものであった。一方で、「言葉を生かせ」のテーマが抽象的で分かり難いという意見や、スピーチの組立についてもう少し詳しく指導して欲しかったという要望もあった。

スピーチ以外の活動については、全員が楽しい活動であり、今後も継続を強く望むと回答している。特徴的な意見として、「新たな自分を発見した」活動であったとか、「自分の実力が開花した」活動であったというものがあつた。助言としては、活動の実施時期をもっと早めるべきであるとか、回数をもっと増やすべきであるというものがあつた。

#### (4) スピーチについて

制限時間は適切であり、スピーチを構成する際の目安となりとても役立ったという意見が多数を占めた。また、Timerが提示する時間経過カード（例えば、制限時間5分のスピーチであれば、4分の経過を示すグリーンカード、4分30秒の経過ではイエローカード、5分の経過を示すレッドカード）が有り難いシステムであった。MCによる紹介では、話

者の近況を知って話者と聞き手の距離が縮まり、すんなりとスピーチを聴くことが出来て良かった。準備スピーチは、他人からの評価や他人への評価を行うので刺激的であったという回答があった。

#### (5) 役割分担について

スピーカーになる回数が多いと感じたが、振り返ってみると数を重ねることでスキルが向上し、成長できたという意見が半数以上を占めた。MC は、どんどん生徒に回して、台本もない中で英語をしゃべることを学ぶ機会を設けた方が良いという助言があった。

#### (6) スピーチのフィードバックや評価方法について

指導者や他の生徒からの評価やコメントは、自分が気付かない点を指摘されるので参考になったという意見が多数を占めた。また、自分のスピーチの様子を DVD で見ることは指摘されたものを再確認できて有益であると指摘している。評価方法については、聞きながらメモを取り、スピーチ後にまとめる作業は大変でスピーチに集中できないので、観点別5段階に評価する方法（補足資料4参照）の方が、評価する方の負担も重くならずが良いという意見もあった。負担の解決方法の一つとして、スピーチ後英語でコメントを言い合うという助言があった。

#### (7) その他（意見&感想）

2人の学習者の意見をそのまま紹介する。

「この1年間で、すごく自分が成長できたと思います。ティータイムも含め、雰囲気の良いこともあり、授業を非常に楽しめました。普段文法や単語をやっていただけでは、なかなか気付かなかったのですが、英語はホントに『道具』にすぎないのだ、ということ学びました。内容があってこそそのスピーチだなと。スピーチの構成の仕方、ジェスチャー、気持ちの入れ方等、何度も場数を踏まないと分からないので、このクラスでそれを学び磨くことが出来て良かったです。クラスが少人数だったのも幸いでした。1人1人を理解し、個性や特徴を持ち味にして、成長できたので、前向きに英語に取り組めました。私は、将来外国に行きたいなあと思っていた程度だったのですが、今は『大学に行ったら絶対外国に留学する!』と思うようになりました。」

「まず、このクラスを取って本当に良かったと思います。毎回、どんな話をすれば皆が興味を持ってくれるかというテーマ選びから始まり、インパクトあるスタートの仕方、分かりやすくまとめた構成、印象に残る結論を考えるのが楽しかったです。また、自分が作るだけでなく、仲間のスピーチ、先生の見本を聞くことで、新たな発見ができ、学ぶことが多くて、自分のスピーチに取り入れていきたいなと思うことも沢山ありました。これからこのクラスで身に付けたことを生かして行けたらいいなと思います。」

## 6. まとめ

学習者からの授業アンケートに対する回答と、授業中に観察した学習者の反応をもとにして、過去2年間の授業の成果と改善点を検討する。

授業の理念と原則は概ね学習者に理解され、授業参加態度に反映されていた。「和やかで楽しい」と学習者が感じられる学習環境を創造し、「聞く側の好意的な態度」が話者の心理

的負担を緩和し、学習者がそれぞれの個性と創造力を発揮できる程よい競争意識が醸し出せたのではないだろうか。

授業構成と展開については、ほとんどすべての学習者から肯定的回答が得られた。特に、段階的に難易度が上がる課題内容と評価スピーチは好評であった。改善点としては、準備スピーチ後、発表内容についての話者の意図をより深く理解するために、話者と聞き手との質疑応答時間を設定することである。質疑応答場面を設定することで、高等学校学習指導要領にある「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」(文部科学省, 1999, p124) という目標を具現化することにもつながるであろう。

スピーチの回数や制限時間については問題が無いようである。役割分担については、平成 21 年度では、ほぼ毎回授業者が MC を担当してしまったので、学習者に役割を委ねるよう工夫すべきである。そうすることで、平成 21 年度授業アンケートの回答の中にあるように、「台本もない中で英語をしゃべることを学ぶ機会」、言い換えれば、高等学校学習指導要領解説にある「話す内容を生徒自身が考え出し、整理して、聞き手に効果的に伝えることができる指導」(文部科学省, 1999, p126) の実践になるであろう。

活動内容については、発表活動を多様化してきた。平成 21 年度では、スピーチ、音読コンテスト(読み聞かせ)に加えて、童話音読コンテスト、トール・テール(ほら吹き)コンテスト、インタビュー番組作成活動を実施した。インタビュー番組作成活動は、極めて好評で、実施時期を早めると共に、回数を増やしてほしいという要望が多かった。その理由としては、一人で人前で話すことの心理的な圧迫が軽減し、自分以外の人になりきることができ、「自己発見」になる創造的活動であるからとアンケートで回答している。今後は、二人以上で行う活動、例えば、学習者からの要望にもあったように、映画のアフレコ、スキット(英語劇)作成も検討してゆきたい。

学習活動については、ゲストスピーカーの招聘回数と指導者によるモデルスピーチ回数を増やすことで、生のスピーチを体感させ、より身近で、具体的なスピーチの理想像をイメージし易くさせるように努めて行きたい。同時に、過去 2 年間の知的財産である録画した学習者による発表を活用し、同期の学習者だけではなく、過去の同世代の学習者の発表の様子を視聴させることで、多様な刺激を与え、程よい向上心や競争心を駆り立て、学習活動へのプラスの効果を期待したい。活動の動機付けについてさらに加えれば、学習成果発表の場として、学校際への参加を活動の中期的目標として掲げ、より多くの人に日頃の成果を見てもらい、外部からの客観的な視点からのフィードバックを提供してもらい、その後の学習・発表活動に生かしたい。

学習者の人数は、毎回全員が発表活動を行うことを考慮すると、10 人から 15 人が理想であろう。平成 20 年度のように、同じ活動を 2 回 3 回に分けて行くと、発表準備時間の不公平が生じたり、活動の新鮮さや緊張感が薄れたりして、学習者の活動への参加態度に悪影響を及ぼしかねないからである。また、平成 21 年度で実施したように、すべての発表活動を録画し、関連する次の発表活動の準備時間を十分取れるように、出来るだけ早く DVD を人数分ダビングする形式を取るならば、ダビングに要する手間と時間を考えると、10 人程度が適切であろう。

最後に、学習者からの要望が多数寄せられたことは、発表に対する指導者からのきめの細かいフィードバックである。個々の発表に対して毎回フィードバックを与えることは困難なことである。というのは、授業者は授業のスムーズな展開を保証しつつ、すべての発

表をビデオに録画する作業に従事しているからである。如何に撮影作業と批評記述作業を両立させるかが今後の大きな課題である。

#### 引用文献

Graesser, A.C. & Kreuz, R.J. 1993. A theory of inference generation during text comprehension.

*Discourse Processes*, 16, 145-160

Grabe, W. & Stoller, F. L. 2002. *Teaching and researching reading*. Essex, UK: Longman

門田修平、野呂忠司 2001 『英語リーディングの認知メカニズム』 くろしお出版

Krashen, S. D. 1985. *The Input Hypothesis: issues and implications*. Harlow: Longman

文部科学省 1999. 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』 開隆堂

Toast Masters International. 1988. *COMMUNICATION AND LEADERSHIP PROGRAM*.

Toastmasters International. Inc.

Toast Masters International. 1974. *Effective Speech Evaluation*. Toastmasters International. Inc.

津田塾大学言語文化研究所 読解研究グループ 2002. 『英文読解のプロセスと指導』

大修館書店

補足資料1 3年次における選択科目説明会配布資料

科目名：オーラルプレゼンテーション

2年次までに学習したことを更に発展させ、スピーチ、ディスカッション、プレゼンテーションなど、英語による口頭発表を中心に行う。なお授業外での課題（研究・準備）がかなり要求される。

3年総合的な学習の時間・講座概要：

講座名	英語表現
担当者（教科）	江原先生（外国語科）
講座概要	授業をスピーチの発表会と捉えます。はじめにスピーチの基礎を学び、その後段階的目標に沿ったスピーチを行います。発表会では、ビジネスセッション（挨拶及び当日の段取りの確認）と準備スピーチ（3～6分）、もしくは、準備スピーチに対する評価スピーチ（1～2分）を計画しています。会の司会進行、タイムキーパーを含め、すべてを皆さん自身で行うことを目指します。会の使用言語は、90%が英語です。
備考	受講者15名程度を希望。デジタルカメラ、デジタルテープ、テレビ、ビデオ・DVDデッキ（外国語科の備品を使用します）。

補足資料2 準備スピーチを対象にしたフィードバック用紙

Date:..... Name:..... Speaker's name:.....

**Strong points**

.....

.....

.....

.....

.....

**One suggestion for improvement**

.....

.....

### Feedback from the Participants in Oral Presentation

今後の授業の参考にするため、みなさんからの授業に対する意見を聞かせて下さい。

1. 授業の教材について

- (1) オリエンテーションで使用した Toast Masters' Club 紹介 DVD & Toast Masters Club の活動ビデオ & 全国高等学校英語スピーチコンテスト DVD
- (2) 教科書(*Communication and Leadership Program & Effective Speech Evaluation*)
- (3) モデルスピーチ(チャップリンの演説 in *Dictator*. King 牧師の演説 & Obama's victory speech)
- (4) Instructor's demonstration speeches & Guest Speaker (Mr. Umemoto)

特に役に立った教材は何ですか (複数回答可能) : \_\_\_\_\_

その理由は : \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

2. 授業の構成について

授業の展開 :

- (1)本時の概要説明 (当日の予定、スピーチの課題、役割の確認) (2) MC 挨拶 & Timer の役割説明 (3) Prepared Speeches (4) Evaluation Speeches (5) 全体のまとめと次回の予告。他に何か意見があれば聞かせて下さい。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

3. スピーチの段階的テーマについて

- (1) The Ice Breaker (アイスブレイカー) 自己紹介。人前で話すことを経験。
- (2) Be In Earnest (自分の熱意や信念を人々に伝えよ) 緊張のコントロール。
- (3) Organize Your Speech (スピーチを組み立てよ) 自分の考えを論理的に順序つける。
- (4) Show What You Mean (身振りで示せ) 効果的な身振り・手振り・タイミングを意識。
- (5) Vocal Variety (声を豊かに) 声の強弱・高さ・速さ・質の使い方を知る。
- (6) Work With Words (言葉を生かせ) 正しい言葉を選び、言葉の間違いをなくす。
- (7) Apply Your Skills (学んだ話術を駆使せよ) 今までの復習、学んだ話術の応用。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_



### Evaluation for another example speech

Speaker: .....

Title: Can you really see?

Project for the speech: 'Get comfortable with visual aids'

Please rate the speech in each category.

5= Excellent, 4 = Above average, 3 = Satisfactory, 2 = Should improve, 1 = Must improve

Category

Rating

**Content**

SPEECH VALUE (Interesting, meaningful) 1 2 3 4 5

**Organization**

OPENING (Attention-getting, led into topic) 1 2 3 4 5

BODY OF SPEECH (Logical flow; ideas supported by facts) 1 2 3 4 5

CONCLUSION (Effective, climatic) 1 2 3 4 5

**Deliver**

NOTE DEPENDENCE 1 2 3 4 5

EYE CONTACT 1 2 3 4 5

VOCAL VARIETY 1 2 3 4 5

VISUAL AIDS (Effective, appropriate) 1 2 3 4 5

Strong points:

.....

.....

.....

.....

Suggestions for improvement:

.....

.....

**Oral Presentation (英語表現) 発表プログラム**

皆様のご感想をお聞かせ下さい。今後の活動のアドバイスとして役立ててゆきたいと思っています。

**絵本朗読** (海外で出版され、英語で書かれた絵本の読み聞かせ活動)

**評価スピーチ** (自己や他人のスピーチを評価するスピーチ)

**準備スピーチ** (段階的に掲げられた課題に沿って行うスピーチ)

全体について

**Feedback from the Participants in Oral Presentation**

6.4.09

今後の授業の参考にするため、みなさんからの授業に対する意見を聞かせて下さい。

Class \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

1. スピーチ (Prepared & Evaluation Speeches) について (目的、制限時間等)

.....  
.....  
.....  
.....

2. 授業の進め方について

.....  
.....  
.....  
.....

3. やってみたいこと (要望)

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

4. その他 (感想)

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

Thank you very much for your feedback and suggestions. I'm sure that I will make the best use of what you have mentioned and apply them to make Oral Presentation better and more informative for the future lessons. Nothing is more pleasure than to have such motivated students as you and work together with you. I really appreciated every minute of this class.

Kazuhiro Ehara

**Feedback from the Participants in Oral Presentation**

12.3.09

今後の授業の参考にするため、みなさんからの授業に対する意見を聞かせて下さい。この用紙は江原に直接手渡すか、外国語科前の廊下にある江原のレターケースに入れてください。12月14日(月)までに提出して下さい。 Class Name

1. 授業の教材について

- (1) オリエンテーションで使用した Toast Masters' Club 紹介 DVD & Toast Masters Club の活動ビデオ & 全国高等学校英語スピーチコンテスト DVD
- (2) 教科書 (*Communication and Leadership Program & Effective Speech Evaluation*)
- (3) モデルスピーチ(チャップリンの演説 in Dictator. King 牧師の演説 & Obama's speech)
- (4) Instructor's demonstration speeches & Guest Speakers (Ms. Hirose & Ms. Yamaki)

特に役に立った教材は何ですか (複数回答可能) : \_\_\_\_\_

.....  
.....  
.....

2. 授業の構成について

授業の展開 :

- (1) 本時の概要説明 (当日の予定、スピーチの課題、役割の確認) (2) MC 挨拶 & Timer の役割説明 (3) Prepared Speeches or Evaluation Speeches (4) 全体のまとめと次回の予告。何か意見があれば聞かせて下さい。

.....  
.....  
.....

3. スピーチの段階的テーマについて

- (1) The Ice Breaker (アイスブレイカー) 自己紹介。人前で話すことを経験。
- (2) Be In Earnest (自分の熱意や信念を人々に伝えよ) 緊張のコントロール。
- (3) Organize Your Speech (スピーチを組み立てよ) 自分の考えを論理的に順序つける。
- (4) Vocal Variety (声を豊かに) 声の強弱・高さ・速さ・質の使い方を知る。
- (5) Work With Words (言葉を生かせ) 正しい言葉を選び、言葉の間違いをなくす。
- (6) Apply Your Skills (学んだ話術を駆使せよ) 今までの復習、今まで学んだ話術の応用。
- (7) Make it persuasive (説得力を持って話せ) 聴衆の興味や感情に直接訴えるスピーチを学ぶ。

.....  
.....

上記以外の活動

- (8) 聞かせ読み
- (9) 童話聞かせ読み
- (10) インタビュー番組制作

.....

.....

.....

4. スピーチ (Prepared & Evaluation Speeches) について (MC の紹介、制限時間等)

.....

.....

.....

5. 役割分担 (MC, Timer, Prepared Speaker, Evaluation Speaker) について、特にスピーチ回数や新たな役割の提案等

.....

.....

.....

.....

6. スピーチのフィードバックや評価方法について (指導者から & ジャッジシート等)

.....

.....

.....

.....

7. その他 意見&感想

.....

.....

.....

.....

.....

.....

Thank you very much for your feedback and suggestions. I'm sure that I will make the best use of what you have mentioned and apply them to make Oral Presentation better and more informative for the future learners. Nothing is more pleasure than to have students like each of you. I really appreciated every minute of this class. I have already missed you. I wish you good luck and hope to see you soon.

Kazuhiro Ehara

## 研究紀要 第51卷

平成22年(2010)2月9日 印刷

平成22年(2010)2月10日 発行

発行所 筑波大学附属高等学校  
(代表 新井 邦二郎)  
〒112-0012  
東京都文京区大塚1-9-1  
TEL 03-3941-7176

印刷所 有限会社 甲文堂  
〒112-0012  
東京都文京区大塚3-5-9 住友成泉ビル  
TEL 03-3947-0844

(非売品)